

YAMAHA

TQS FM TONE
GENERATOR

取扱説明書 2 〈シーケンサー編〉

取扱い説明書の読み方

表 題	主 な 内 容	はじめてシーケンサーをお使いになる方	ある程度使いこなしている方
第1章 シーケンサーを使おう	シーケンサーとはどんなものか、TQ5のシーケンサーでどんなことができるのかについて説明してあります。	必ずお読みください。	特にお読みになる必要はありません。
第2章 演奏をそのまま録音する (ノーマル録音)	TQ5の鍵盤を弾いて録音する方法と再生の方法について説明してあります。	必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
第3章 音符をひとつずつ録音する (ステップ録音)	音の長さ、高さをひとつずつ指定して録音する方法と再生の方法について説明してあります。	ステップ録音をする方は必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
第4章 ソングの登録	録音したソングに名前やテンポ、音色、発音数などの設定を登録する方法について説明してあります。	録音した方は必ずお読みください。	必要に応じてお読みください。
第5章 マルチトラック録音に 挑戦	複数のトラックを使った録音のしかたについて説明してあります。トラックとはどういうものか、録音する音色の選び方について解説してあります。	ノーマル録音または、ステップ録音をマスターしてからお読みください。	必要に応じてお読みください。
第6章 録音の設定とカード	メモリーの概略と録音条件の設定、カードの使い方について説明してあります。	必要に応じてお読みください。	必要に応じてお読みください。
第7章 演奏データの編集	録音後の演奏データ修正と編集のしかたについて説明してあります。	データの編集をするときにお読みください。	必要に応じてお読みください。
第8章 シーケンサーとMIDI	他のMIDI楽器と組み合わせでの使い方について説明してあります。	TQ5だけで使うときには、お読みになる必要はありません。	必要に応じてお読みください。
第9章 資料編	トラブルの対処法やMIDIについての資料などをまとめてあります。	必要に応じてご覧ください。	必要に応じてお読みください。

※ほとんどの章の終りにはその章のまとめを載せてあります。まとめを読めばTQ5の概要を理解できます。TQ5を使いこなした方のちょっとした手引になっています。

シーケンサー編目次

取扱説明書の読み方	
目次	i
第1章 シーケンサーを使おう	1
シーケンサーとは？	2
テンポコントロールが簡単にできる	2
納得がいくまで録音・再生	2
別の音で再生できる	2
TQ5のシーケンサーの特長	2
シーケンサーの入口	3
入口はSEQ/PLAY	3
出口はEXIT	3
スイッチの使い方	4
録音のしかた	6
(1)ノーマル録音	6
(2)ステップ録音	6
どのくらい録音できる？	6
この章のまとめ	7
第2章 演奏をそのまま録音する(ノーマル録音)	9
録音前の準備(ノーマル録音)	10
接続	10
シーケンサー機能への切り換え	10
録音する曲の選択	10
録音条件の確認	11
録音待機	11
拍子を決める(Beat)	12
テンポを決める(Tempo)	12
録音開始小節の確認(Measure)	12
ソングの時間を計る	12
音色とトラックを選ぶ	14
表示された音色	14
音色の割り振り(パートタイプの選択)	14
録音トラックの選択	15
音色の選び方	16
録音の開始	18
録音のしかた	18
録音の停止	19
曲の途中から録音するには(継続録音)	20
再生のしかた	21
再生の開始	21
トラックの確認	21
再生のテンポ	21
音色をかえる	22

	再生の停止	22
	ソングの時間を計る	22
	録音の途中でまちがえたら(消去)	23
	もう一度録音し直す	23
	録音を消す(ERASE).....	24
	指定したトラックの一部だけを消す	26
	1曲まるごと消す(ソングクリア)	27
	この章のまとめ	28
第3章	音符をひとつずつ録音する(ステップ録音)	29
	接続のしかた	30
	シーケンサー機能への切り換え	30
	録音する曲の選択	30
	録音方法の指定(RECORD MODE)	31
	ステップ録音の指定	31
	録音条件の確認	32
	録音待機	32
	拍子を決める(Beat).....	32
	録音開始小節の確認(Measure).....	32
	音色とトラックを選ぶ	33
	表示された音色	33
	音色の割り振り(パートタイプの選択)	33
	録音トラックの選択	34
	音色の選び方	35
	録音の開始	37
	録音のしかた	37
	録音の終了	38
	音符の録音方法	39
	録音の基本操作	39
	音符(音の長さ)を決める	39
	音の高さ決める(鍵盤を弾く)	40
	音の強さを決める	40
	タイミングを決める	41
	音の長さの選び方	42
	同じ長さの音符のとき	42
	4分音符から32分音符(♪♪♪♪).....	42
	2分音符と全音符(♪。)	42
	符点音符(♪♪)	43
	3連符(♪♪♪)	44
	タイ(♪_♪).....	45
	テヌートとスタッカート(音符を伸ばす、短く切る).....	45
	和音の録音	46

小節の指定	46
休符の録音	47
休符の指定(rest)	47
録音位置を移動する(◀▶キー)	47
カーソルキーの使い方	48
音符の長さを変える	48
録音位置の移動	48
録音の途中でまちがえたら	49
訂正のしかた	49
鍵盤を弾く前に気づいたら	50
ステップ録音の実例	51
録音してみましょう	51
再生のしかた	55
再生の開始	55
トラックの確認	55
再生のテンポ	55
音色をかえる	56
再生の停止	56
この章のまとめ	57
ノーマルカステップか?	58
第4章 ソングの登録	59
ソングの登録とは	60
登録できる内容	60
ソングネームとテンポ	61
曲にタイトルをつける(Name)	61
テンポを覚えさせよう(Tempo)	62
音色の登録	63
録音した音色で登録する	63
録音後に音色を変える	63
曲の途中で音色を切り換える	65
音色の切り換え	65
「音色の切り換え」の消し方	67
登録の前に	67
エフェクトをかけよう	68
エフェクトの設定方法	68
ソングの登録(STORE)	69
登録のしかた	69
この章のまとめ	70

第5章	マルチトラック録音に挑戦	71
	8トラックシーケンサー	72
	トラックとは	72
	マルチモードとマルチトラック	72
	パートタイプで楽器の編成を選ぶ	74
	パートタイプの選択	74
	パートタイプとトラック	75
	楽器の編成を変更する	77
	楽器の編成を変える(音色の選び方)	77
	発音数の割り振り	78
	録音のしかた	79
	マルチトラックの録音	79
	トラックスイッチの使い方	79
	マルチモードとパートタイプ	81
	マルチトラック録音の実際	82
	録音前の準備	82
	4パートにチャレンジ	82
	ベースパートの録音	83
	ピアノパートの録音	84
	ハーブパートの録音	86
	再生のしかた	88
	音色を変える	88
	この章のまとめ	89
第6章	録音の設定とカード	91
	メモリーについて	92
	シーケンサーのメモリー	92
	メモリー残量の確認	92
	録音条件の設定	94
	録音の条件を決める(Condition)	94
	メモリーを節約しよう!	94
	アフタータッチの設定(A.touch)	95
	イニシャルタッチの設定(Velocity)	95
	メトロノームの設定(Metronome)	95
	同期(Sync)	95
	カードのフォーマット	96
	フォーマットのしかた	96
	演奏データの保存(カードへのセーブ)	98
	セーブの手順	98

	演奏データの呼び出し(TQ5へのロード)	100
	ロードの手順	100
	演奏(再生)のしかた	101
	この章のまとめ	102
第7章	演奏データの編集	103
	演奏データの修正と編集	104
	重ね録音のメリット(オーバーダビング機能)	104
	データ変更の種類	104
	ステップ録音による修正	105
	修正の手順	105
	ステップ録音の呼び出し	105
	データの修正方法	105
	ノーマル録音をステップ録音で修正	106
	ステップ録音にコントローラを重ねる	106
	タイミング補正機能(クオンタイズ)	107
	タイミング補正の方法	107
	パンチ録音	109
	パンチ録音とは	109
	パンチ録音の準備	109
	パンチ録音の指定	110
	録音小節の指定	111
	パンチ録音の音色	112
	パンチ録音の開始	112
	パンチ録音の終了	112
	編集機能の選び方	113
	トラックごとの消去(ERASE)	114
	演奏データの複写(COPY)	116
	小節の削除(DELETE)	118
	演奏データの挿入(INSERT)	120
	トラックの合成(TRACK MIX DOWN)	122
	マルチトラック編集の実例	124
	続きをつくる(コピーの活用)	125
	ステップ録音で修正する	128
	イントロをつけよう(インサートの活用)	131
	不要なデータの消去(イレースの活用)	133
	この章のまとめ	135
第8章	シーケンサーとMIDI	137
	シーケンサーとMIDI	138
	外部MIDI楽器を自動演奏する	139
	接続	139

MIDIチャンネルの設定	139
最大発音数を有効に使う	140
外部MIDI楽器で録音しよう	141
接続	141
MIDI受信チャンネル	141
外部MIDI楽器と同期演奏する	143
TQ5がマスターになるとき	143
接続と設定	143
演奏方法	143
リズムマシンがマスターになるとき	143
接続と設定	143
演奏方法	144
演奏データの転送(MIDI BULK)	145
MIDIチャンネルの設定	145
演奏データの受信	146
演奏データの送信	147
この章のまとめ	148
第9章 資料編	149
故障かなと思ったら	150
MIDIデータフォーマット	151
MIDIインプリメンテーションチャート(シーケンサー)	154
索引(50音順)	155
索引(アルファベット順)	160
サービスについて	162

第1章 シーケンサーを使おう

シンセサイザー編で、TQ5の音源モジュールとしての基本的な使い方はマスターできたと思います。本書ではTQ5のもうひとつの大きな機能、シーケンサーについて説明します。この章ではシーケンサーとはどんなものかについて説明します。

シーケンサーは演奏を記憶して、自動演奏を行なう機能です。シーケンサーを使えば、一人でオーケストラを自由にあやつることができます。

シーケンサーの使い方をマスターしてTQ5の可能性をさらに広げてください。

シーケンサーとは？

シーケンサーとは、シンセサイザーで弾いた演奏を記録して、いつでも好きなときに再生することができる機能です。TQ5に接続したキーボードで、TQ5を音源モジュールとして使うことは、取扱説明書1の音源モジュール編で説明してきました。この取扱説明書2では、TQ5をシーケンサーとして使う方法を説明していきます。

その前に、シーケンサーについて簡単に説明しておきましょう。テープレコーダーとの違いを比較してみます。

テンポコントロールが簡単にできる

テープレコーダーに録音した演奏を再生するときに、少しテンポを上げたり、下げたりすることはできません。マルチトラックレコーダー（ヤマハCMX100）のように、音楽制作用のテープレコーダーの中には再生スピードを変えることのできる機種もありますが、このときでも再生中にスピードを変えると音程も変わってしまいます。

シーケンサーでは、再生中に自由に録音時のテンポを変えることができるのです。逆に、録音するときには、テンポを少しおそくしておいて、再生するときに好みのスピードにすることだって簡単にできるのです。

納得がいくまで録音・再生

再生したい曲を素早く選曲したいとき。テープレコーダーで、曲の頭出しをするのは結構時間のかかるものです。また、録音する場合、たった1か所を間違えただけでも、全体を録音しなおさなければなりません。もちろんパンチイン機能のついた機種もあります。これなら、ミスをしたところを何度もやり直すこともできます。でもシーケンサーなら、このパンチイン機能も充実しています。音符単位での修正も可能です。ですから、まず全曲をノーマル録音しておいて、間違えたところをパンチイン録音やステップ録音で何度も納得のいくまで手直しできるのです。もちろん録音データはデジタル信号で記憶されますから、何度録音しても、また何度再生を繰り返しても音が劣化することはありません。これもシーケンサーならではの大きな特長の一つです。

別の音でも再生できる

録音したときは、ピアノの音色を使っていた。だから、再生のときもピアノの音しか聞こえない、というのは普通のテープレコーダーの場合。このTQ5のシーケンサー機能を使えば、録音したピアノの音を再生時にはバイオリンに変えてしまう、といった離れ業も簡単にやってのけてしまいます。

TQ5のシーケンサーの特長

TQ5には、いま説明したような特長に加え、アイデアにあふれた曲作りにかかせない多彩なシーケンサー機能を搭載しています。その一部をご紹介します。

- ①最大8曲のソングを本体にメモリーできます。RAMカードを使えば、オリジナルソングを無限に保存しておくこともできます。
- ②それぞれの曲に好きなタイトルをつけておくことができます。
- ③演奏データを編集（コピー、削除、挿入など）する機能も充実。かなり高度なエディットにも対応できます。
- ④TQ5のシーケンサーは8つのトラックを持っています。TQ5の音源だけを使っても8種類の音色で8つ別々のパートを演奏させることもできます。また、MIDIを使って、TQ5以外の音源を鳴らすこともできます。
- ⑤シーケンサーをピアノの練習に効果的に使うこともできます。例えば、伴奏パートをシーケンサーに演奏させて、アドリブなどのソロを繰り返して練習。また、8つのトラックを有効に使ってオーケストラばりの伴奏をバックに、好きな音色で自由自在にソロプレイを楽しむこともできます。

可能性は、あなたのアイデアでどんどん広がっていきます。実は、このTQ5にあらかじめプログラムされているデモ演奏も、このシーケンサーで制作したものです。TQ5一台でこんなに多彩な音作りができるのです。あなたも、ぜひ挑戦してください。まずは、この取扱説明書2をよくお読みになって、TQ5のシーケンサー機能をしっかりと理解してください。

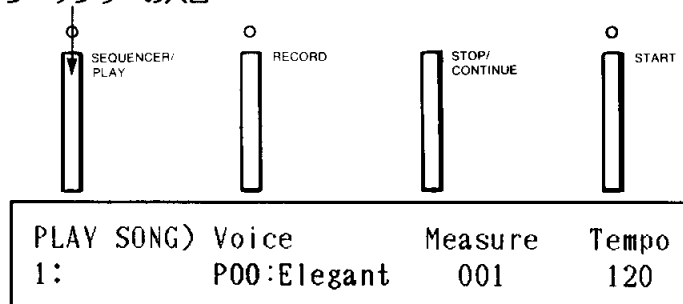
シーケンサーの入口

TQ5は電源を入れたときには、いつも音源モジュールとして機能する状態になっています。
演奏の録音や再生をするには、シーケンサー機能呼び出します。

入口はSEQ/PLAY

シーケンサー機能の呼び出しは、ディスプレイの上のシーケンサー/プレイ(SEQ/PLAY)スイッチを押します。TQ5はシーケンサーに変身します。

シーケンサーの入口



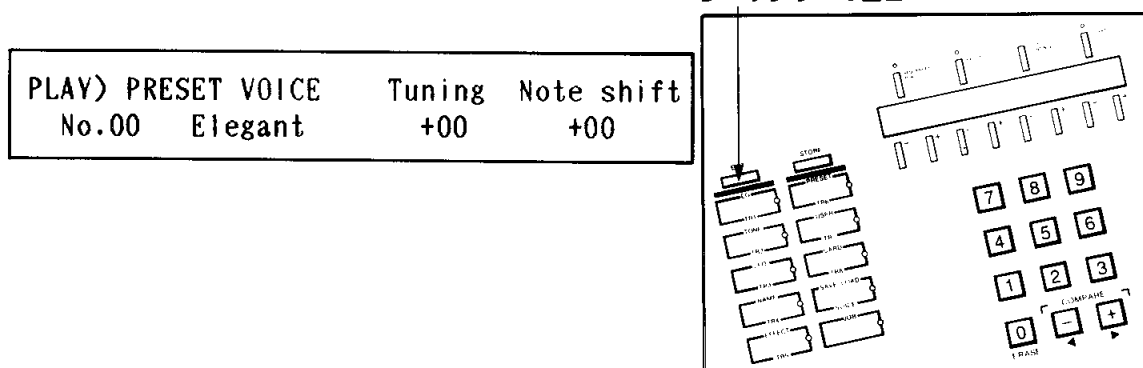
注意

デモンストレーションはシーケンサーの機能ですが、わかり易くするために、特別の操作方法にしてあります。

出口はEXIT

シーケンサー機能から、音源モジュールの機能に戻るときには、パネル左上のエグジット(EXIT)スイッチを押します。

シーケンサーの出口



スイッチの使い方

シーケンサー機能では、音源モジュールとしての機能やエディットのときとスイッチのはたらきや使い方がちがいます。

シーケンサー機能のときの、スイッチの役割について簡単に説明します。

エクジット (EXIT)

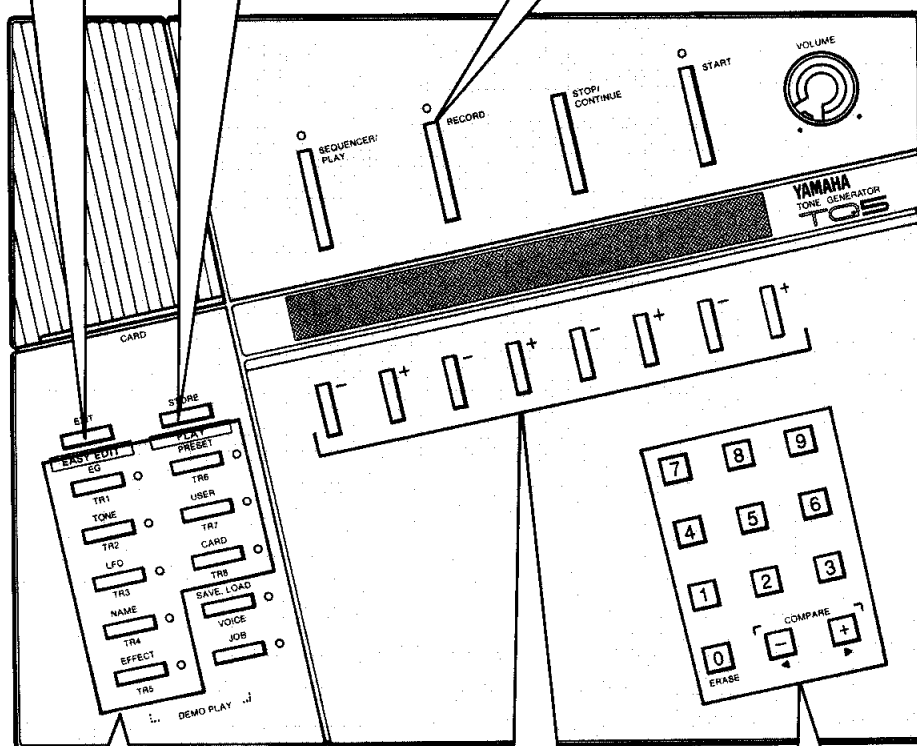
音源モジュール機能に戻るときに押します。

ストア (STORE)

シーケンサー機能のときは使用しません。また押しても何も起こりません。

レコード (RECORD)

演奏を録音するときに押します。
また、録音する楽器の編成 (パートタイプ) を決めるときにも押します。



トラック1~8 (TR1~TR8)

録音・再生するトラックを選択します。
ランプにより、演奏データの有無を確認できます。
緑のときは演奏データが入っています。
緑の点滅では、演奏データが入っているが音を出さない状態、赤のときは録音する状態です。
このスイッチは押すたびに状態が切り替わります。
ランプがついていないときには、演奏データは入っていません。

テンキー、+、- (◀▶) キー
値を入力します。

また、音符を消したり (O=ERASE)、
音符位置の移動に使い、ストップウ
ォッチの表示、リセットの際も使
います (+、-)。

+、-キー

ディスプレイの表示に対して、機能の選択や値を
入力するときに使います。

**ストップ/コンティニュー
(STOP/CONT)**

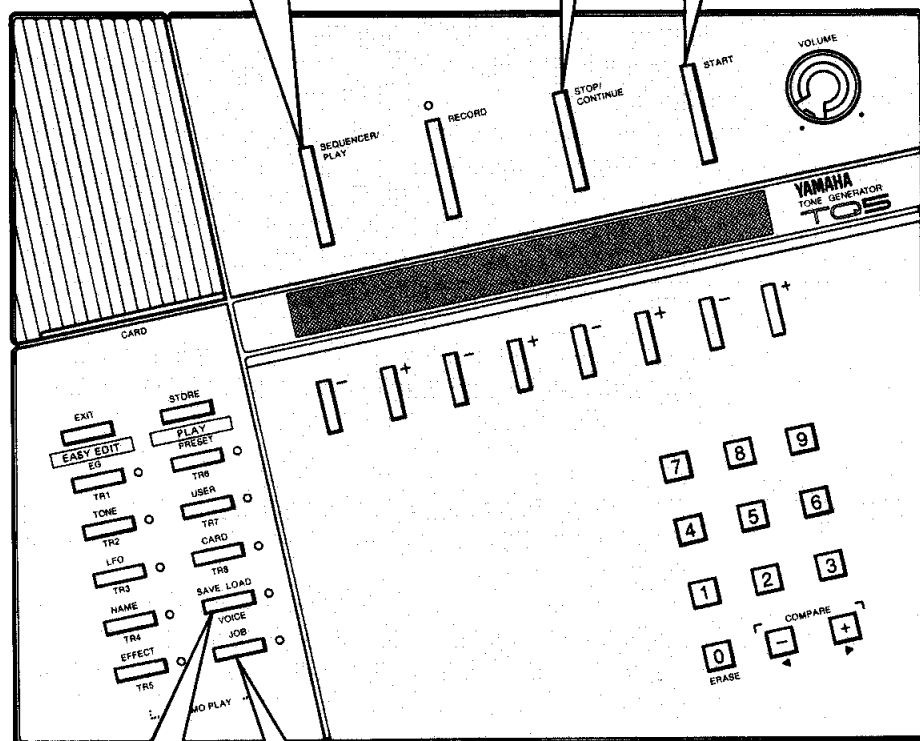
録音・再生を停止させるときに
押します。また曲の途中から録音・
再生するときにも使います。

スタート (START)

録音や再生をはじめる
ときに押します。

シーケンサー/プレイ (SEQ/PLAY)

音源モジュール機能からシーケンサー機能に切り換える
スイッチです。また、録音した曲（演奏データ）を再生
するときに押します。



ボイス (VOICE)

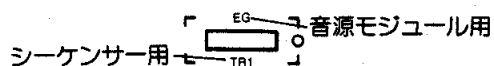
録音や再生する音色や発音数を指定
するときに押します。

ジョブ (JOB)

録音方法、録音の条件の設定や演奏データの編集や
RAMカードへの保存を行なうときに押します。

注意

ディスプレイ左下の10個のスイッチは、音源モジュールとシーケンサーとでは、同じスイッチでも働きが変わります。
シーケンサーを使うときは、スイッチの下側の文字を見てください。



録音のしかた

録音の方法には次の2種類があります。

(1) ノーマル録音

TQ5に接続したキーボードの鍵盤で弾いた通りに録音します。

鍵盤演奏に自信のある方にお薦めです。自信のない方でも大丈夫。テンポを遅くしてゆっくり演奏すればよいのです。録音後に自動演奏（再生）させるときに、テンポを速くすればよいのです。再生するテンポを変えても音程が変わらないのが、シーケンサーの特長でしたね。

→「演奏をそのまま録音する（ノーマル録音）」（9ページ）

(2) ステップ録音

音符や休符をひとつずつ指定していく録音方法です。

例えば、1小節目の1拍目は4分音符の「ド」、2拍目は8分音符の「ミ」といった具合です。ステップ録音は、鍵盤演奏が苦手の人に向いています。

またとても速いフレーズなど、ノーマル録音では録音しにくい譜例も簡単に録音できます。

→「音符をひとつずつ録音する（ステップ録音）」（29ページ）

* ノーマル録音、ステップ録音のどちらか自分にあつた方法で録音してください。2つの録音方法を併用することもできます。例えば、簡単な部分は自分で演奏・録音して（ノーマル録音）、演奏がむずかしい部分だけを、1音符ずつ指定して録音する（ステップ録音）こともできます。

* またノーマル録音の応用として、「パンチ録音」もあります。パンチ録音は既に録音してある曲の一部分を鍵盤で弾いた通りに録音し直す方法です。

→「パンチ録音」（109ページ）

どのくらい録音できる？

最大で別々の演奏を8曲まで録音できます。（8ソング）

それぞれの曲には8つのトラックがあり、8つまでのパートの演奏を録音することができます。

ひとつのトラックには、最大で同時に8和音まで録音できます。

EOS本体の中におよそ10000音符まで記憶できます。

（ただし、全部のトラック、曲の演奏データの合計が10000音を越えることはできません。）

演奏データは、電源を切っても覚えています。

また、本体内の他に別売のRAM（ラム）カードにも演奏データを記憶できます。

1枚のRAMカードには、本体内と同じく、約10000音の演奏データを記憶できます。

RAMカードを増やせば、無限に演奏データを記憶することができます。

注意

およそ10000音とは、もつとも演奏データを多く記憶できるときの音符数です。

音の強さ（ベロシティ）やピッチベンド、モジュレーションホイールなどの情報も合わせて記録した場合には、記憶できる音符数は減少します。

この章のまとめ

[シーケンサーとは]

- ・シーケンサーは、キーボードで弾いた演奏をデジタルデータとして録音し、再生(自動演奏)する機能です。(2ページ)
- ・シーケンサーには次のような特長があります。
- ・鍵盤での演奏を録音できる。
- ・音符を1音ずつ指定しながら録音できるので、鍵盤の演奏が不得意の人でも手軽に作曲や演奏の録音ができます。
- ・録音後に音色を変えたり、演奏データの編集や修正が簡単にできる。
- ・テンポを変えても音程が変わらない。
- ・選曲や曲の途中から録音再生が瞬時にできる。

[TQ5のシーケンサーは]

- ・TQ5のシーケンサーは8トラック。8つのパート演奏を別々に録音して同時に再生できます。(6ページ)
 - ・演奏データは最大8曲、約10000音まで録音できます。(6ページ)
 - ・シーケンサー機能は、SEQ/PLAYスイッチで呼び出し、EXITスイッチで音源モジュール機能にもどります。(3ページ)
 - ・録音には、鍵盤での演奏をそのまま記録する「ノーマル録音」と1音符ずつ音の長さや高さを指定していく「ステップ録音」があります。
- また、既に録音した曲の一部分を録音し直す「パンチ録音」もあります。(6ページ)

第2章 演奏をそのまま録音する (ノーマル録音)

この章では鍵盤で弾いた演奏をそのまま録音する「ノーマル録音」の方法と再生のしかたについて説明します。

「ノーマル録音」では、演奏をテープに録音する感覚で簡単に録音できます。

録音前の準備(ノーマル録音)

鍵盤で弾いた演奏をそのまま録音する方法を「ノーマル録音」といいます。

ここでは、手始めにピアノの音色で演奏して、録音してみましょう。

複数の音色を使った録音(マルチトラック録音)については後で説明します。

テープに録音するときにもテープを巻戻したり録音レベルを決めるように、シーケンサーの録音でも録音前の準備が必要です。

接続

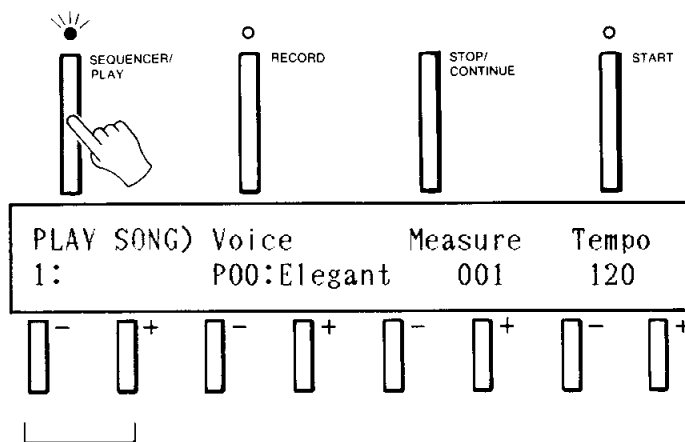
シーケンサーのための特別な接続方法というものはありません。TQ5を音源モジュールとして使う場合と同様に、他のキーボードを接続しておきます。取扱説明書1の接続の仕方を参考にしてください。(→5ページ)

シーケンサー機能への切り換え

ディスプレイの上のSEQ/PLAYスイッチを押します。

この操作で、シーケンサー機能になります。

SEQ/PLAYスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のように表示されます。



このキーでこれから録音する曲を選びます。
曲は1番から8番の8曲があります。

録音する曲の選択

録音の前に、「これから何番の曲を録音するのか」を指定します。

録音する曲(ソング)は「PLAY SONG」の下の方の+、-キーで選択します。

ここではSONG1(1番の曲)を選択しましょう。

ソング番号とソング名

録音する(した)曲をソング(SONG)と呼びます。TQ5は最大で8曲(ソング)まで、録音再生できます。

ひとつひとつのソングには、1から8の番号がついています。また音色と同じように好きな名前をつけることができます。(名前のつけ方は後ほど説明します。61ページ) まだ録音していない曲を選ぶとソングの名前は空白になります。

録音条件の確認

これから録音する曲の拍子やテンポ（速さ）、音色などを決めます。

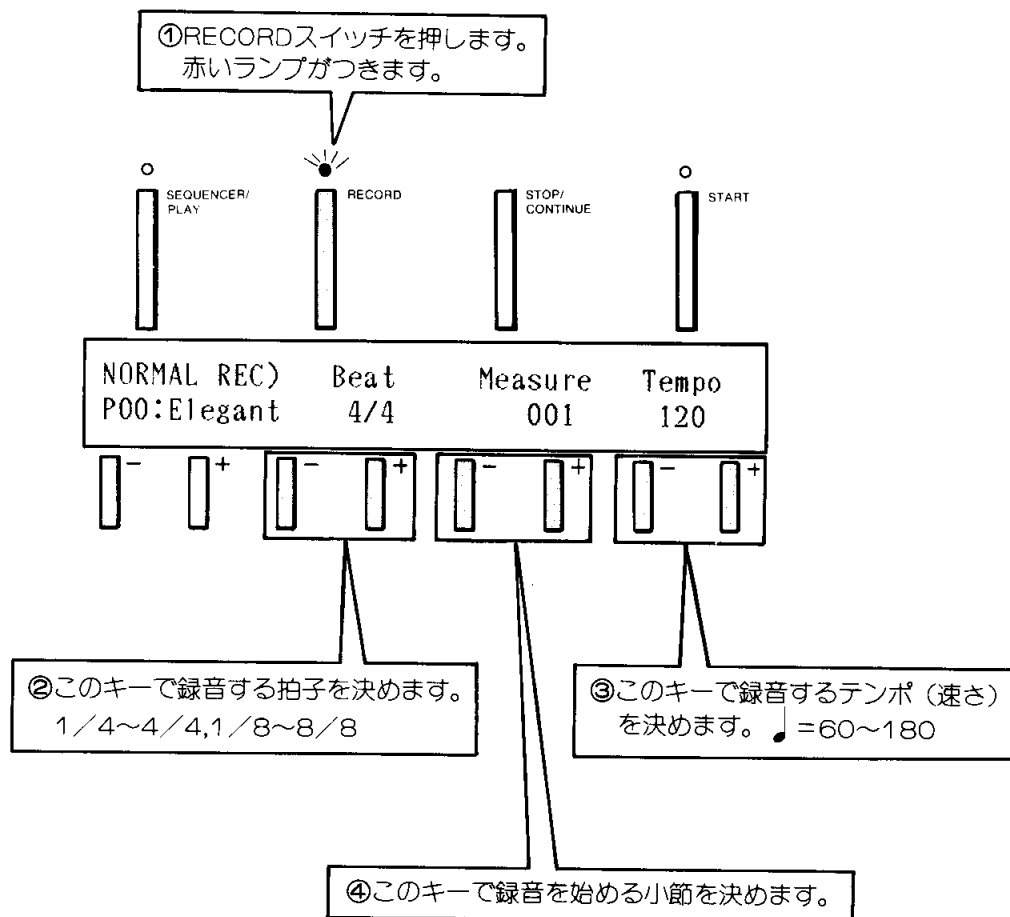
録音待機

録音する曲を選んだらRECORDスイッチを押します。

この画面で拍子やテンポを決めます。この画面の状態を「録音待機状態」といいます。

RECORDスイッチを押します。

RECORDスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のようになります。



注意

ディスプレイ左上に「NORMAL REC」と表示されていることを確認しましょう。

「STEP REC」や「PUNCH REC」と表示されたときには、録音方法が「ステップ録音」や「パンチ録音」になっています。「NORMAL REC」（ノーマル録音）に切り換えてください。（31ページ）

拍子を決める (Beat)

録音する曲の拍子を指定します。

「Beat」の下に+、-キーで変更します。

1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 1/8, 2/8, 3/8, 4/8, 5/8, 6/8, 7/8, 8/8 の順に変わります。

例えば、ワルツを録音するには、3/4を、普通の曲を録音するときには4/4でよいでしょう。

録音後は、トラックのランプが緑色になり、この+、-キーは働かなくなります。

別の録音していないソングを選ぶかソングクリア (27ページ) を行いますと+、-キーは再び働くようになります。

テンポを決める (Tempo)

録音する曲のテンポ (速さ) を決めます。

「Tempo」の下に+、-キーで、速さを指定してください。

この数字は、「1分間に4分音符が何拍分の速さか」を表しています。

数字が大きいほど速くなります。テンポは ♩ = 60~180 の範囲です。

* ここで決めるのは録音するときのテンポです。再生するときのテンポは別に決めます。(21ページ)

* テンポを遅くして録音し、再生するとき速くすることもできます。

注意

メトロノームの音を聴きながらテンポ (速さ) を決めたいときには、STARTスイッチを押してください。メトロノームが鳴りだします。

ただし、このときに鍵盤を弾くと録音されてしまいます。

* メトロノーム音が聞こえないときは、STOPスイッチを押してから鍵盤を弾いてみてください。

音が出ないときには、ボリュームやアンプとの接続を確認してください。

音が出るときには、メトロノームの設定を確認します。(95ページ)

録音開始小節の確認 (Measure)

録音をはじめる小節を決めることもできます。

はじめて録音するときには1小節目から録音しますのでここでは何も指定しません。001のままにしておきます。

既に録音した曲に重ねて録音するときなどに、録音を始める小節を指定します。

注意

曲の途中から録音するときには、録音開始小節を指定した後、STOP/CONTスイッチで録音が始まります。STARTスイッチを押すと1小節目から録音が始まります。

STOP/CONTのCONTとはContinue (コンティニュー) の略で「継続」という意味です。STOP/CONTスイッチを押すと、ここで指定した小節から「継続」して録音します。

ソングの時間を計る

TQ5のシーケンサーには、ソングの長さを計るストップウォッチ機能があります。ソングがノーマル録音状態になっているときに、本体の右下にある+キーを押すと、ディスプレイの表示がつぎようになります。

NORMAL REC)	Beat	Total	Tempo
Poo:Elegant	4/4	00'00 0	120

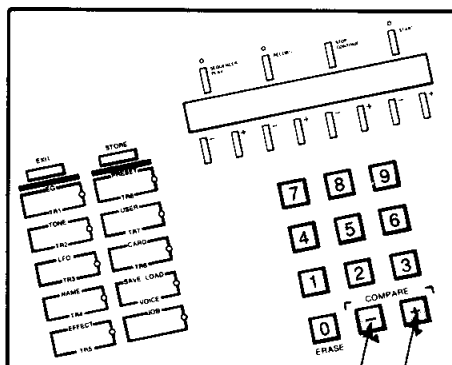
ストップウォッチ表示

録音がスタートすると同時に、計測を始めます。録音が終わると自動的に止まりません。

3,
カウントをリセットしたいときは、本体の右下にある-キーを押します。+キーをもう一度押すともとの画面に戻ります。

NORMAL REC)	Beat	Measure	Tempo
Poo:Elegant	4/4	001	120

このストップウォッチ機能はソングの再生時にも使うことができます。



このキーを押すと、ストップウォッチ機能になります。
このキーを押すと、カウントがリセットされます。

音色とトラックを選ぶ

表示された音色

次に録音する音色を決めます。
ディスプレイ左下に音色名が表示されています。
音色名の下に+、-キーで録音する音色を選ぶことができます。

注意

最初にディスプレイに表示される音色は、選択したソングに登録されている音色です。

選択したソングによっては、和音が出ない、発音数が少ない設定になっていることもあります。「音色の割り振り (パートタイプの選択)」で音色の割り振りを設定してください。

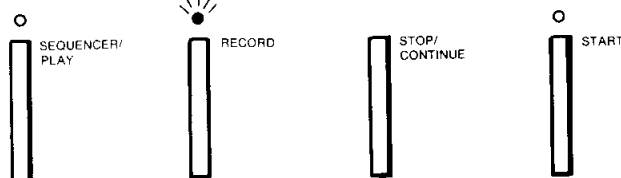
音色の割り振り (パートタイプの選択)

①RECORDスイッチを二度押します。(赤いランプが点灯している場合は、録音待機状態ですので一度だけ押します。)



RECORDスイッチのランプが緑色に変わり、ディスプレイは次のように変わります

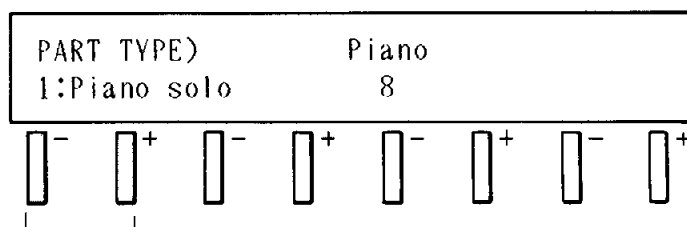
赤いランプから緑のランプに変わります



PART TYPE) Please select part type!
[-] [+]

②PART TYPEの下に+、-キーを押して楽器の編成 (パートタイプ) を選択します。

「1: Piano solo」を選択します。



このキーでパートタイプを選択します。
パートタイプには1から7の7種類あります。

この表示は、「これから録音するのは、ピアノの音色で同時に8和音まで弾けますよ」という意味です。

ピアノではなく「フルートの音色」で弾いてみたい（録音したい）という人も、ここでは「1：Piano solo」を選択してください。後ほど音色を選び直します。TQ5は同時に8和音まで出せます。パートタイプでは、8和音を何種類の音色に割り振るのかを決めると考えてください。

*パートタイプには7種類あり、「1：Piano solo」以外を選ぶといくつかの音色を使って別々の演奏・録音ができます。しかしその分、音色ごとに演奏・録音できる発音数（同時に弾ける和音数）が減ってしまいます。
ここでは、「1：Piano solo」にしておきます。
パートタイプや発音数については後ほど詳しく説明します。（81 ページ）

③設定が終わったら、もう一度RECORDスイッチを押します。

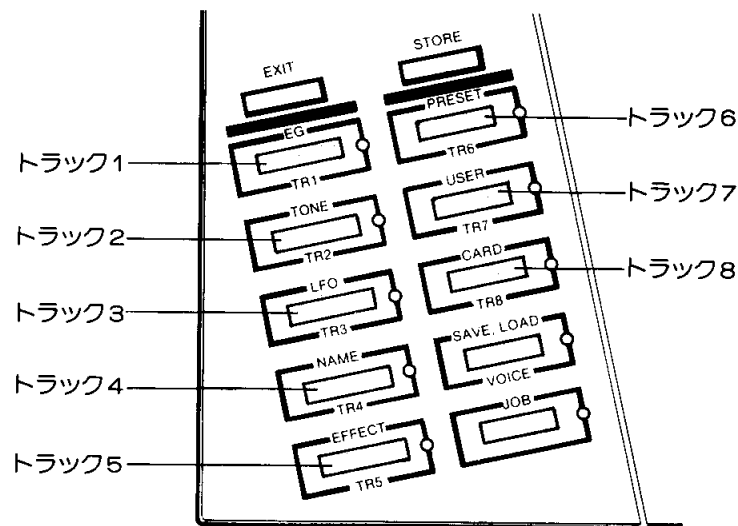
RECORDスイッチのランプが緑から赤に変わり、ディスプレイは録音待機の画面にもどります。

録音トラックの選択

これから録音するトラックを選択します。トラックは1から8までの8つのトラックがあります。

トラックとは演奏を記録する場所のことで、一曲（ひとつのソング）のなかで別々のフレーズ（演奏）を録音することができます。
トラックについてはのちほど詳しく説明します。今は録音場所が8つあるということだけ覚えておいてください。

ディスプレイの右側の「TR1」、「TR2」、と書かれた8つのスイッチがトラックの選択スイッチです。このスイッチを押して録音するトラックを選択します。

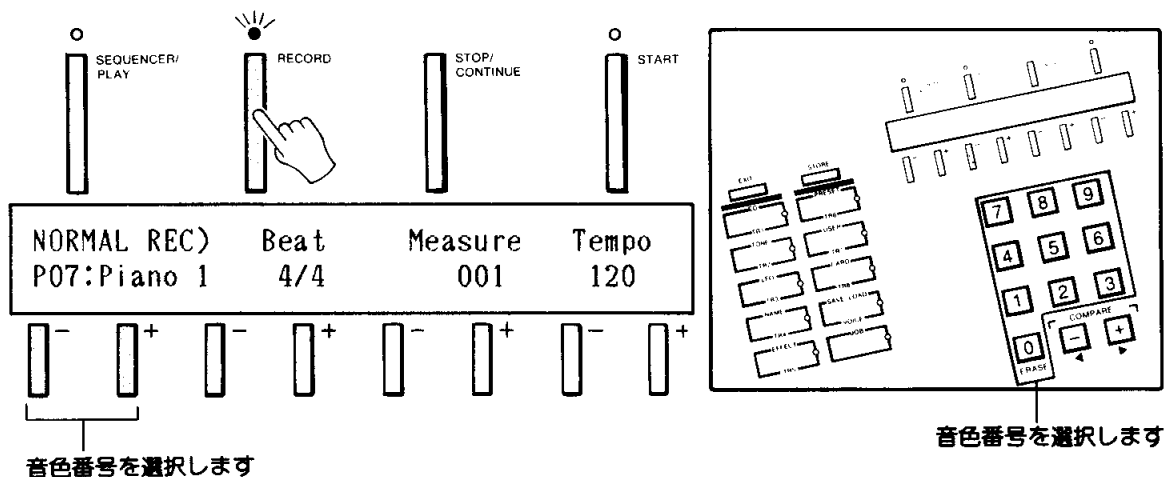


選択したトラックのスイッチは赤いランプが点灯します。
ここでは、トラック1（TR1）を選択します。

*この例ではパートタイプで「ピアノの音色で8和音の録音」と指定しましたので、トラック1以外に録音しても再生できません。
トラック1以外を選択すると「NORMAL REC」の下に「--- : 」と表示されて音は出ません。

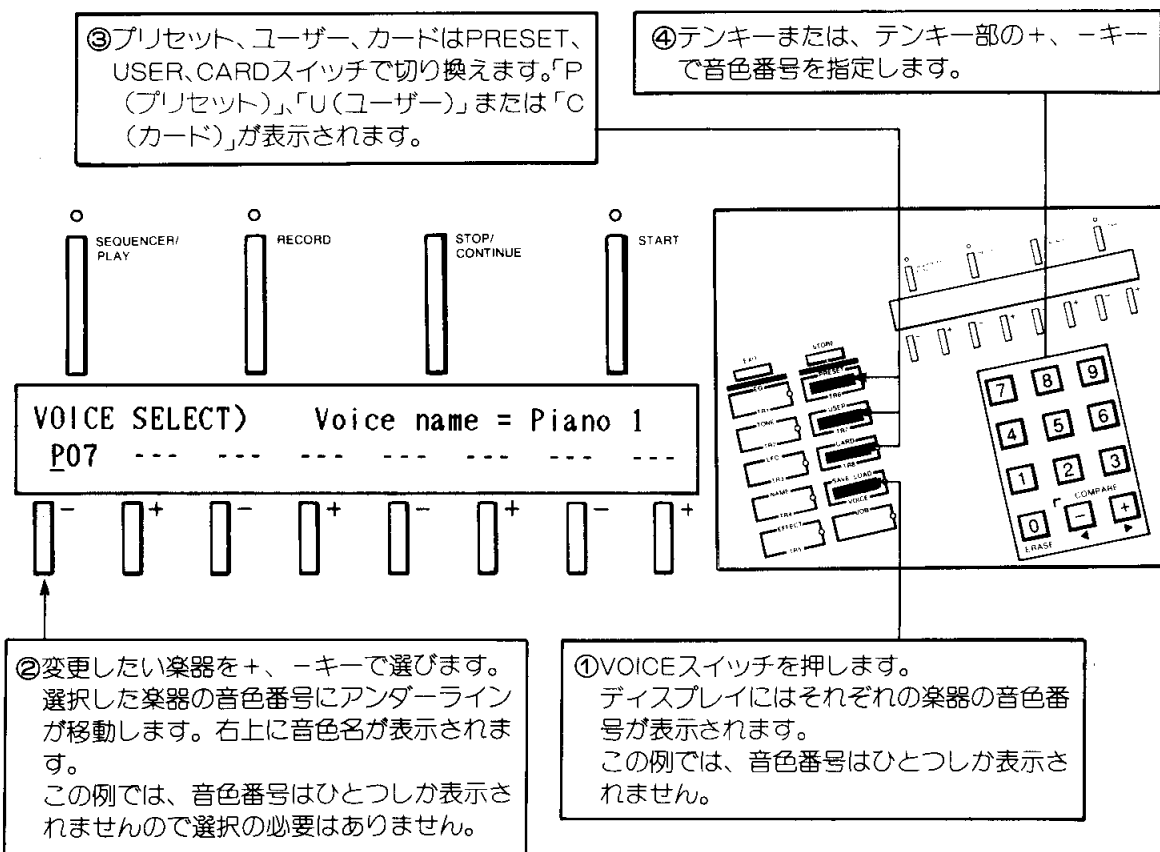
音色の選び方

RECORDスイッチを押します。緑のランプから赤のランプに変わります。
(前ページ③の操作と同じです。)



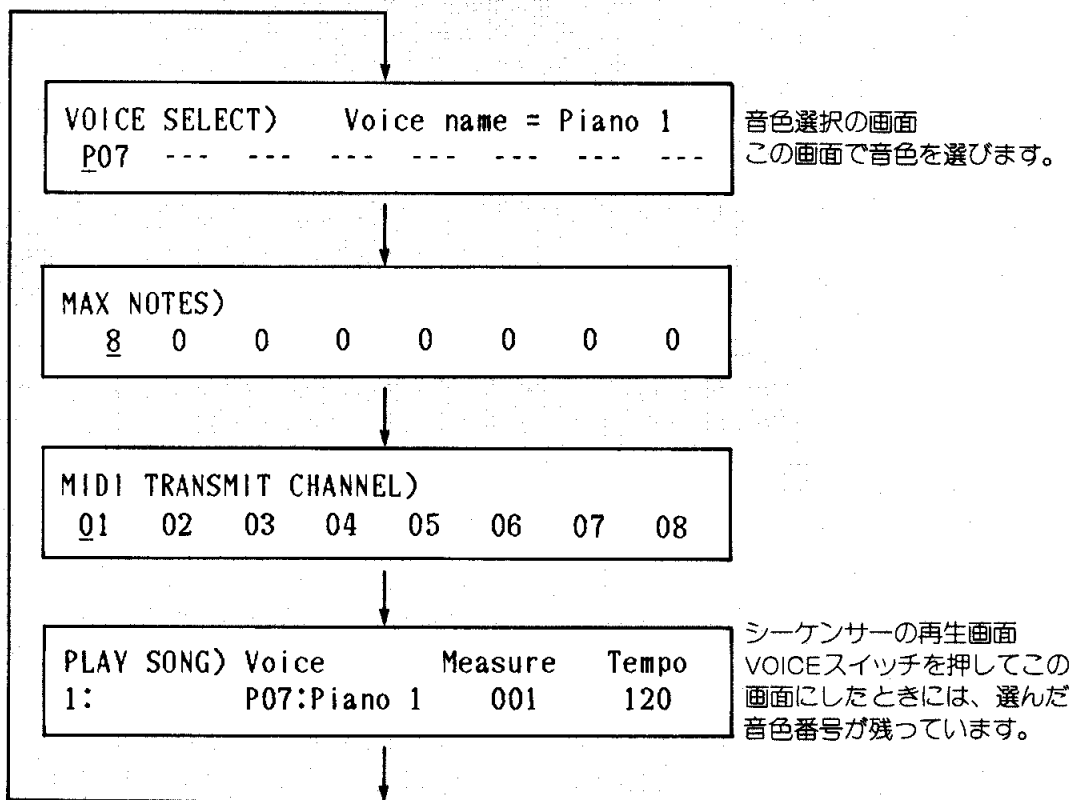
一番左の+、-キーまたはテンキーで音色番号を選択します。

プリセット、ユーザー、カードを切り換えるには、VOICEスイッチを押します。



注意

- ・音色を選んだ後でSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどってしまいます。何も登録していない曲でも初期値の音色になります。
- ・VOICEスイッチを押して、シーケンサーの再生画面にもどしてください。
- ・VOICEスイッチは押すたびに、4つの画面が切り替わります。



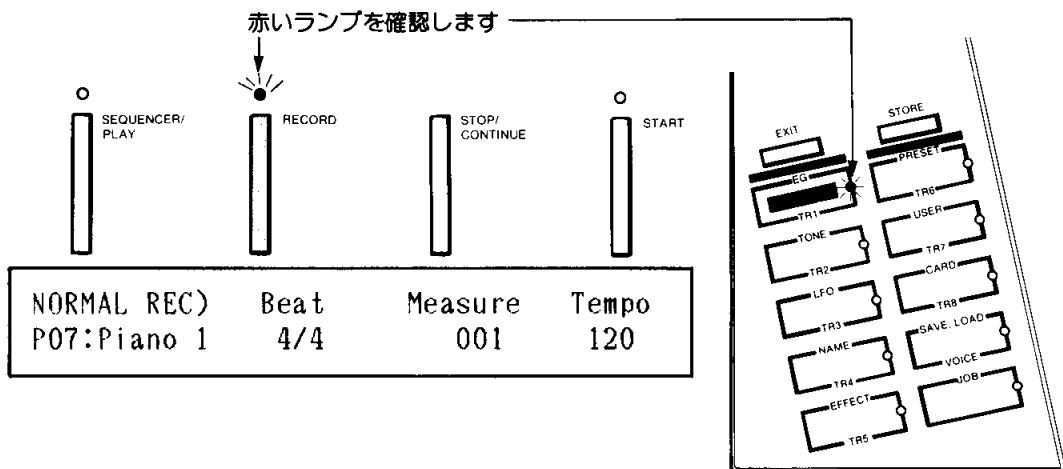
以上で録音前の準備は終了です。さあ、いよいよ録音です。

録音の開始

録音のしかた

①録音待機の画面を確認します。

もし録音待機の画面になっていないときには、RECORDスイッチを押して録音待機の画面を表示させてください。



* RECORDスイッチの赤いランプがついているか確認してください。

緑のランプがついているときは、パートタイプ（音色の割り振り）の状態ですから録音できません。

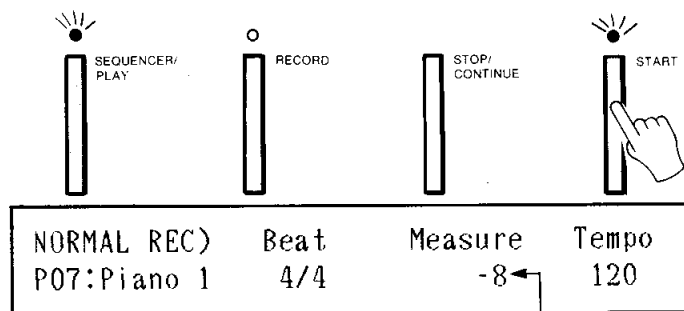
もう一度RECORDスイッチを押してください。

*トラック1「TR1」の赤いランプがついていることも確認してください。

赤いランプがついていないときには、TR1スイッチを押して赤いランプを点灯させてください。

②ディスプレイの上のSTARTスイッチを押します。

STARTスイッチの赤いランプが点灯します。



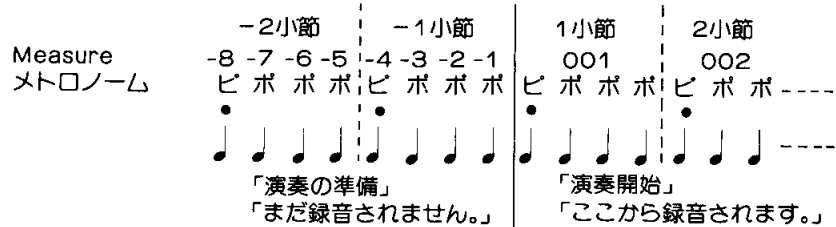
マイナスカウントが表示されます。
001になったら録音をはじめます。

メトロノームが鳴り始めます。

2小節の待ち時間がありますからこの間に、曲の速さ（テンポ）をつかんでください。

ディスプレイの小節数（Measure）にマイナスカウントが表示されます。

拍子 (Beat) が 4/4 のときは、-8 から始まります。この数字が 001 になったら録音できます。



テンポに合わせて、SEQ/PLAYスイッチのランプが点滅します。

③Measureが001になったら、演奏を始めてください。

あなたの演奏がそのまま録音されます。

鍵盤を弾く強さ (イニシャルタッチ) や押し込む強さ (アフタータッチ) で、音量や音色に変化をつけることができます。

ピッチベンドホイールやモジュレーションホイールを操作すれば、その操作も録音できます。

* 「Measure」には小節数が表示されます。

* 録音中に拍子 (Beat) を変えることはできません。

* 録音中にテンポを変えることもできますが、記録されません。

再生のときは、一定のテンポになります。

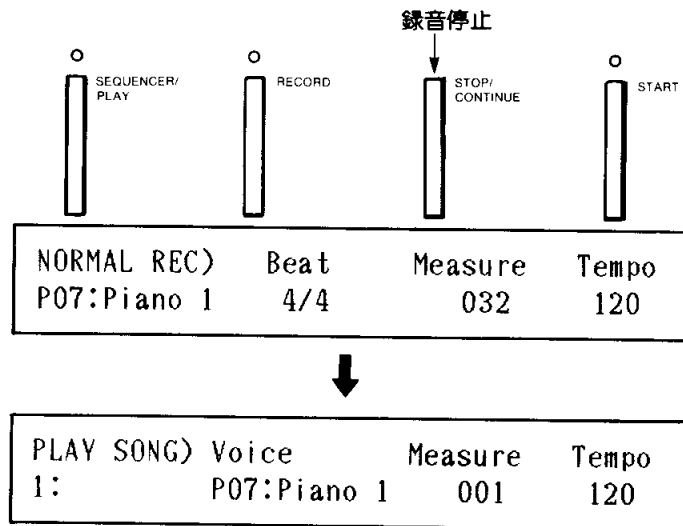
参考

マイナスカウントのときに、音色切り換えやコントロールの情報を録音できます。(106 ページ)

録音の停止

演奏が終わったら、STOPスイッチを押します。

その時点で録音は止まり、ディスプレイは再生の画面に変わります。



*EXITスイッチを押しても、録音を停止できます。ただし、音源モジュール機能に移ってしまいます。

注意

録音中に、録音できる音符数を超えると「Memoryfull」と表示されて、自動的に録音が止まります。録音中に「Memoryfull」の表示が出ると、その演奏は録音されません。

曲の途中から録音するには (継続録音)

曲の途中から録音することもできます。

録音待機状態で、録音を始める小節を指定します。(11ページ)

STOP/CONT (ストップ/コンティニュー) スイッチを押すと、指定した小節から録音できます。

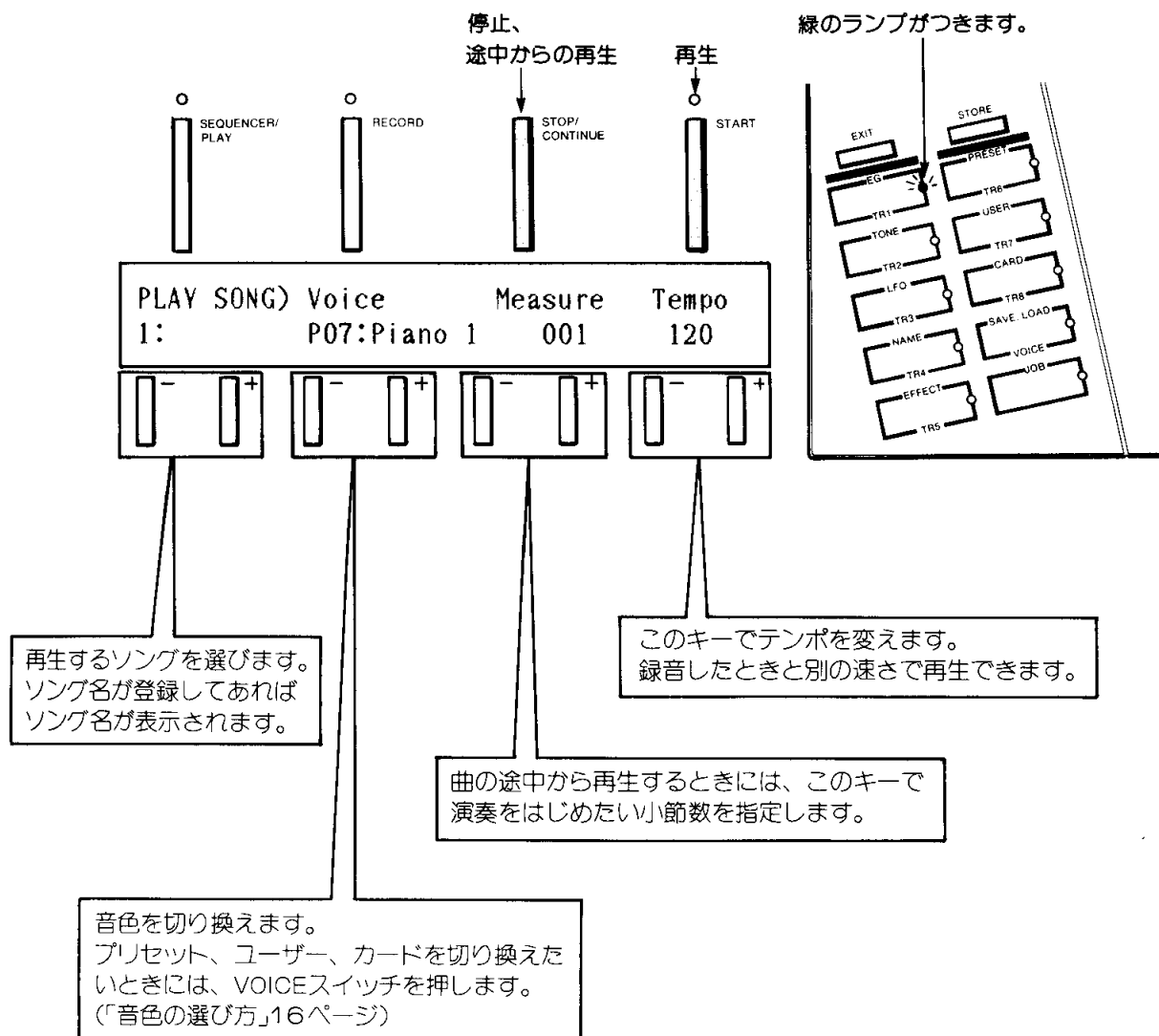
注意

イニシャルタッチ、アフタータッチ、ピッチベンド、モジュレーションの効果をかけて、録音したい場合は、このようなエフェクト効果を持ったキーボードを使います。PF1200/1500などにはアフタータッチ、ピッチベンド、モジュレーション機能はついていません。

再生のしかた

再生の開始

いま録音した曲を聴いてみましょう。
STARTスイッチを押します。いま録音した演奏が再生できます。



トラックの確認

TR1スイッチのランプは赤から緑に変わっています。
緑のランプは「このトラックには演奏データが入っています。」という意味です。

* 緑のランプが点灯している状態でSTARTスイッチを押してください。
点滅しているときは、音は出ません。TR1スイッチを押すと緑の点灯に変わります。
トラックスイッチを押すたびに、点灯と点滅が切り替わります。

再生のテンポ

「Tempo」の下に、+、-キーで再生する速さ（テンポ）を変えることもできます。

音色をかえる

再生時は録音したときの音色に設定されています。

音色を変えたいときには、VOICEの+、-キーまたはテンキーで音色を選びます。プリセット、ユーザー、カードを切り換えるときにはVOICEスイッチを押します。(「音色の選び方」16ページ)

*録音や再生のときに選んだ音色は一時的なもので、記憶されません。録音した曲にどの音色を使うかを記憶させたいときには、登録の操作が必要です。(69ページ)

*登録の操作を行う前にSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどります。

***再生しながら鍵盤で演奏することもできます。**

ただし、同時に音を出せるのは8和音までです。同じタイミングで8和音を超える場合は、シーケンサーの演奏が優先されます。

再生の停止

・STOP/CONTスイッチを押すと演奏が止まります。

・曲の途中から再生したいときには、「Measure」の下に+、-キーで演奏をはじめたい小節番号を指定します。

例えば、16小節目からはじめたいときには、016と指定します。

STOP/CONTを押すと、指定した小節から演奏が始まります。

ソングの時間を計る

TQ5のシーケンサーには、ソングの長さを計るストップウォッチ機能があります。ソングがノーマル再生状態になっているときは、本体の右下にある+キーを押すと、ディスプレイの表示が下記のようになります。

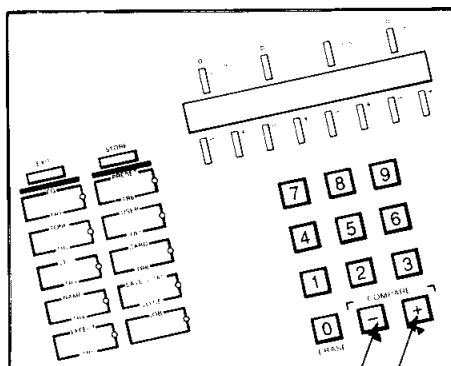
PLAY SONG)	Voice	Total	Tempo
1:	P07:Piano1	00'00 0	120

ストップウォッチ表示

再生がスタートすると同時に、計測を始めます。再生が終わると自動的に止まります。カウントをリセットしたいときは、-キーを押します。+キーをもう一度押すと元の画面に戻ります。

PLAY SONG)	Voice	Measure	Tempo
1:	P07:Piano1	001	120

このストップウォッチ機能はノーマル録音の時にも使うことができます。



このキーを押すと、ストップウォッチ機能になります。
このキーを押すと、カウントがリセットされます。

録音の途中でまちがえたら(消去)

いかがですか？うまく演奏録音できましたか？
はじめての録音でまちがえても、いくつかの方法があります。

(1)もう一度はじめから演奏・録音しなおす

一番原始的な方法ですが、まちがった部分が多いときや、録音時のフィーリングを大切にしたいというときには、欠かせない方法です。

カセットテープに録音するのと同じ感覚です。

(2)まちがった箇所(音符)だけ、音の高さ、長さなどを修正する

「ステップ録音」の応用で、まちがった音だけ、音の高さ、長さなどを指定し直します。
シーケンサーならではの編集機能です。

(3)まちがった箇所(小節)だけを演奏・録音しなおす

「パンチ録音」といって、まちがえた小節だけを再録音します。
何小節目から何小節目までと指定して録音し直します。シーケンサーの威力を発揮します。

ここでは、(1)の方法について説明します。

(2)は「録音の途中でまちがえたら」(49ページ)、(3)は「パンチ録音」(109ページ)をご覧ください。

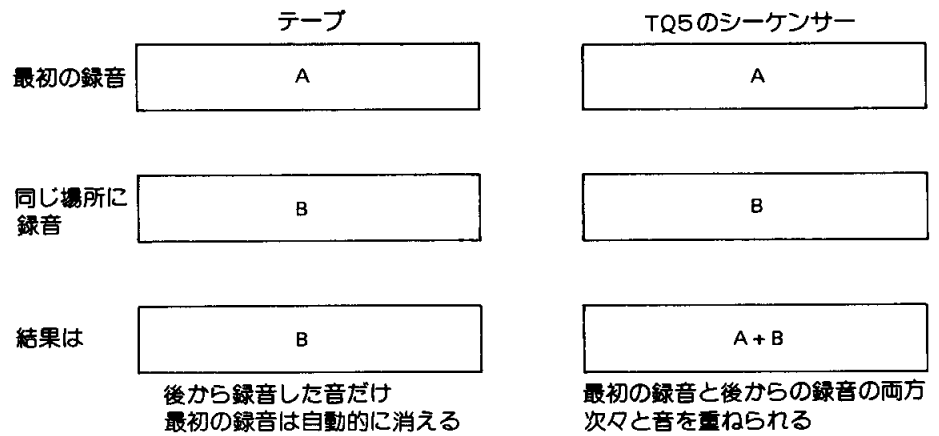
もう一度録音しなおす

演奏をまちがえてしまったら、もう一度はじめから録音しましょう。

その前に、今の演奏(録音)を消さなければなりません。

というのは、TQ5のシーケンサーは「重ね録音方式」なのです。一度録音した演奏(演奏データ)は、あなたが「消す」操作をしないで、もう一度はじめから録音して再生すると、最初の(まちがった)演奏とやり直した演奏の両方が再生されてしまいます。

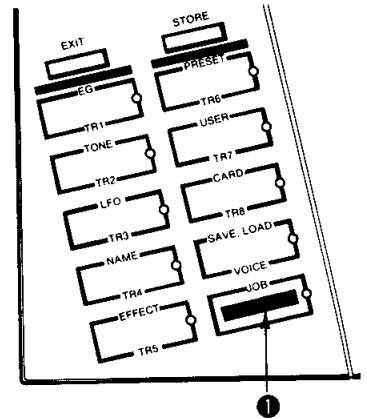
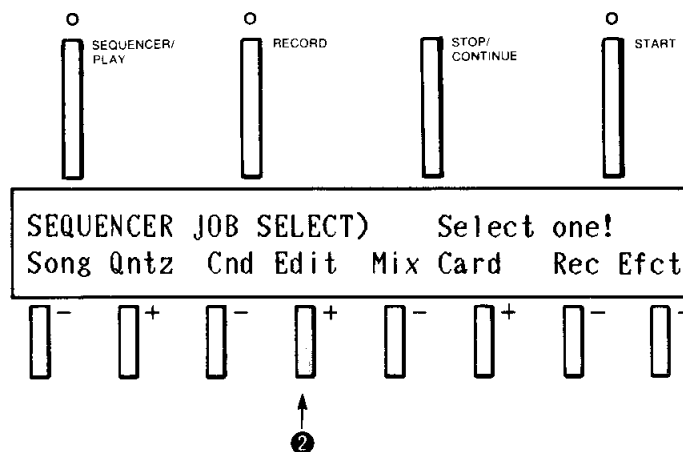
この「重ね録音方式」には、便利な点がたくさんあります。例えばピアノの演奏を録音するとして、はじめに左手を録音して、つぎに右手の演奏を最初に録音した左手に重ねて録音する。こうすれば両手で演奏するにはむずかしい曲もわりと楽に録音できます。こんなことは普通のカセットじゃできませんね。本当はまだまだ他にも理由がありますが、ここではまず、「消す」操作について説明しましょう。



録音を消す (ERASE)

①JOBスイッチを押します。

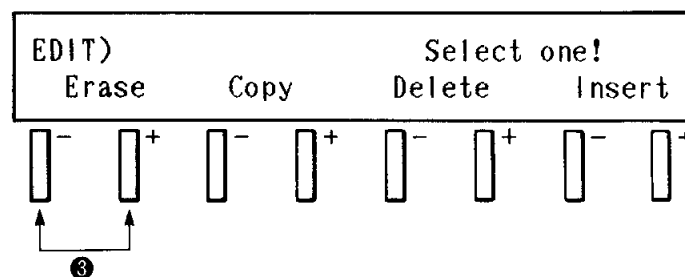
シーケンサーのさまざまな機能のタイトルが表示されます。
この画面をメニュー画面といいます。



* 録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。

②「Edit」の下の方の+キーを押します。

「Edit」の中の機能のタイトルが表示されます。
この画面をサブメニュー画面といいます。

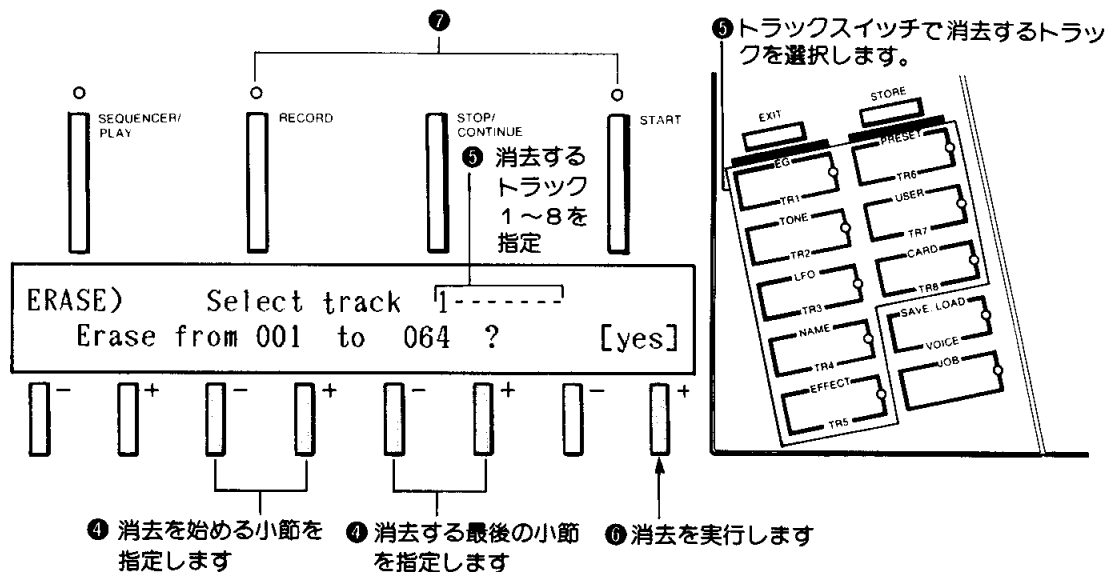


③「Erase」の下の方の+、-キーを押します。

+、-どちらを押してもかまいません。

Erase (イレース) とは「消去」という意味です。

消去は「どのトラックの何小節目から何小節目までの演奏データを消すか」を指定します。



④ 消去は「どのトラックの何小節目から何小節目までの演奏データを消すか」を指定します。

「from」の下の方、+、-キーで消去する最初の小節、「to」の下の方、+、-キーで消去する最後の小節を指定します。

⑤ またトラックスイッチで消去するトラックを指定します。

この例では、今の録音を消して録音し直すのでトラックは1、fromは001、toは録音した最後の小節を指定します。「Erase」のモードに入った時点で、トラックは1、fromは001と自動的に指定されますので、この場合は、「to」の指定だけを行ってください。

⑥ [yes] キーの下の方の+キーを押します。

Sure?と確認のメッセージが表示されます。

今の演奏を消してよいか、確認してください。

* イレース（消去）を中止したいときには、SEQ/PLAYスイッチを押します。

⑦ もう一度「yes」の下の方の+キーを押します。

「Executing /」の後「Completed /」が表示されて、いま録音した演奏がすべて消えます。

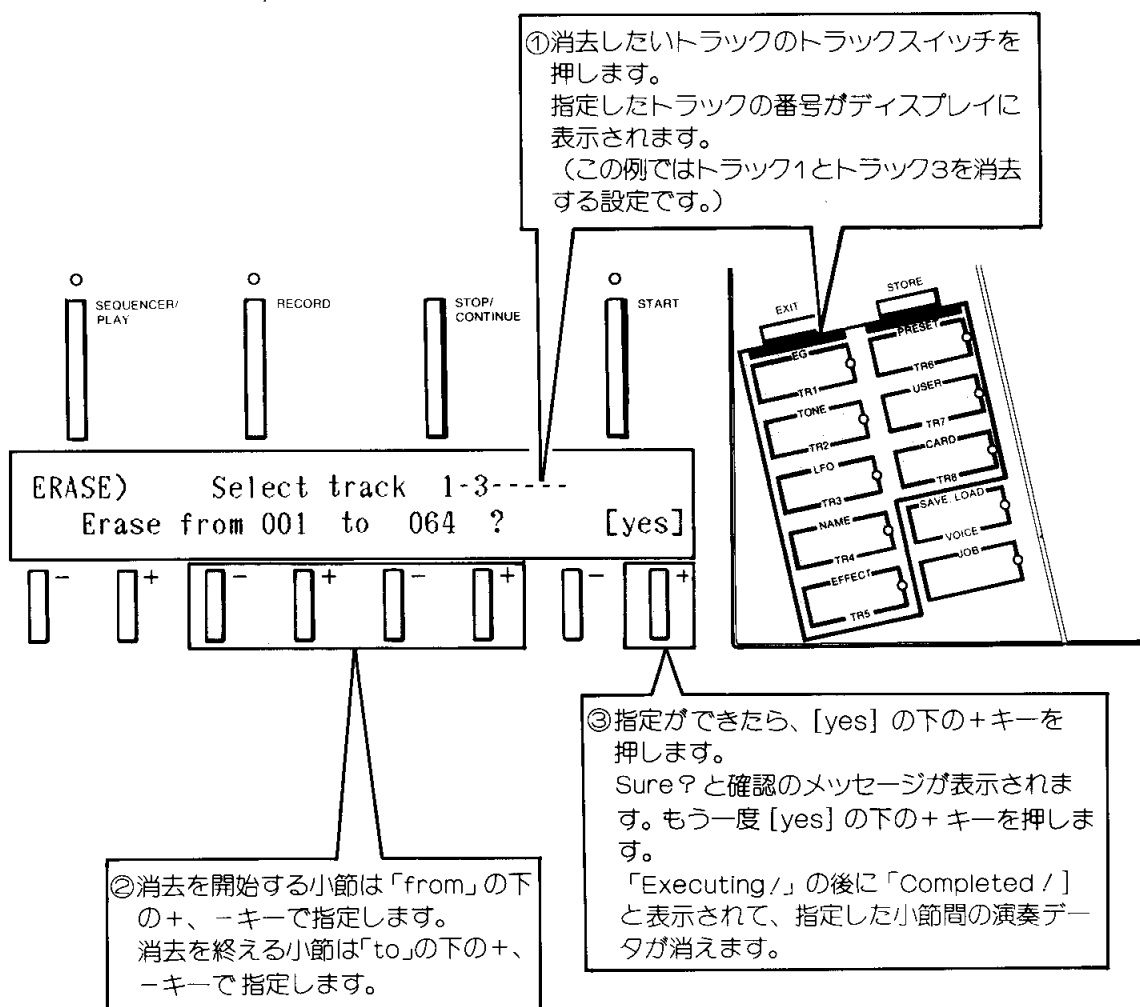
⑧ RECORD、STARTの順にスイッチを押して、もう一度はじめてから録音します。

注意

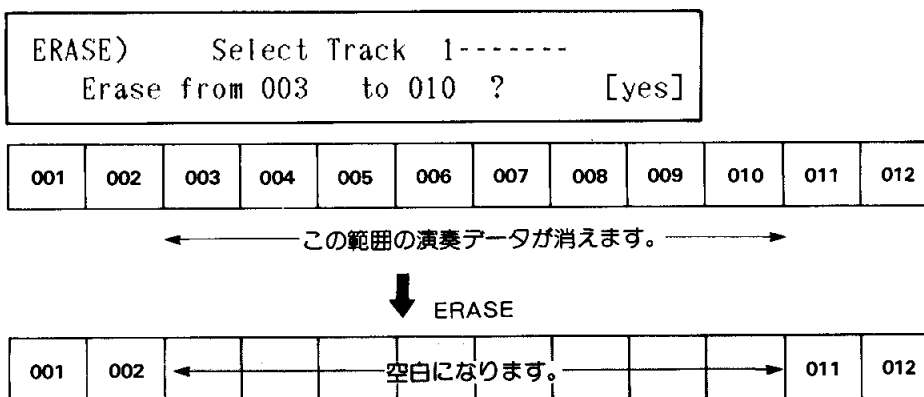
重ね録音をしたときにイレース（消去）を行うと、一番後に録音した演奏データだけではなく、指定したトラックのすべての演奏データが消えます。

指定したトラックの一部だけを消す

録音した演奏データの一部分だけを消去したいときや、特定のトラックの演奏データを消去したいときには、次のように操作します。



例えば次のように指定するとトラック1の3小節目から10小節目の演奏が消えます。

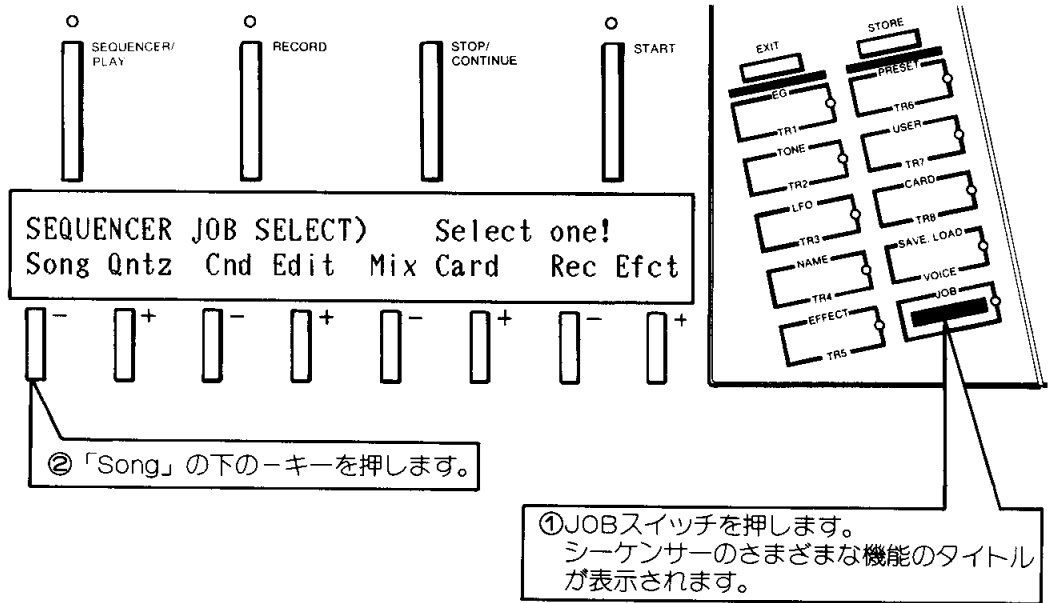


* イレース（消去）は、指定小節間の演奏データをすべて休符に置き換えると考え
てください。

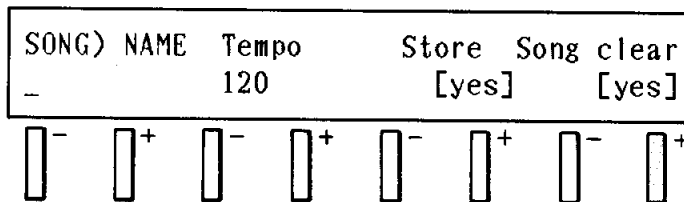
そのため、演奏データの長さ（小節数）は変わりません。

1曲まるごと消す (ソングクリア)

1曲分の演奏データ(ソング)をまとめて消します。
8つのソングのうちの現在選ばれているソングを消去します。



* 録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。



- ④ ソングのデータを消していいときには、もう一度 [yes] の下の + キーを押します。「Executing /」の後に、「Completed /」と表示されてソングが消えます。

- * ソングのクリアを行うと、そのソングの8つのトラックのすべてのデータが消えます。
- * ソングのクリアを中止したいときには、SEQ/PLAYスイッチを押してください。
- * この例のようにひとつのトラックしか録音していないときには、イレース、ソングクリアのどちらを行っても構いません。

注意

- ・ソングのクリアを行うとソングネームと演奏データだけが消えます。音色番号や発音数、テンポ、エフェクトの設定などはそのまま残ります。

この章のまとめ

- ・「ノーマル録音」は鍵盤での演奏をそのまま録音する方法です。
- ・ノーマル録音は次の手順で行ないます。(10ページ)
 - ① SEQ/PLAYスイッチを押します。
 - ② 録音する曲を選択します。
 - ③ RECORDスイッチを押します。
 - ④ 拍子、テンポ、録音開始小節を指定します。
 - ⑤ 録音するトラックを選びます。
 - ⑥ 録音する音色を選びます。
 - ⑦ STARTスイッチを押すと録音が始まります。
 - ⑧ 2小節のマイナスカウントを待つて演奏を始めます。
 - ⑨ STOPスイッチで録音が終了します。
 - ⑩ STARTスイッチで再生できます。
- ・楽器の編成はパートタイプで選択します。(14ページ)
 - ① RECORDスイッチを2回押します。
 - ② 緑のランプを確認します。
 - ③ パートタイプを選択します。
 - ④ RECORDスイッチを押します。
- ・演奏をまちがえたら、いまの録音を消してもう一度録音し直します。(23ページ)
 - ① JOBスイッチを押します。
 - ② 「Edit」を選択します。
 - ③ 「Erase」を選択して、[yes] を指定して演奏データを消去します。
- ・TQ5のシーケンサーは「重ね録音方式」で、消さない限り以前の演奏データは残ります。

第3章

音符をひとつずつ録音する (ステップ録音)

この章では音符や休符をひとつずつ指定しながら録音する「ステップ録音」の方法と再生のしかたについて説明します。

「ステップ録音」では、楽譜を書く感覚で録音できますから、鍵盤演奏の苦手な人でも簡単に録音できます。

録音前の準備(ステップ録音)

音符や休符をひとつずつ指定しながら録音する「ステップ録音」について説明します。

「ステップ録音」は例えば、1小節目の1拍目は4分音符の「ド」、2拍目は8分音符の「ミ」といった具合に譜面を書くように録音します。ですからステップ録音は、鍵盤演奏が苦手の人に向いています。またとても速いフレーズなど、ノーマル録音では録音しにくい譜例も簡単に録音できます。

ここでは、ピアノの音色で録音する方法を説明します。

複数の音色を使った録音（マルチトラック録音）については後で説明します。

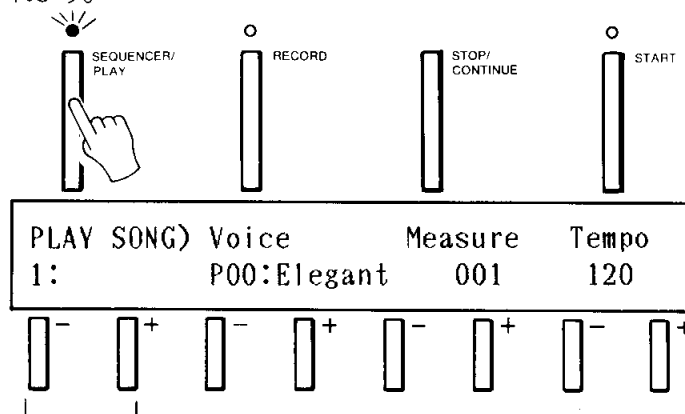
お買い上げの時点では「ノーマル録音」で録音するようになっています。ステップ録音を行うには、録音方法を「ステップ録音」に切り換える操作が必要です。また、録音前に拍子や、音色を選ぶなどの準備が必要です。

シーケンサー機能への切り換え

ディスプレイの上のSEQ/PLAYスイッチを押します。

この操作で、シーケンサー機能になります。

SEQ/PLAYスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のように表示されます。



このキーでこれから録音する曲を選びます。
曲は1番から8番の8曲があります。

録音する曲の選択

録音の前に、「これから何番の曲を録音するのか」を指定します。

録音する曲（ソング）は「PLAY SONG」の下の方の+、-キーで選択します。

ここではSONG1（1番の曲）を選択しましょう。

ソング番号とソング名

録音する（した）曲をソング（SONG）と呼びます。TQ5では最大で8曲（ソング）まで、録音再生できます。

ひとつひとつのソングには、1から8の番号がついています。また音色と同じように好きな名前をつけることができます。（名前のつけ方は後ほど説明します。61ページ）まだ録音していない曲を選ぶとソングの名前は空白になります。

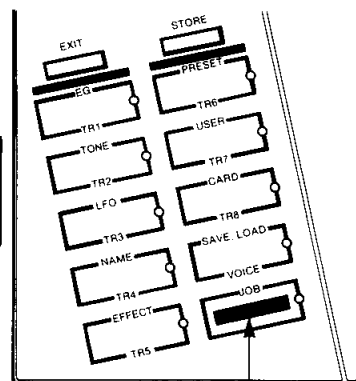
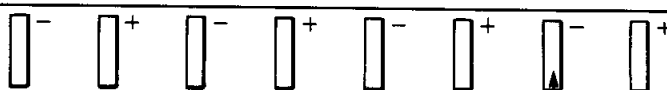
録音方法の指定 (RECORD MODE)

お買い上げの時点では「ノーマル録音」で録音するようになっています。ステップ録音を行うには、録音方法を「ステップ録音」に切り換える操作が必要です。

ステップ録音の指定

- ① シーケンサー機能に入ってから JOB スイッチを押します。
シーケンサーのさまざまな機能のタイトルが表示されます。
この画面をシーケンサーの「メニュー画面」といいます。

SEQUENCER JOB SELECT) Select one!
Song Qntz Cnd Edit Mix Card Rec Efct



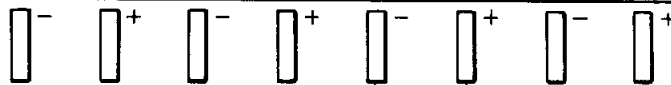
① JOB スイッチを押します

- ② このキーで「録音方法の切り換え」を選択します。

- ③ 「Rec」の下の一キーを押します。

ディスプレイは次のように表示されます。

RECORD MODE) Mode Receive ch
Free memory= 100% step 1-16 omni



③

- ③ 「Mode」の下の一キーを押して、「Step」を選びます。
これでステップ録音に切り換わりました。

* Mode (録音方法) には、「normal (ノーマル録音)」、「step (ステップ録音)」、「punch (パンチ録音)」の3種類があります。

注意

録音方法は一度指定すると、切り換えない限り同じ録音方法になります。
ここで「ステップ録音」を指定すると、これ以降シーケンサー機能呼び出すといつも「ステップ録音」になります。

「ノーマル録音」にもどしたいときには、この画面で「normal (ノーマル録音)」を指定してください。また、電源を入れ直しますと、「ノーマル録音」の表示となります。

「パンチ録音」(111ページ)を行うときには、この画面で「punch」を指定します。

録音条件の確認

これから録音する曲の拍子、音色などを決めます。

*ノーマル録音とほとんど同じ操作です。既にノーマル録音の方法を理解された方はお読みになる必要はありません。

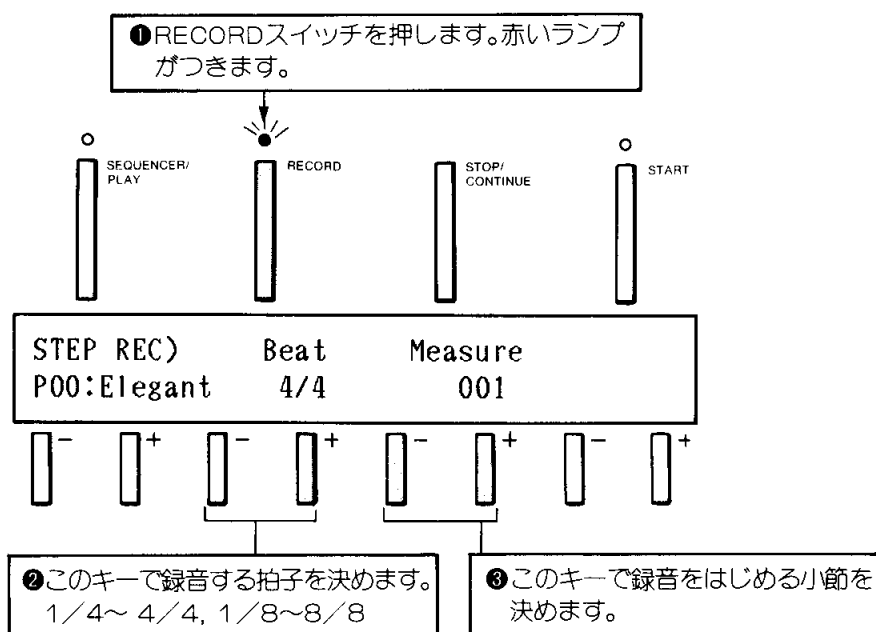
録音待機

録音する曲を選んだらRECORDスイッチを押します。

この画面で拍子やテンポを決めます。この画面の状態を「録音待機状態」といいます。

①RECORDスイッチを押します。

RECORDスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のようにかわります。



拍子を決める (Beat)

録音する曲の拍子を指定します。

「Beat」の下に+、-キーで変更します。

1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 1/8, 2/8, 3/8, 4/8, 5/8, 6/8, 7/8, 8/8の順に変わります。

例えば、ワルツを録音するには、3/4を、普通の曲を録音するときには4/4でよいでしょう。

録音後は、トラックのランプが緑色になり、この+、-キーは働かなくなります。別の録音していないソングを選ぶかソングクリア (27ページ) を行いますと+、-キーは再び働くようになります。

録音開始小節の確認 (Measure)

録音をはじめる小節を決めることもできます。

はじめて録音するときには1小節目から録音しますのでここでは何も指定しません。001のままにしておきます。

既に録音した曲に重ねて録音するときなどに、録音を始める小節を指定します。

注意

曲の途中から録音するときには、録音開始小節を指定した後、STOP/CONTスイッチで録音が始まります。STARTスイッチを押すと1小節目から録音が始まります。STOP/CONTのCONTとはContinue (コンティニュー) の略で「継続」という意味です。STOP/CONTスイッチを押すと、ここで指定した小節から「継続」して録音します。

音色とトラックを選ぶ

*ノーマル録音と同じ操作です。既にノーマル録音の方法を理解された方はお読みになる必要はありません。

表示された音色

次に録音する音色を決めます。
ディスプレイ左下に音色名が表示されています。
音色名の下に+、-キーで録音する音色を選ぶことができます。

注意

最初にディスプレイに表示される音色は、選択したソングに登録されている音色です。

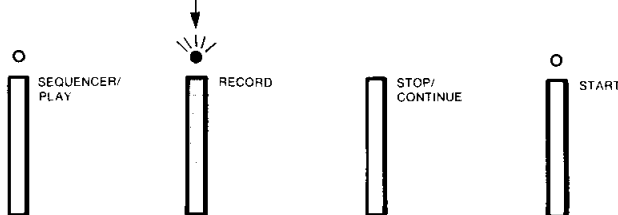
選択したソングによっては、和音が出ない、発音数が少ない設定になっていることもあります。「音色の割り振り (パートタイプの選択)」で音色の割り振りを設定してください。

音色の割り振り (パートタイプの選択)

①RECORDスイッチを二度押します。(赤いランプが点灯している場合は、録音待機状態ですので一度だけ押します。)

RECORDスイッチのランプが緑色に変わり、ディスプレイは次のように変わります。

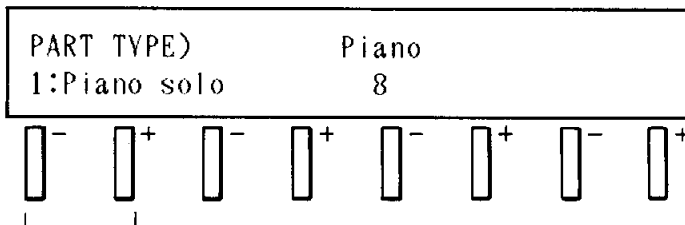
① 赤いランプから緑のランプに変わります



PART TYPE) Please select part type!
[-] [+]

②PART TYPEの下に+、-キーを押して楽器の編成 (パートタイプ) を選択します。

「1 : Piano solo」を選択します。



② このキーでパートタイプを選択します。

パートタイプには1から7の7種類あります。

この表示は、「これから録音するのは、ピアノの音色で同時に8和音まで弾けますよ」という意味です。

ピアノではなく「フルートの音色」で弾いてみたい（録音したい）という人も、ここでは「1 : Piano solo」を選択してください。後ほど音色を選び直します。TQ5は同時に8和音まで出せます。パートタイプでは、8和音を何種類の音色に割り振るのかを決めると考えてください。

*パートタイプには7種類あり、「1 : Piano solo」以外を選ぶといくつかの音色を使って別々の演奏・録音ができます。しかしその分、音色ごとに演奏・録音できる発音数（同時に弾ける和音数）が減ってしまいます。

ここでは、「1 : Piano solo」にしておきます。

パートタイプや発音数については後ほど詳しく説明します。（74ページ）

③設定が終わったら、もう一度RECORDスイッチを押します。

RECORDスイッチのランプが緑から赤に変わり、ディスプレイは録音待機の画面にもどります。

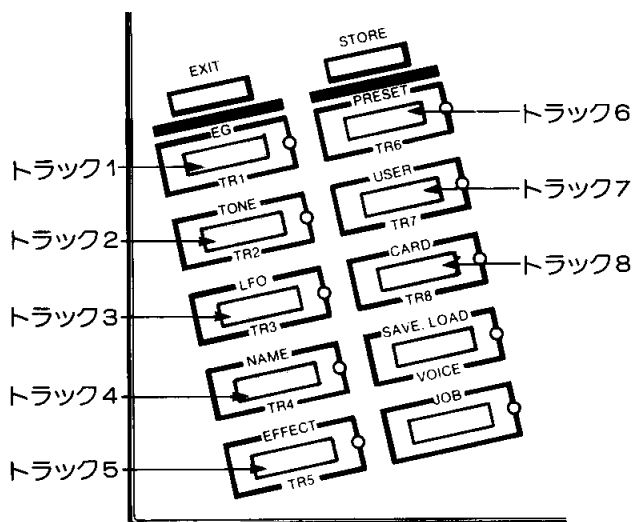
録音トラックの選択

これから録音するトラックを選択します。トラックは1から8までの8つのトラックがあります。

トラックとは演奏を記録する場所のことで、一曲（ひとつのソング）のなかで別々のフレーズ（演奏）を録音することができます。

トラックについてはのちほど詳しく説明します。今は録音場所が8つあるということだけ覚えておいてください。

ディスプレイの左側の「TR1」、「TR2」と書かれた8つのスイッチがトラックの選択スイッチです。このスイッチを押して録音するトラックを選択します。



選択したトラックのスイッチは赤いランプが点灯します。

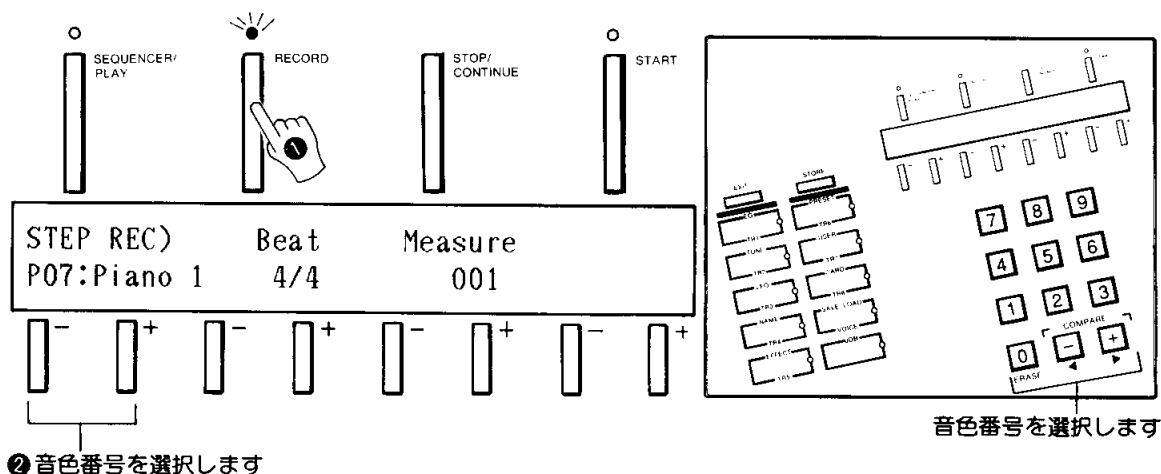
ここでは、トラック1（TR1）を選択します。

*この例ではパートタイプで「ピアノの音色で8和音の録音」と指定しましたので、トラック1以外に録音しても再生できません。

トラック1以外を選択すると「STEP REC」の下に「--- : 」と表示されて音は出ません。

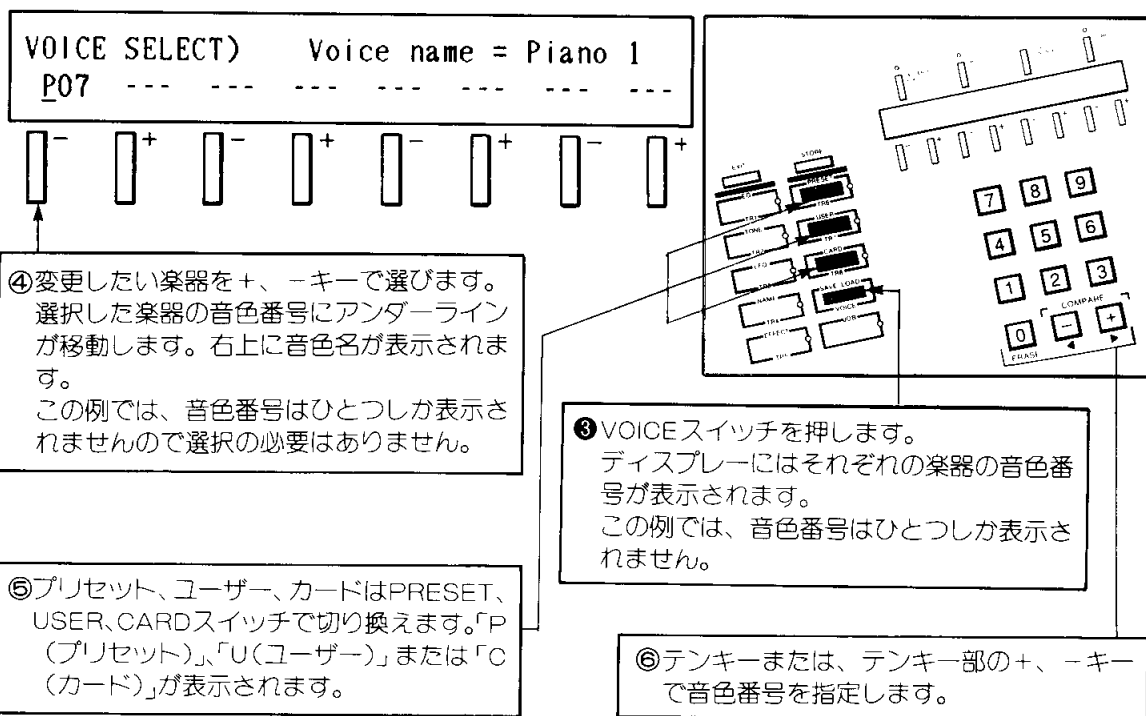
音色の選び方

① RECORDスイッチを押します。緑のランプから赤のランプに変わります。



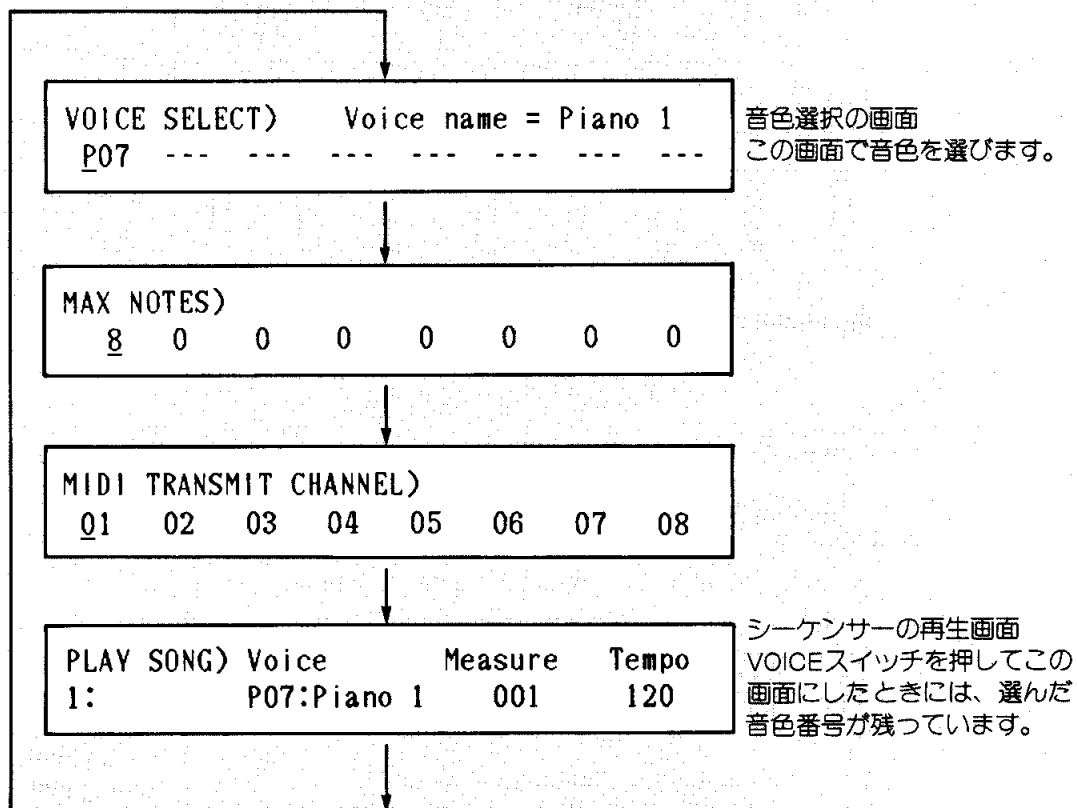
②ディスプレイの一番左の+、-キーまたはテンキーで音色番号を選択します。

③プリセット、ユーザー、カードを切り換えるには、VOICEスイッチを押します。



注意

- ・音色を選んだ後でSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどってしまいます。何も登録していない曲でも初期値の音色になります。
- ・VOICEスイッチを押して、シーケンサーの再生画面にもどしてください。
- ・VOICEスイッチは押すたびに、4つの画面が切り替わります。



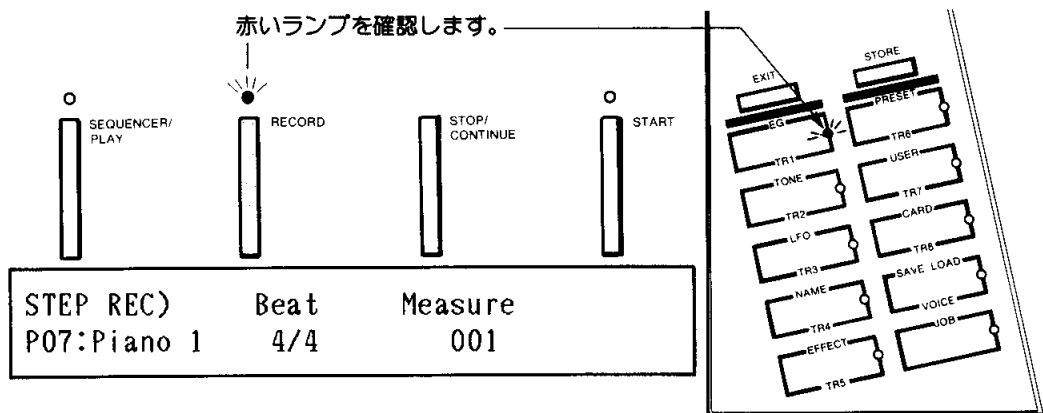
以上で録音前の準備は終了です。さあ、いよいよ録音です。

録音の開始

録音のしかた

①録音の画面を確認します。

もし録音の画面になっていないときには、RECORDスイッチを押して録音の画面を表示させてください。



* RECORDスイッチの赤いランプがついているか確認してください。

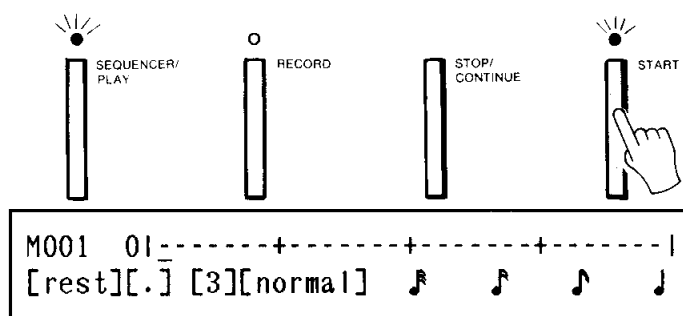
緑のランプがついているときは、音色の割り振りの状態ですから録音できません。もう一度RECORDスイッチを押してください。

*トラック1「TR1」の赤いランプがついていることも確認してください。

赤いランプがついていないときには、TR1スイッチを押して赤いランプを点灯させてください。

②ディスプレイの上のSTARTスイッチを押します。

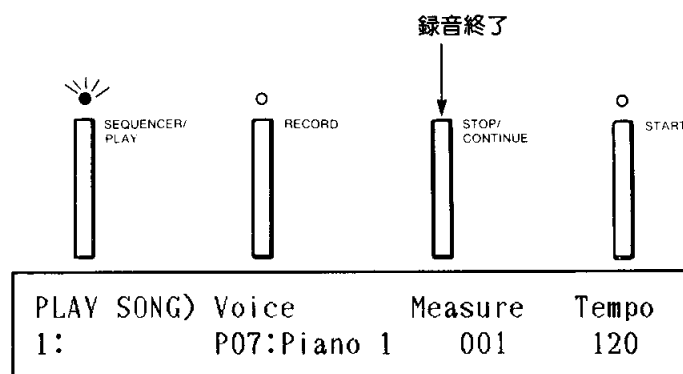
STARTスイッチの赤いランプが点灯して、ディスプレイは次のように変わります。



いよいよ1音ずつ録音していきますが、先に録音の終え方を説明しておきます。

録音の終了

音符の録音が終わったら、STOPスイッチを押します。
これでステップ録音は終了し、ディスプレイは再生画面に変わります。



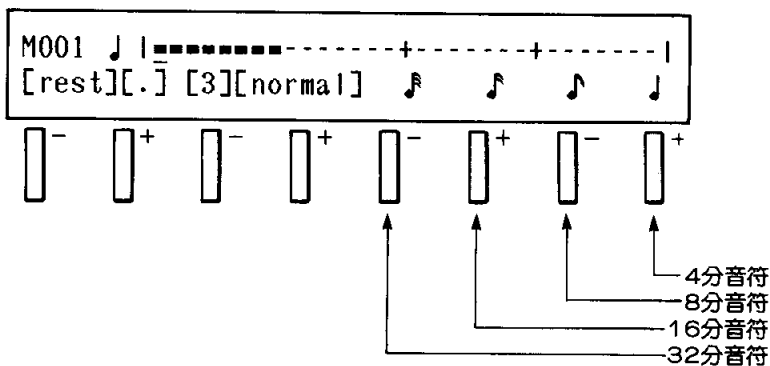
音符の録音方法

音符はディスプレイの下の+、-キーと接続されたMIDIキーボードの鍵盤で指定します。

例えば、C3の音を4分音符で録音するには、ディスプレイの下の+、-キーで4分音符を選んでC3の鍵盤を弾きます。このように、音符の長さや音の高さを指定しながら、ちょうど譜面（楽譜）を書くのと同じように、1音ずつ録音していきます。

録音の基本操作

音符（音の長さ）を決める ①ディスプレイの下の方、+、-キーで音符の長さを指定します。



例えば一番右の+キーを押すと、4分音符が選べます。
ディスプレイ左上には選んだ音符が表示されます。(♪、♪など)
また棒グラフでも音符の長さを確認できます。

棒グラフの見方

この棒グラフは、譜面（楽譜）の一部と考えてください。

ディスプレイに表示されているのが、譜面の1小節分です。

ひと目盛りが32分音符の長さです。+印が1拍の区切り(小節線)にあたります。このひと目盛りをステップといい、ステップをひとつずつ埋めていくことから「ステップ録音」と呼ばれています。

+-----+ ひと目盛りが32音符の長さ（1ステップ）
|-----+-----+-----+-----| ひと区切りが4分音符1拍の長さ
 1小節の長さ

4/4 (4分の4拍子) のときには、8ステップが1拍にあたり、1小節は32ステップになります。

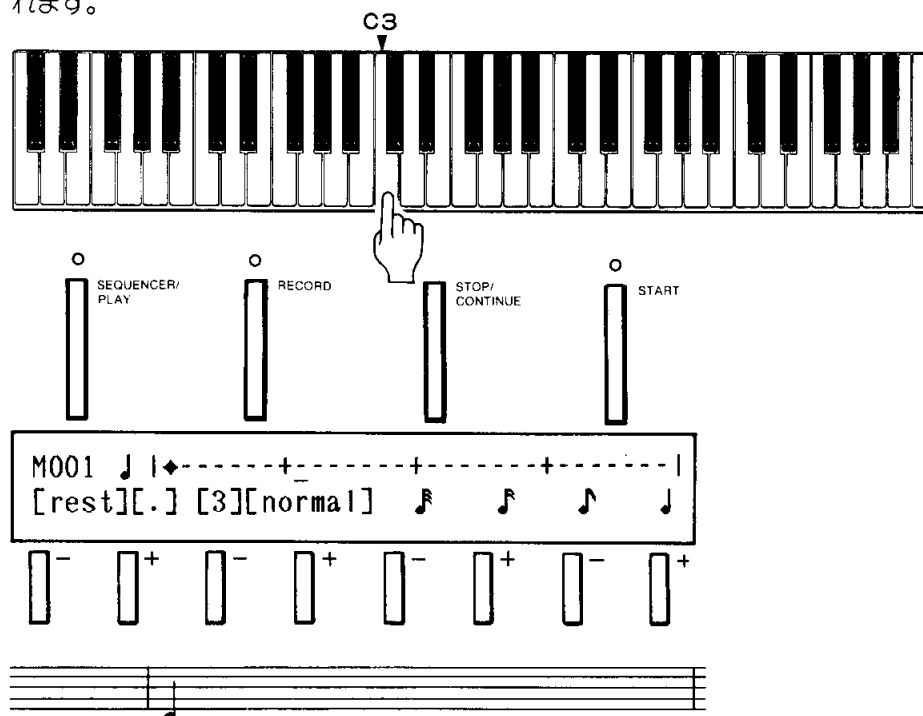
3/4（4分の3拍子）のときには、1小節は24ステップになります。

*棒グラフが表示されているときに、音符の下に+、-キーを押すと音符の長さが長くなります。棒グラフが伸び、音符の表示も変わります。
詳しくは、「音の長さの選び方(42ページ)」をご覧ください。

音の高さを決める（鍵盤を弾く）

②この状態で鍵盤を弾くと、その音程で録音できます。

例えばこの例で、C3の鍵盤を弾くと1小節目の1拍目には4分音符の「ド」が録音されます。



棒グラフは消えて、音符の位置に [◆] が表示されます。譜面のこのタイミングに録音されたことを示します。

* 鍵盤を長くを押しても音符の長さは変わりません。音の長さは鍵盤を弾く前に決めます。
ステップ録音では鍵盤は、音の高さと強さを決めるスイッチと考えてください。

* 和音を弾けば和音で録音できます。（46ページ）

音の強さを決める

鍵盤を弾く強さで、音の強弱をつけることができます。
強く弾けば大きな音で、弱く弾けば小さな音で録音できます。

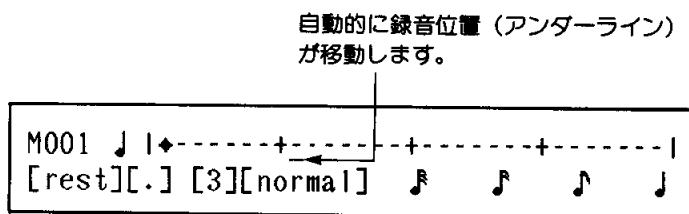
* ステップ録音ではアフタータッチは録音できません。

タイミングを決める

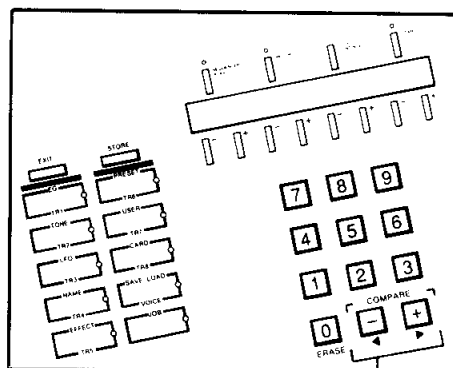
ひとつの音符を録音し終わると、アンダーラインが自動的に次の音符の位置に移動します。

次に録音したい音符がこの位置でよければ、そのまま次の音符を録音します。

録音位置（タイミング）を変えたいときには、テンキー部の+、-キーでアンダーラインを移動させます。



この例では2拍目を録音する状態です。



録音位置を前後に動かします。

注意

音の強弱をつけて録音する場合は、ペロシティ機能のついたキーボードを接続して演奏してください。例えばDX100のようにペロシティ機能のついていない鍵盤で弾いても、音の強弱の変化はつきません。

音の長さの選び方

同じ長さの音符のとき

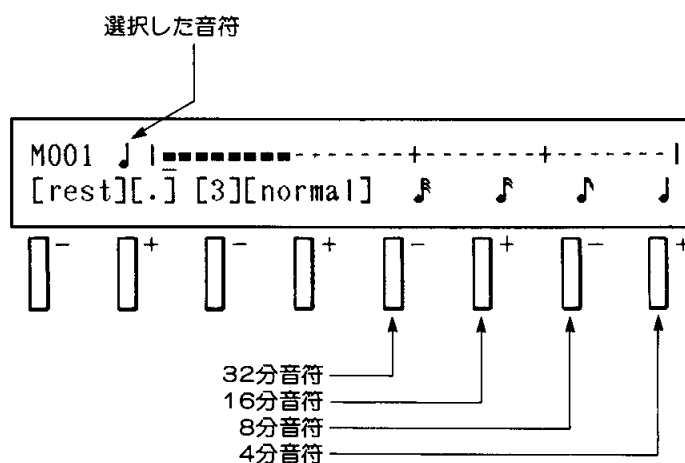
音符の長さは一度指定すれば、次に別の長さを指定するまで変わりません。
同じ長さの音符を録音するときには、鍵盤を弾くだけで録音できます。

* 同じ長さの音符を録音するときには、棒グラフは表示されません。
ディスプレイ左上の音符で音の長さを確認してください。

* 音符の長さを変えたいときには、+、-キーで音符を選び直してください。

4分音符から32分音符 (♪♪♪♪)

音符の長さはディスプレイの下の方の+、-キーを押して選択します。



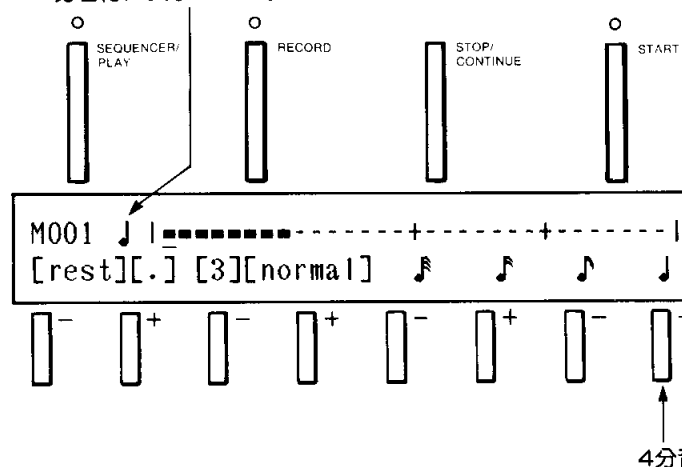
ディスプレイ上段に選択した音符が表示されます。

2分音符と全音符 (♪♩)

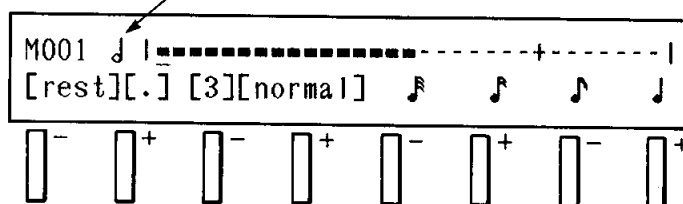
音符を指定した後、さらにディスプレイの下の方の+、-キーを押すと音符は長くなります。

例えば4分音符を2回指定すると、加算されて2分音符になります。(♪ + ♩ = ♩)

4分音符が表示されます。



2分音符が表示されます。



もう一度4分音符を指定します。

鍵盤を弾けば、2分音符の長さで録音できます。

4/4のときには、4分音符を4回、3/4のときには4分音符を3回指定すると全音符になります。

$$4/4 \dots \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} = \text{♩}$$

$$3/4 \dots \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} = \text{♩}$$

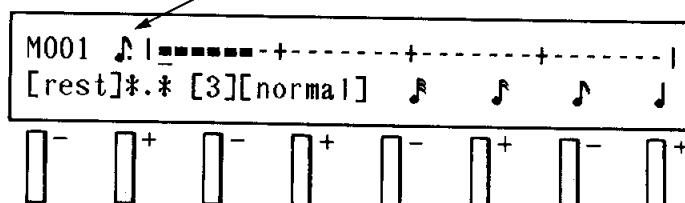
このように鍵盤を押す前に、ディスプレイの下の方の+、-キーを押すと音符の長さが次々に足されていきます。

符点音符 (♪.♪. ...)

符点音符は、「符点 [.]」を指定した後に音符の長さ（8分音符など）を指定します。

例えば、符点8分音符を指定するには、次の順でキーを押します。

符点8分音符が表示されます。



①符点を指定します。

②8分音符を指定します。

③鍵盤を弾きます。

符点を指定すると表示は* . * になります。

* . * の表示のときには、いつも指定した音符の1.5倍の長さになります。

符点音符を解除するには* . * の下の+キーを押します。表示は[.] にもどります。

符点音符はもとの音符に、その半分の長さの音符を加えた長さですから、次の手順でも録音できます。

①もともになる音符（8分音符など）を指定します。

②半分の長さの音符（16分音符など）を指定します。










③鍵盤を弾きます。

1小節より長い音符を指定したときには、棒グラフは右端まで伸びますが、それ以上は伸びません。ディスプレイ左上の音符マークで長さを確認してください。

そのようなときには、音符マークの位置に数値が表示されます。

この数値は指定した音符が、32分音符のいくつ分の長さかを表しています。32分音符が99個分以上の長さを指定しても、表示は99より大きくなりません。




3連符は [3] を指定したあとに音符を指定します。

M001  | 
[rest][.] *3*[normal]  
    

②音符の長さを指定します。

③鍵盤を3回弾きます。「ミ、ソ、ド」


- ・ [3] の下のキーを押して3連符を指定すると、表示は *3* に変わります。
3 の表示になっているときは、いつも3連符の録音です。
- ・ 3連符を解除するには、もう一度 *3* の下のキーを押します。表示は [3] にもどります。
- ・ 3連符は実際の長さではなく、譜面の表記と同じ長さを指定します。

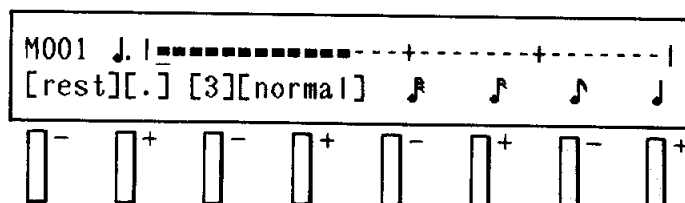
 は * 3 *  ではなく、 * 3 *  を指定します。

3連符を録音しているときには、棒グラフは正確には伸びません。

タイ ()

タイはふたつの音符を続ける記号です。
タイは譜面に表されている音符の長さを続けて指定します。

例えば、 を録音するには次のようにします。

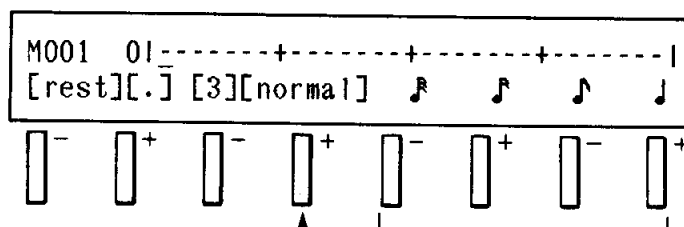


- ①最初の音符を指定します。
- ②2番目の音符を指定します。
- ③鍵盤を弾きます。

テヌートとスタッカート (音符を伸ばす、短く切る)

音を長めに伸ばす「テヌート」や短く歯切れよく演奏する「スタッカート」も、音符の長さを指定する前に決めます。

[normal] の下の+キーを押して、音符の発音時間を選択します。
押すたびに [stacat]、[tenuto]、[normal] の順に切り替わります。



- ①音符の発音時間を選択します。
押すたびに [normal] [stacat] [tenuto] が切り替わります。
- ②音符の長さを指定します。
- ③鍵盤を弾きます。

[normal] … 指定した音符の80%の長さで発音します。
[stacat] … 指定した音符の50%の長さで発音します。
[tenuto] … 指定した音符の長さで発音します。

音符の発音時間を選択してから、音符の長さを指定します。
音符の発音時間は、同じ録音状態のままであれば、一度選択すると選び直さない限り同じ発音時間になります。
ディスプレイに表示されている発音時間で録音できます。

和音の録音

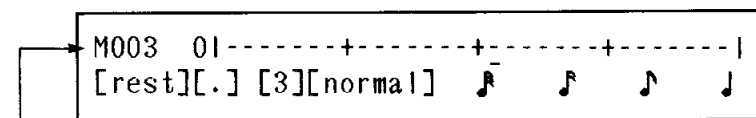
鍵盤で和音を弾けば、和音を録音できます。
録音できるのは、最大で8和音までです。

注意

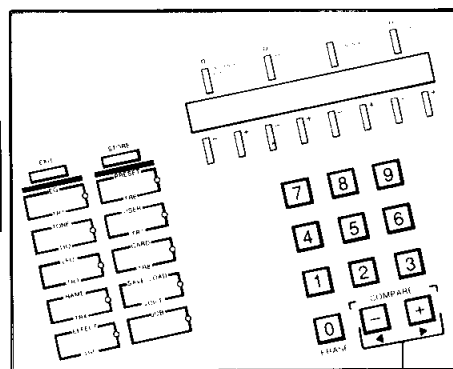
和音は最後の音を弾いた時点で押さえられている鍵盤が、すべて離されたときに録音されます。ですから例えば「ドミソ」の和音を録音したいのに、まちがえて「ドミラ」と弾いてしまったときには、「ド」と「ミ」を押さえたまま「ソ」を弾いてください。もし「ドミラ」と弾いた後で、鍵盤からすべての指を離してしまうと「ドミラ」が録音されてしまいます。この時点で録音位置が次のステップに進んでいます。

小節の指定

1小節目の録音が終わると、自動的に2小節目のディスプレイに変わります。ディスプレイ左上に、現在の小節数が表示されています。



現在の小節数です。
この例では3小節目の3拍目を録音できる状態です。



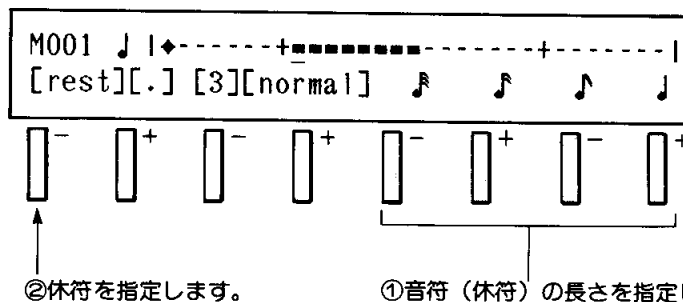
録音位置を前後に動かします。

* テンキー部の+、-キーで録音位置（アンダーライン）を移動させて、小節を変えることもできます。

休符の録音

休符の指定 [rest]

休符はディスプレイの下の方、+、-キーで長さを指定した後、「rest (休符)」を指定します。



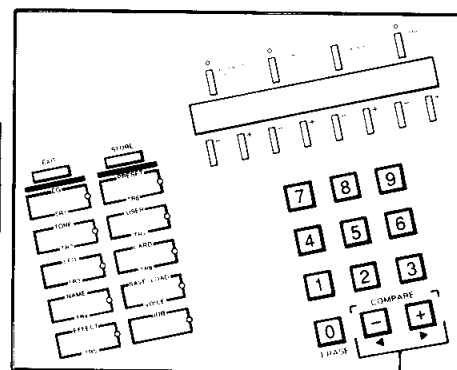
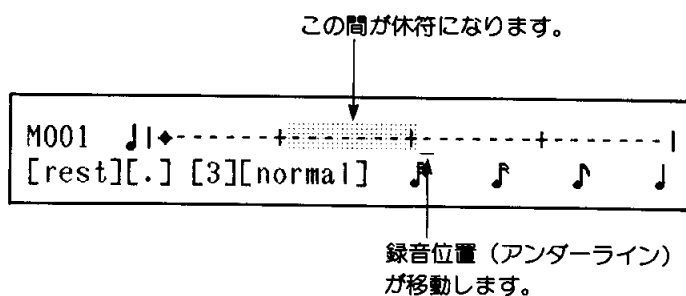
休符の長さの指定は、音符の長さの指定と同様です。

- ・音符の下の方、+、-キーを押すとその分加算されます。
- ・符点休符、3連休符も、音符の下の方、+、-キーを押す前に指定します。
- ・テンキー部の+、-キー（◀▶キー）で休符の長さ（棒グラフの長さ）を増減できます。

音符の長さを指定したあと、鍵盤を弾けば音符の録音、[rest] を押せば休符の録音になります。

録音位置を移動する （◀▶キー）

テンキー部の+キーで録音位置を次の音符まで移動させて、次の音符を録音すれば無録音部分が自動的に休符になります。



録音位置を前後に動かします。

カーソルキーの使い方

テンキー部の+、-キー（◀▶）をカーソルキーといいます。

このキーは、音符の長さを示す棒グラフが表示されているときと、表示されていないときとでは働きがちがいます。

音符の長さを変える

棒グラフが表示されているときには、音符の長さを増減できます。

- +（▶）キー … 押すたびに32分音符の長さだけ長くなります。
棒グラフと音符マーク(数字)も変化します。
- （◀）キー … 押すたびに32分音符の長さだけ短くなります。
棒グラフと音符マーク(数字)も変化します。

注意

- ・ -（◀）キーを何度か押すと棒グラフは完全に消えます。
棒グラフが消えるとディスプレイ左上の音符マークも消えて○になります。
棒グラフを消すことによって音符の長さを指定し直すことができます。
- ・ 棒グラフが消えた状態では、+、-キー（◀▶キー）は録音位置の移動になります。
- ・ 一度消えた棒グラフは、+キー（▶）を押しても復帰できません。
ディスプレイの下の+、-キーを押して、もう一度音符の長さを指定してください。

録音位置の移動

棒グラフが表示されていないときには、録音位置（アンダーライン）の移動に使用します。

ステップ録音をスタートさせてまだ何も録音していないときや、音符の長さを指定していないとき、及び鍵盤を弾いて録音し終わったときは棒グラフは表示されません。

使用例1) 休符にします。

▶でステップを進めてから、次の音符を録音すれば「休符」になります。

使用例2) 録音する小節を指定します。

録音位置（アンダーライン）を録音したい位置まで移動させます。
右端よりさらに右に移動させると次の小節になります。
左端よりさらに左に移動させると前の小節になります。
小節の番号はディスプレイ左上に表示されます。

使用例3) 次のような譜面の録音に使用します。



初めに4分音符の「ミ」と「ソ」の音を録音します。

次に◀キーでアンダーラインを音符の下までもどしてから、2分音符の「ド」を録音します。

使用例4) まちがった音符を消すときに使います。

まちがって録音した音符の位置まで移動させます。

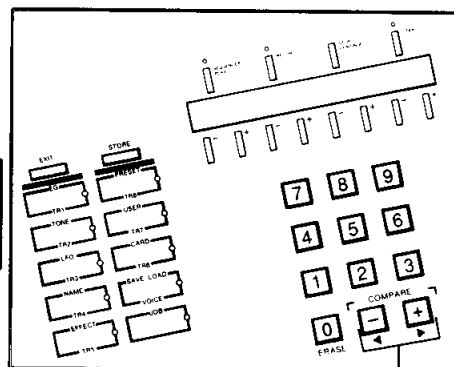
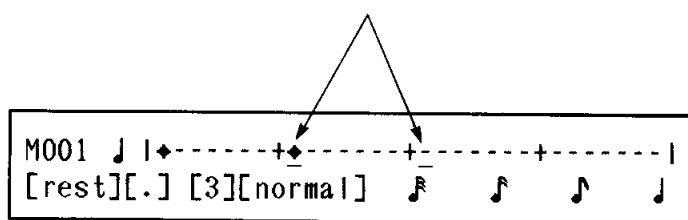
イレースキー（テンキーの0）でアンダーラインの音符を消すことができます。
（49ページ）

ステップ録音でまちがえた音符を録音してしまったときの直し方について説明します。
ステップ録音では、1 音符単位で修正できます。（ただし、3 連符は例外です。次ページをご覧ください）
まちがえて録音したときは、まちがった音符を消してから、もう一度録音します。

①まちがった音符を指定します。

まちがった音符の位置にアンダーラインを移動します。

テンキー部のキー（◀）を使って、アンダーライン修正したい音符の位置までもどします。

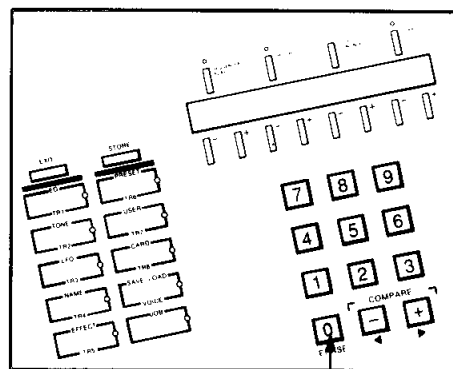
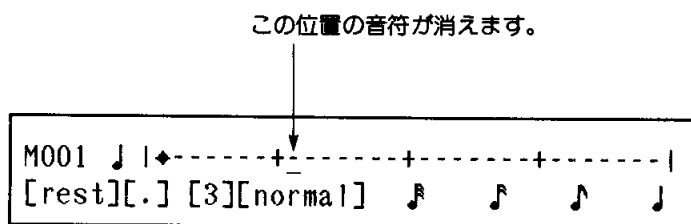


①録音位置（アンダーライン）を移動します。

②まちがった音符を消します。

テンキーの0 (ERASE) を押します。

これでアンダーラインの位置に録音されていた音符が消えます。



② O (ERASE) でアンダーラインの音符を消します。

* テンキーのO (ERASE) を押すと、アンダーラインの位置に録音されているすべての音符が消えます。和音の中の1 音符だけを消すことはできません。

③音符の長さを指定してから鍵盤を弾いて録音します。

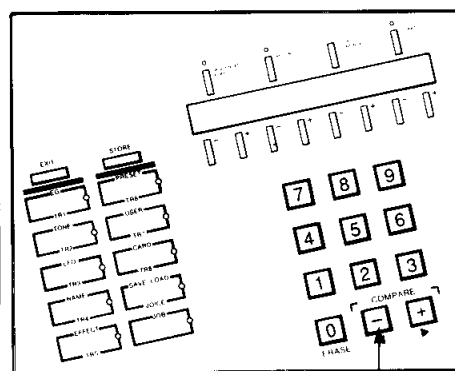
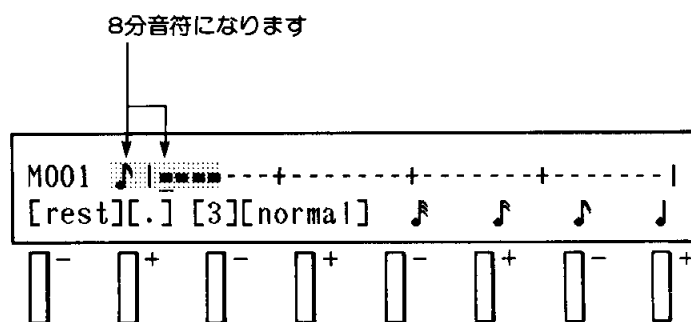
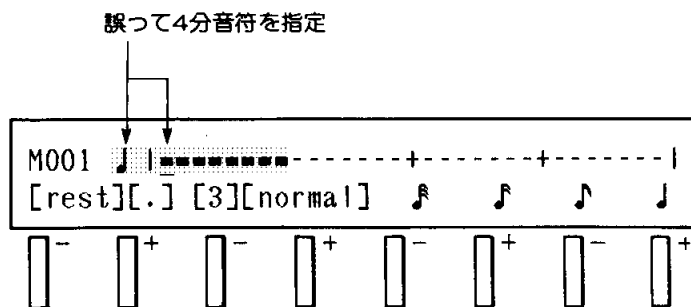
* 棒グラフが表示されているときに、テンキーのO（ERASE）を押しても反応しません。

鍵盤を弾く前に気づいたら

鍵盤を弾く前に音符の長さのまちがえに気づいたら、テンキー部の+、-キー（◀ ▶キー）で訂正できます。

例)

8分音符（♪）のつもりが、4分音符（♩）を指定してしまったとき



- (◀) キーを4回押します。
棒グラフが短くなります。

* 音符の長さを長くしたいときには、テンキー部の+ (▶) キーを押します。

* 休符を録音して、再度音符の長さを指定する方法もあります。

[rest] の下の-キーを押します。ただし録音位置（アンダーライン）は次のステップに移動してしまいます。テンキー部の- (◀) キーで録音位置をもどしてから、録音し直します。

* このほかに、今の録音をすべて消して、もう一度録音し直す方法もあります。しかし、ステップ録音では、ここで紹介したように1音符ずつ訂正できますからこの方が能率的です。
今の録音をすべて消す方法は「録音を消す (ERASE)」(24 ページ) をご覧ください。

注意

3連符を訂正する場合、連符を1つずつ音符単位にして、訂正したりまた、他の音程に置き換えようとすると音符の位置がずれることがあります。3連符をエディットするときは、必ずその3連符の頭から訂正するようにしてください。

ステップ録音の実際

録音してみましょう

下の譜面を録音する手順を記載しておきます。実際に録音してみてください。



● 1 小節目

1

M001 ♪ | -----+-----+-----+-----+ |
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1- 1+ 1- 1+ 1- 1+ 1- 1+

③ ② ①

C3

先

に

符

点

を

指

定

し

て

4

分

音

符

を

指

定

し

て

も

録

音

で

き

ま

す

。



2

M001 ♪ | ◆-----+-----■-----+-----+-----|
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

□⁻ □⁺ □⁻ □⁺ □⁻ □⁺ ① □⁻ □⁺

③ ②

c3

[illegible]

1

M002 ♩ | -----+----- |
[rest][.] [3][normal] ♩ ♩ ♩ ♩

1 2 3 4 5 6 7 8

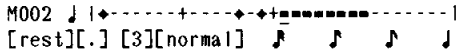
- + - + - + - +


① ②

2回押す

c3

4

M002 

[rest][.] [3][normal] 

-

+

-

+

-

+

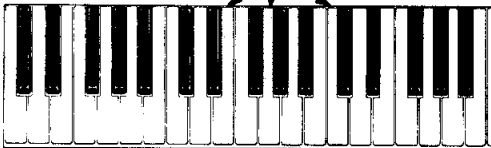
-

+

②

①

c3



3

M002

[rest][.] [3][normal]

-

+

-

+

-

+

-

+

①

3

↓

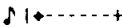

2

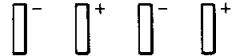
↓

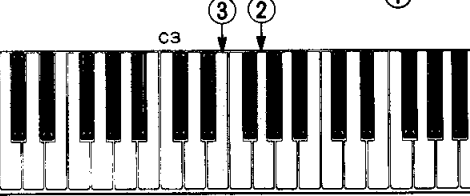
Diagram of a piano keyboard showing the fifth finger (5) on the C3 key, which is the first white key to the left of the two black keys.

The diagram shows a piano keyboard with a sequence of notes and fingerings. The notes are: C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5. The fingerings are: 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 1. The notes are grouped into four sets of four, each starting with a C note. The fingerings are indicated by numbers 1, 2, and 3 above the notes.

3

M003 
[rest][.] [3][normal] 





1
M003 ♪. | -----+-----+-----+-----|

[rest]♯.♯ [3][normal]
♪ ♪ ♪ ♪

①

②

先に符点[.]を指定します。
録音し終わったら、もう一度[.](♯.♯)を指定します。

4
M003 ♪. | ◆-----+-----+-----+-----|

[rest][.] [3][normal]
♪ ♪ ♪ ♪

④

5

M003 ♪ | ◆-----◆+◆+---◆+---| ---
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

① 5回押す

c3 ②

8分休符と2分休符のタイですから、8分音符
5つ分の長さ。8分音符を5回指定します。

4

SEQUENCER
PLAY

RECORD

STOP
CONTINUE

START

M003 ♪ ♪ - - - - - ♪ ♪ ♪ ♪ - - - - - ♪ ♪ ♪ ♪
[rest][.] [3][normal]

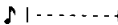

② 休符は「rest」で録音します。

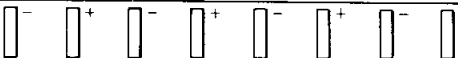
The diagram shows the calculator's keypad layout. On the left, there are two columns of function keys: the first column includes **EXP**, **CE**, **CEMA**, **CEM**, **CEX**, **CEY**, **CEZ**, **CEW**, **CEV**, and **CEU**; the second column includes **STORE**, **DRG**, **STO**, **STB**, **STC**, **STD**, **STE**, **STF**, **STG**, and **STH**. On the right, there is a numeric keypad with digits 0-9, a **+** sign, a **-** sign, and a **CE/MP** key. A small circle with the number 1 is shown below the **CE/MP** key.

または ▶でアンダーラインを進めてもOK。
8分休符なら4回押します。

● 4小節目

1


M004 
[rest][.] *3*[normal] 

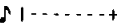




① ②

③ ④ ⑤

c3



M004 
[rest][.] [3][normal] 



⑥

3連符は先に [3] を指定します。
録音し終わったらもう一度 [3] (*3*) を指定
します。

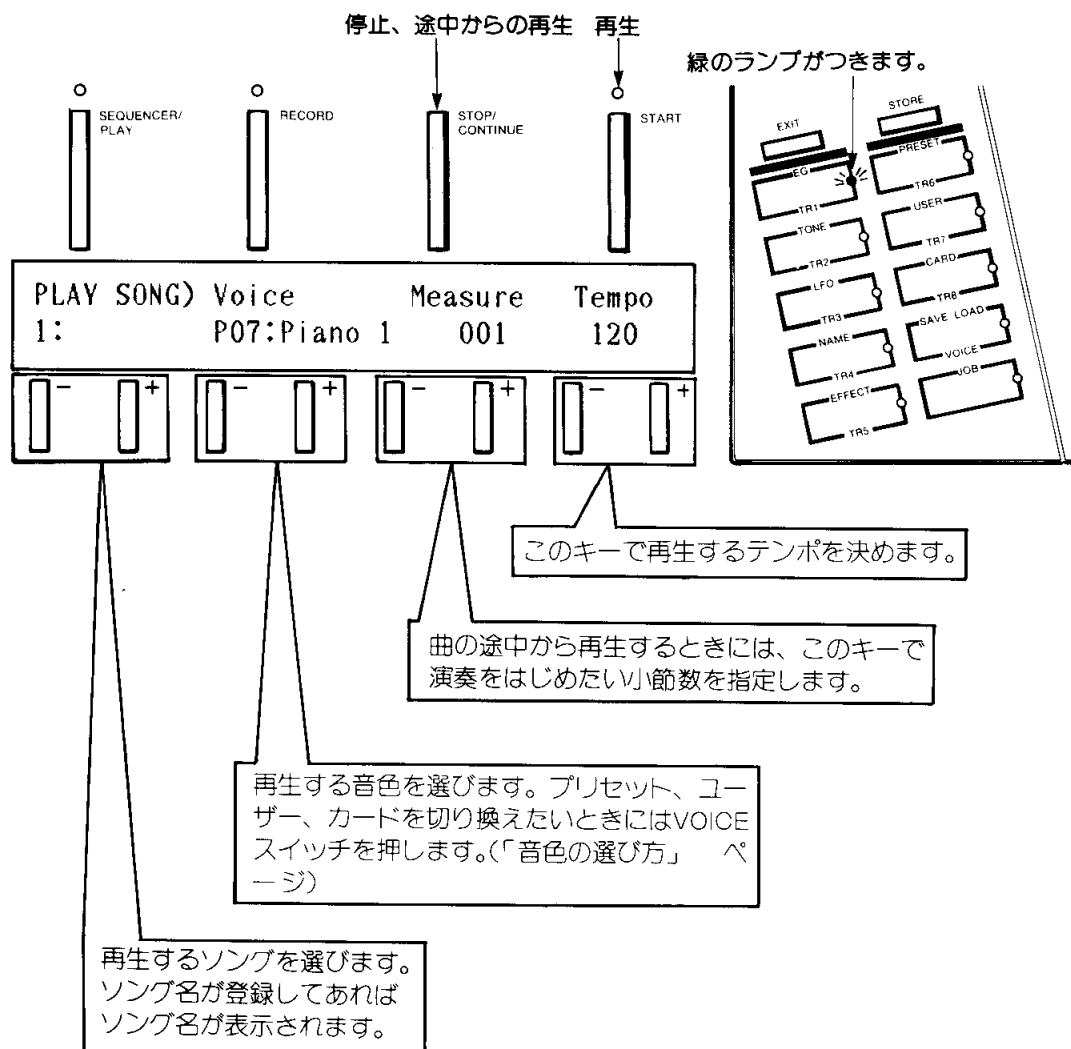
[illegible]

* 録音を終了したらSTOPスイッチを押します。シーケンサー機能に戻り、再生可能な状態になります。

再生のしかた

再生の開始

いま録音した曲を聴いてみましょう。
STARTスイッチを押します。いま録音した演奏を再生できます。



トラックの確認

TR1スイッチのランプは赤から緑に変わっています。
緑のランプは「このトラックには演奏データが入っています。」という意味です。

* 緑のランプが点灯している状態でSTARTスイッチを押してください。
点滅しているときは、音は出ません。TR1スイッチを押すと緑の点灯に変わります。
トラックスイッチを押すたびに、点灯と点滅が切り替わります。

再生のテンポ

「Tempo」の下の方の+、-キーで再生する速さ（テンポ）を決めます。

* ここで決めるテンポは再生するテンポです。
いつも同じテンポで再生したいときには、「ソングの登録」を行います。
(69ページ)

音色をかえる

再生時は録音したときの音色に設定されています。

音色を変えたいときには、VOICEの+、-キーまたはテンキーで音色を選びます。
プリセット、ユーザー、カードを切り換えるときにはVOICEスイッチを押します。

(「音色の選び方」35 ページ)

- * 再生のときに選んだ音色は一時的なもので、記憶されません。録音した曲にどの音色を使うかを記憶させたいときには、ソングの登録の操作が必要です。(69 ページ)
- * 登録の操作を行う前にSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどります。

* 再生しながら鍵盤で演奏することもできます。

ただし、同時に音を出せるのは8和音までです。同じタイミングで8和音を超える場合は、シーケンサーの演奏が優先されます。

再生の停止

STOP/CONTスイッチを押すと演奏が止まります。

曲の途中から再生したいときには、「Measure」の下の方の+、-キーで演奏をはじめたい小節番号を指定します。

例えば、16小節目からはじめたいときには、016と指定します。

STOP/CONTを押すと、指定した小節から演奏が始まります。

—この章のまとめ—

・ステップ録音は音符や休符をひとつずつ指定しながら録音していく方法です。(30 ページ)

・ステップ録音は次の手順で行います。(31 ページ)

- ①SEQ/PLAYスイッチを押します。
- ②録音する曲を選択します。
- ③JOBスイッチを押します。
- ④「Rec」を指定します。
- ⑤「Mode」の下の方、+、-キーで「Step」を指定します。
- ⑥RECORDスイッチを押します。
- ⑦録音するトラックを選択します。
- ⑧拍子、録音開始小節を指定します。
- ⑨録音する音色を選びます。
- ⑩STARTスイッチを押します。
- ⑪STOPスイッチで録音が停止します。
- ⑫STARTスイッチで再生できます。

・楽器の編成はパートタイプで選択します。(33 ページ)

- ①RECORDスイッチを2回押します。
- ②緑のランプを確認します。
- ③パートタイプを選択します。
- ④RECORDスイッチを押します。

・音符の録音方法 (39 ページ)

- ・音符の長さを指定して、鍵盤を弾いて録音します。
- ・ディスプレイの下の方、+、-キーやテンキーの+、-キーで音符の長さを指定します。
- ・+、-キーを続けて押すと音の長さが加算されます。
- ・符点音符や3連符も+、-キーで指定します。
- ・スタッカートやテヌートも+、-キーで指定します。
- ・鍵盤を弾いて音の高さを決めます。
 - ・イニシャルタッチの機能がついたキーボードでは、弾く強さで音量や音色に変化をつけることができます。
 - ・アフタータッチは録音できません。
 - ・和音を弾けば和音で録音できます。
- ・休符は「rest」を指定します。
- ・録音位置はディスプレイの棒にアンダーラインで表示されます。
 - ・アンダーラインはテンキー部の+、-キーで移動します。

・音符の録音をまちがえたら次の手順で修正します。(49 ページ)

- ①テンキー部の+、-キー(◀▶キー)でアンダーラインを移動します。
- ②テンキーの0(ERASE)を押して、音符を消します。
- ③その後録音し直します。

ノーマルかステップか？

鍵盤での演奏をそのまま録音する「ノーマル録音」と、音符を1音ずつ指定していく「ステップ録音」。

鍵盤演奏が得意な人はノーマル録音、苦手の人はステップ録音というのが一般的ですが、必ずしもそうとは限りません。

いくら鍵盤演奏が得意でも、初見でうまく弾けるとは限りません。ステップ録音で曲の雰囲気をつかむのもひとつの方法。むずかしいフレーズはステップ録音にまかせてしましましょう。

また、機械的なビートを出したり、正確なリズムを刻むにはステップ録音の方が有効です。

テンポを遅くして録音し、再生するときにテンポを速くすれば、ノーマル録音も意外と簡単にできるものです。

また、タイミング補正機能がありますから、多少リズムが狂ってもジャストタイミングに揃えるということもできます。

さらに、ステップ録音とノーマル録音を組み合わせてもいいのです。手弾きでリズムに乗った演奏を録音して、むずかしい部分をステップで録音という組み合わせもできます。

逆に、ステップで録音して、後からピッチベンドホイールやモジュレーションホイールの操作を組み合わせるといった録音方法もあります。

最後にもう一つ。ノーマル録音の演奏をステップ録音でエディット。チョットしたタイミングのズレや弾きまちがいを直したり、音色の切り換えをステップで録音というテクニックもあります。

第4章

ソングの登録

この章で、録音した曲（ソング）の登録について説明します。

演奏した曲はすでに録音されていますが、その曲を呼び出したときにいつも同じ状態で再生できるように登録を行います。

登録を行わないと、曲を選ぶたびにテンポや音色を指定しなければなりません。

ソングの登録とは

無事に録音が終わりました。さて次の曲を録音しようという前に今録音した曲を登録しておきましょう。
録音した演奏データは電源を切っても、また音源モジュールとしての機能にもどっても消えずに残っています。
でも、録音した曲をいつも同じ音色やテンポで再生するには、登録の手続きが必要です。

登録できる内容

再生するたびに音色やテンポを設定しなくても済むように、演奏データと一緒にさまざまな情報を記憶させることができます。

登録できるデータ

演奏データ（8トラック分）

- 音の高さ
- 音の長さ
- 音の強さ
- コントローラの情報（ピッチベンドやボリュームなど）
- 曲の途中の音色切り換え

ビート（拍子）

ソングネーム

テンポ

音色（8トラック分）

- 音色メモリー（プリセット、ユーザー、カードの区別）
- 音色番号
- 最大発音数

エフェクト

種類

時間

バランス

このうち演奏データとビート（拍子）以外は、録音の後に設定したあと「ソングの登録」の操作を行います。

登録の操作を行なうとこれらのデータがソングデータとして記憶されます。
次回この曲（ソング）を選択すると記憶してあるデータが呼び出されて自動的に設定されます。

注意

SEQ/PLAYスイッチを押すとシーケンサーの再生画面になりソングを選択できます。

SEQ/PLAYスイッチを押すと、たとえソングを選び直さなくても表示されているソングが新たに選ばれたことになります。

そのため登録の前にSEQ/PLAYスイッチを押すと、設定したデータ（音色やテンポなど）はもともとその曲に登録された設定にもどってしまいます。

SEQ/PLAYスイッチを押す前に必ず「ソングの登録」を行なってください。

ソングネームとテンポ

曲にタイトルをつける (Name)

録音した曲に名前をつけることができます。最高で8曲まで本体のメモリーに記憶させることができます。あとからさがしやすいように、1曲ごとに名前をつけておきます。名前のつけかたは、音色の場合とほぼ同じです。

①JOBスイッチを押すと、シーケンサーの様々な機能のタイトルが表示されます。

SEQUENCER	JOB SELECT)	Select one!					
Song	Qntz	Cnd	Edit	Mix	Card	Rec	Efct
<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +

このスイッチを押すと次の画面になります。

②Songの下キーを押します。

SONG) NAME	Tempo	Store	Song clear
	120	[Yes]	[Yes]
<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +

このスイッチを押すと次の画面になります。

③ソング名の下、+、-キーのどちらかを押すと、ディスプレイがつぎのようになります。

SONG) ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ&*()!#\$%							
[low] [up] [prv] [nxt]							
<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +	<input type="checkbox"/> -	<input type="checkbox"/> +

曲にまだ名前がついていないときは、ソング名の部分が空白になっています。すでに名前がある場合でも、同じ方法で新しい名前に変更できます。名前は8文字以内でつけてください。アルファベット（大文字と小文字）、記号と数字が使えます。

④ソング名の下にある+、-キーを押して、変更したい文字の下にアンダーラインを移動します+キーをおすとラインは右に、-キーを押すとラインは左に移動します。

アンダーラインを移動すると同時に、文字が入力されていきます。最後の8文字目も+キーか-キーを押して文字を入力します。（-キーを押すと、1文字ずつ戻すことができます。）

⑤ディスプレイの右下にある+、-キーを使ってアルファベットなどの文字を選択します。

[prv] の下の-キーを押すと、文字を右から左方向に選択できます。

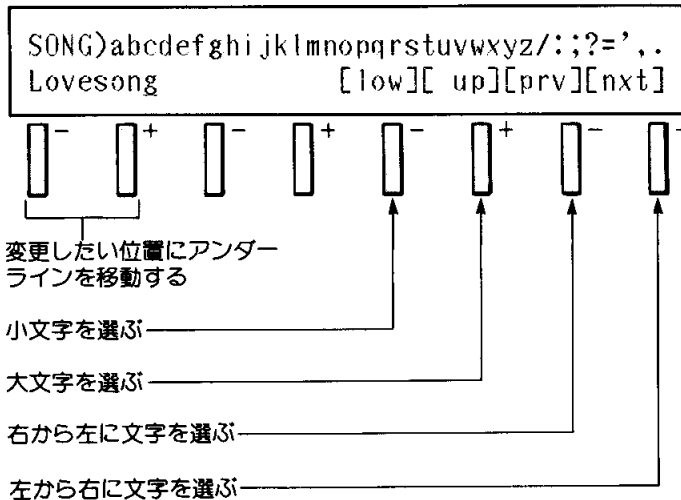
[nxt] の下の+キーを押すと、左から右方向に文字を選択できます。

アルファベットの太文字と * () / # \$ % の文字を選択するときは [UP] の下にある+キーを押します。

アルファベットの太文字と / : ; ? = ' , . を選ぶときは、[low]の下にある-キーを押します。

数字と、+、-は、テンキーの1から0と+、-のキーを使って選択します。

ここでは、「Lovesong」という名前をつけてみました。



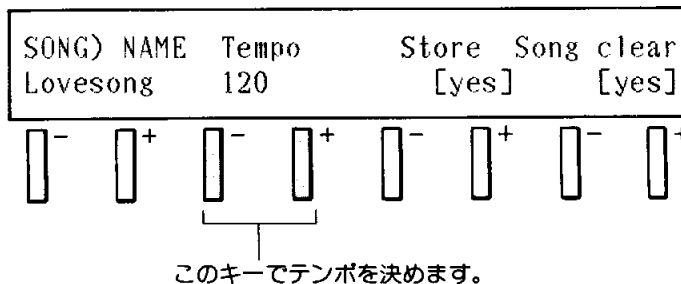
⑥ここで名前を入力しただけでは、ソングネームとして本体には記憶されません。そこで、必ず「ソングの登録」という操作を行ってください。登録してはじめて、ソングネームがメモリーされるのです。69ページの「ソングの登録」を参考にしてください。

テンポを覚えさせよう (Tempo)

曲（ソング）ごとにテンポも一緒に覚えさせます。

8つの曲にはアップテンポの軽快な曲もあればバラードもありと、いろいろな曲を録音しました。

一発選曲できても、曲を選ぶたびにテンポを指定するのはめんどろだといった場合。TQ5では、1曲ごとにテンポを覚えさせることができます。ですから曲を選んでSTARTスイッチを押すだけで、いつも決まったテンポで再生できます。



テンポの下の+、-キーでテンポ（曲の速さ）を決めます。

♩ = 60~180の範囲で設定します。

次に曲を選んだときには、ここで決めて登録したテンポで演奏できます。

* ノーマル録音で指定したテンポは、録音のためのテンポです。

* テンポは指定しただけでは登録されません。

「ソングの登録」を行ってください（69 ページ）。

音色の登録

録音した音色で登録する

「ソングの登録」を行うと、ソングネームとテンポの他に、その曲を録音したときに使った音色も同様にメモリーされます。ですから希望のソングを呼び出した場合に、そのたびにいちいち新しい音色をセットする必要がないのです。例えば、プリセット07番ピアノの音色で録音した演奏は、「ソングの登録」の操作で「この曲はプリセット07番の音色」と記録されます。登録後このソングを選ぶと自動的に07番の音色が選ばれます。

注意

- ・ソングの登録で登録されるのは音色番号だけです。音色のデータが登録されるわけではありません。そのためユーザー音色やカード音色で録音・登録したあとで、音色データの変更（エディット）を行うと、変更後の音色で再生されることになります。
- ・曲の途中で「音色の切り換え」をおこなったときには、切り換えた後の音色が登録されます。録音終了後、VOICEスイッチで音色を選び直してから「登録の操作」をしてください。（67ページ）

録音後に音色を変える

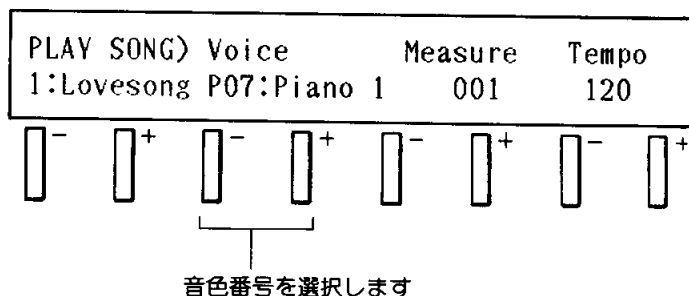
録音のときの音色とは別の音色を登録することもできます。例えば、オルガンの音色で録音したけれども、よく聴いてみるとピアノの音色に変えたいというときがあります。また録音のときには、とりあえず適当な音色で録音しておいて、音色はあとからじっくり決めたい、そんな使い方に便利です。

①音色を変更したいソングを呼び出します。

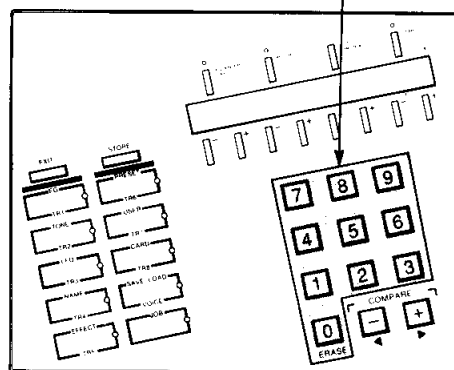
ここでは「Lovesong」という曲を例にあげて説明していきます。

②登録したい音色を選びます。

音色の選び方は録音前の音色の選び方と同じです。



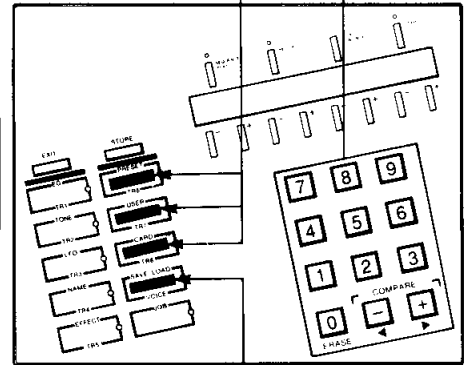
①音色番号を選択します



VOICEの下の+、-キーで音色番号を選択します。

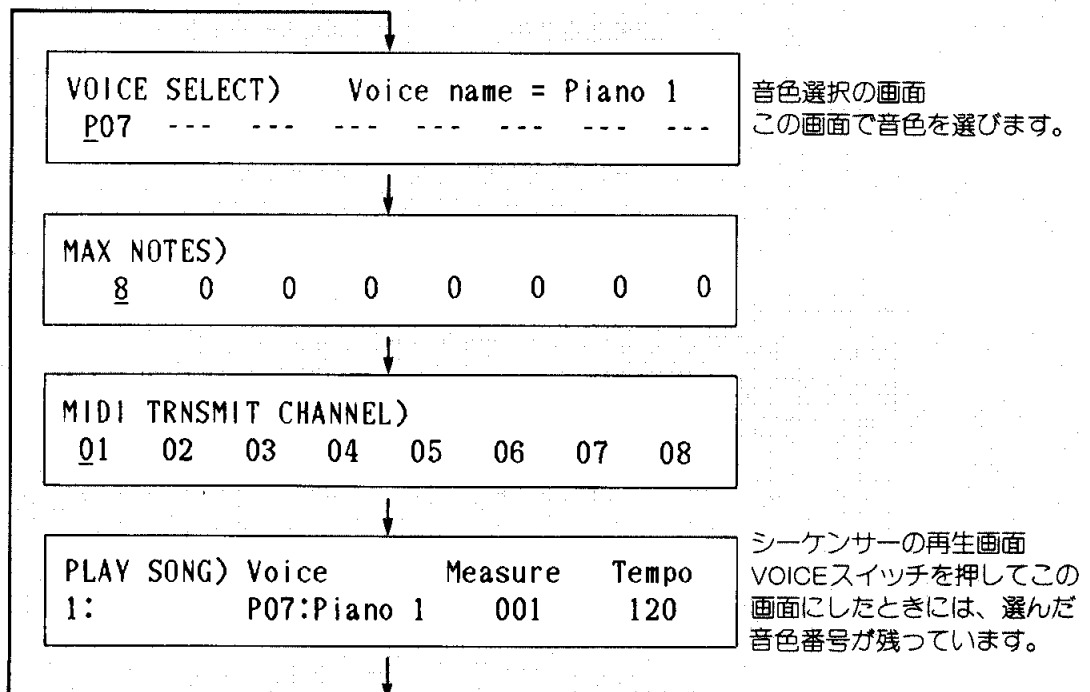
③ プリセット、ユーザー、カードはPRESET、USER、CARDスイッチで切り換えます。「P（プリセット）」、「U（ユーザー）」または「C（カード）」が表示されます。

④ テンキーまたは、テンキー部の+、-キーで音色番号を指定します。



① VOICE スイッチを押します。
ディスプレイにはそれぞれの楽器の音色番号が表示されます。
この例では、音色番号はひとつしか表示されません。

- ・音色を選んだ後でSEQ/PLAYスイッチを押すと、もともとその曲に登録してある音色にもどってしまいます。何も登録していない曲でも初期値の音色になります。
- ・VOICEスイッチを押して、シーケンサーの再生画面にもどしてください。
- ・VOICEスイッチは押すたびに、4つの画面が切り替わります。



64

曲の途中で音色を切り換える

曲の途中で音色を切り換えることができます。

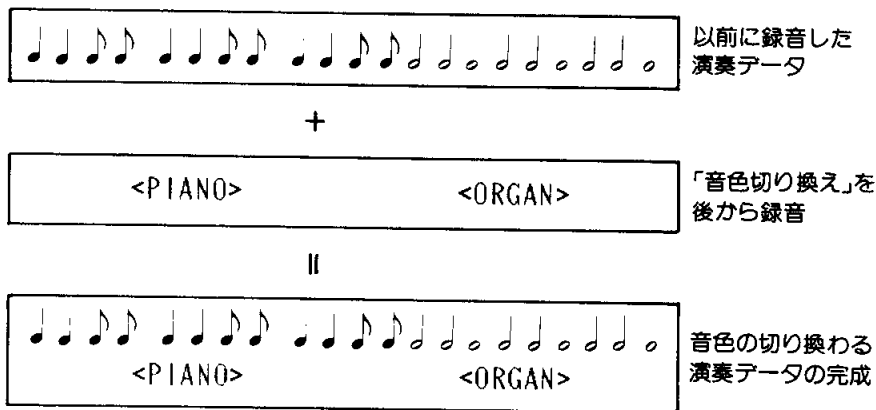
例えば、イントロ（曲のはじめ）の部分は静かなオルガンの伴奏、メロディ部分ではストリングスの音色で演奏する、という具合です。

曲の途中の音色の切り換えは録音の最中に行います。

すでに録音し終わって、録音後に音色の切り換えをしたいときには、「重ね録音」をします。

つまり録音した演奏を聴きながら、「音色の切り換え」だけを後から録音するわけです。

TQ5のシーケンサーは「重ね録音方式」ですから、以前の演奏が消えずにそのまま残っています。

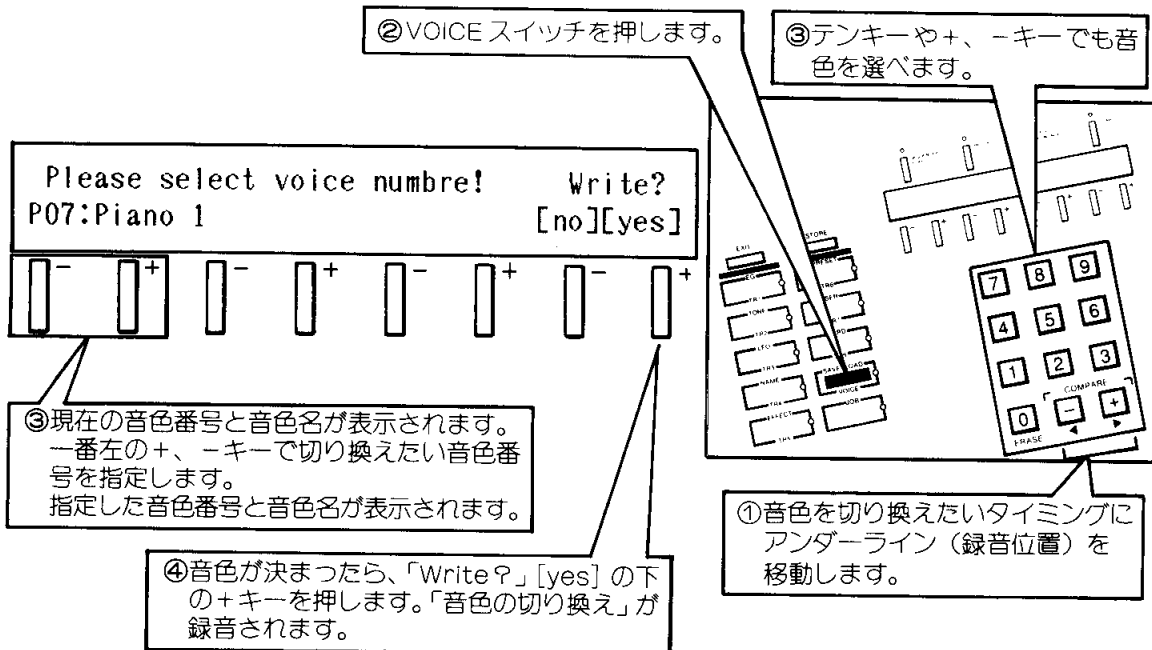


音色の切り換え

●ノーマル録音のとき

音色を切り換えたいタイミングで、テンキーで2桁の音色番号を指定します。
一の位を指定し終わったときに録音できます。

●ステップ録音のとき



- * 番号を指定しただけでは、録音されません。ゆっくりと音色を選んでください。
- * この画面のときには、鍵盤を弾いても「音符」は録音されません。

「音色の切り換え」が録音されると、自動的にステップ録音の画面にもどります。
アンダーラインの位置に [p] が表示されます。

- * [p] は音色切り換え（プログラムチェンジ）の略です。

M031 ♪ | ◆-----+p-----+-----+-----|
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

- * 音符が録音されているタイミングに音色切り換えを録音すると、音符録音のマーク(◆)が消えて[p]が表示されます。しかし音符が消えたわけではありません。
- * 「音色切り換え」をしたくないときには [no] の下のキーを押します。
ステップ録音の画面にもどります。

注意

音色メモリー（プリセット、ユーザー、カードの別）を切り換えることはできません。

例えば今まで、プリセット音色を選んで録音しているときに、ユーザー音色やカード音色に切り換えることはできません。

PRESET、USER、CARDスイッチを押しても反応しません。

- ・ 言い換えると、ひとつのトラックでは、ひとつの音色メモリーしか選べません。マルチトラックで録音しているときには、あるトラックでプリセット音色、別のトラックではユーザー音色といった使い方もできます。
(マルチトラック録音→71ページ)

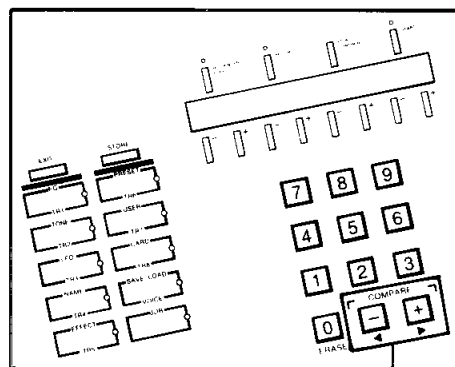
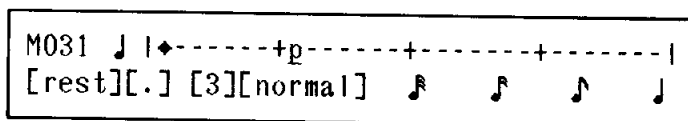
- ・ 「音色の切り換え」を「音符」と同じ位置（タイミング）に録音すると、再生のときに、音の出初めが多少遅れることがあります。編曲に余裕があれば「音符」より少し前のタイミングに「音色の切り換え」を録音しておくといよいでしょう。

- ・ 「音符」がまだ鳴っているタイミングに「音色の切り換え」を録音すると、再生時に「音色の切り換え」のタイミングで音が途切れます。

「音色の切り換え」の消し方

まちがって別の「音色の切り換え」を録音してしまったときには、次のようにして訂正します。

ステップ録音の録音状態にします。



アンダーラインを移動します。

- ・テンキー部の+、-キー（◀▶キー）でアンダーラインを [p] の位置に移動します。
- ・テンキーの0（ERASE）を押します。
- ・アンダーラインの位置の [p]（音色の切り換え）が消えます。

注意

- ・「音色の切り換え」と「音符」が同じ位置（タイミング）に録音されているときには、「音符」も一緒に消えます。
- ・ノーマル録音では、「音色の切り換え」だけを消すことはできません。1小節を録音し直します。（「パンチ録音」（109ページ））

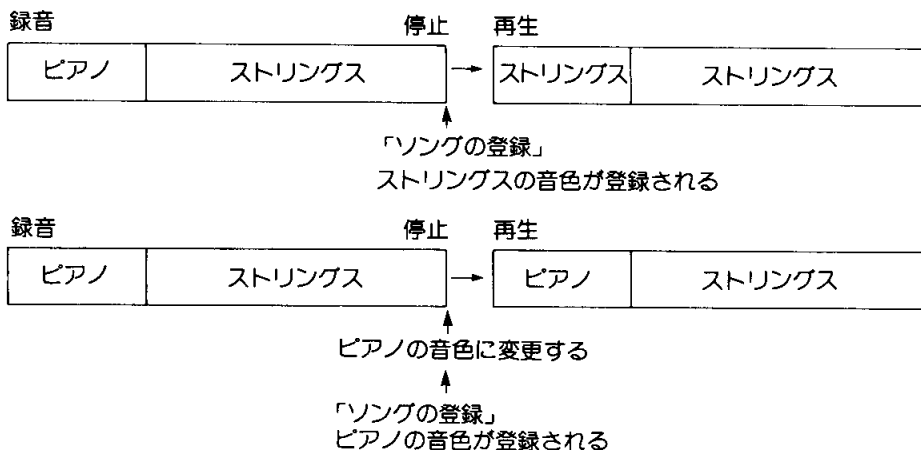
なお曲の途中で「音色の切り換え」は、演奏データの一部になります。そのため「ソングの登録」は必要ありません。

登録の前に

曲の途中での「音色の切り換え」は登録の操作は必要ありませんが、「音色の切り換え」を行うとソングのデータとして登録される音色に影響があります。

例えば、曲の出だしはピアノの音色で始まり、途中からのストリングスに切り換えたときを考えてみましょう。録音が終わった時点ではストリングスの音色が選ばれています。このまま「ソングの登録」を行うと、ストリングスの音色が登録されてしまいます。

次回このソングを選択すると、ストリングスの音色で再生されます。ピアノの音色で始まり、途中からストリングスに切り換えたいときには、ピアノの音色で「ソングの登録」を行う必要があります。「録音後に音色を変える（65 ページ）」の操作でピアノの音色にしてから、「ソングの登録」を行ってください。



エフェクトをかけよう

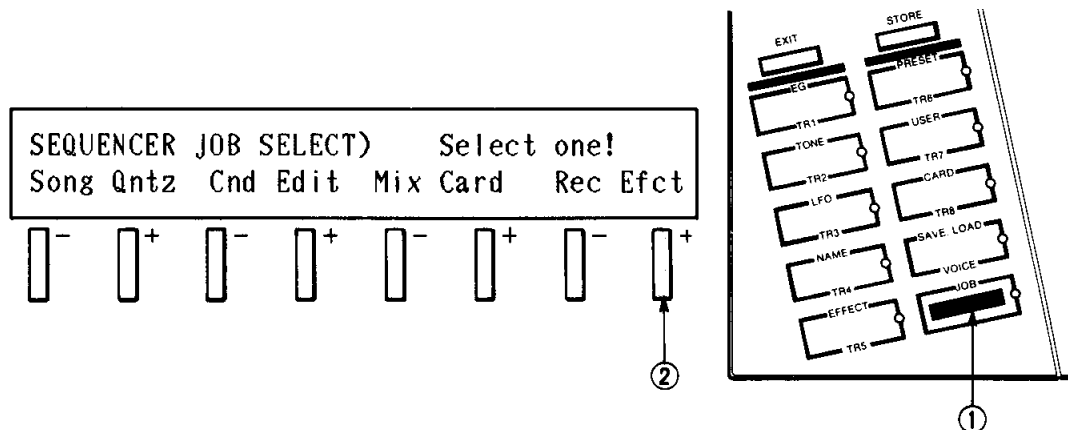
再生するときにエフェクトをかけてみましょう。

エフェクトは音色ごとに決めてありますが、シーケンサーでは、1曲ごとに最適なエフェクトを選びます。

エフェクトの設定方法

①JOBスイッチを押します。

シーケンサーのさまざまな機能のタイトルが表示されます。



*録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。

②「Efct」の下の方の+キーを押して「エフェクト」を指定します。

ディスプレイはエフェクトの設定画面に変わります。

EFCT)	Effect preset	Time	Balance
No.0	Rev. Hall	(20)	2.6sec 00

③エフェクトの種類 (Preset)、タイム (Time)、バランス (Balance) を決めます。

設定方法は、「イージーエディット」のエフェクトと同じです。

詳しくは、音源モジュール編 40 ページをご覧ください。

*エフェクトは指定しただけでは、登録されません。

「ソングの登録」の操作を行ってください。(69 ページ)

注意

音色ごとに設定してあるエフェクトは、シーケンサー機能では一時的に無視されます。

シーケンサーの曲ごとに、その曲で使用するすべての音色に共通して、ここで設定したエフェクトがかかります。

ただし、音色ごとに設定してあるエフェクトが消えてしまうわけではありません。

音源モジュール機能の「1音色の呼び出し」に戻れば、音色ごとに設定してあるエフェクト効果がかけられます。

音源モジュール機能では、音色ごとのエフェクトデータを音色から切り離し、「シーケンサーの曲ごとの専用のエフェクトデータ」を使用することになります。

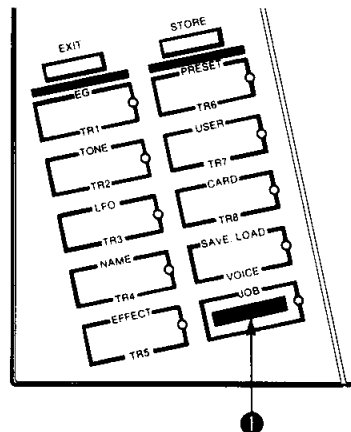
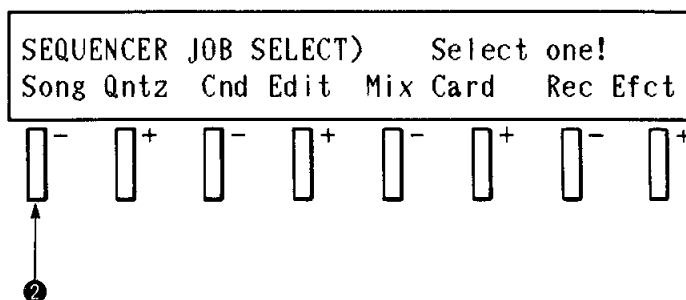
ソングの登録 (STORE)

ソングの名前、テンポ、音色、エフェクトの指定が終わったら登録の操作をします。
登録の操作をしないとソングデータとして記録されません。

登録のしかた

①JOBスイッチを押します。

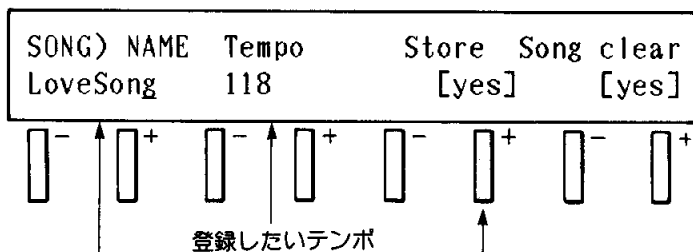
シーケンサーのさまざまな機能のタイトルが表示されます。



* 録音中や再生中にJOBスイッチを押しても反応しません。

②「Song」の下の-キーを押します。

ディスプレイは次のように変わります。



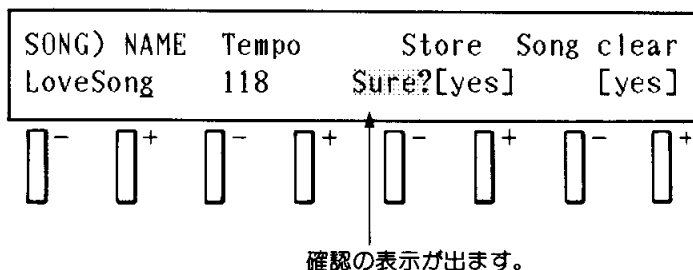
この曲につけた名前
(ソングネーム)

登録したいテンポ

③ [yes] の下の+キーを押します。

③「Store」の下の方キーを押します。

「Sure?」(本当にソングの登録をしてもいいですか?)と確認のメッセージが表示されます。











確認の表示が出ます。

* ソングの登録を行うと、以前に登録されていたデータは消えてしまいます。

* 登録を止めたいときには、JOBスイッチを押します。
メニュー画面にもどります。

④登録してよければ、再度 [yes] の下の+キーを押します。
登録が実行されて「Completed / 」が表示されます。

SONG) Name	Tempo	Store	Song Clear
LoveSong	118	Completed!	[yes]
			
			

次回、このソングを選ぶと、今登録したデータが自動的に設定されます。

この章のまとめ

- ・いつも同じ設定で再生させるには、「ソングの登録」の操作が必要です。(60 ページ)
- ・ソングの名前とテンポは、JOBスイッチを押した後、「Song」を選択します。(61 ページ)
 - ・ソングの名前は8文字以内です。
 - ・「Tempo」の下の方、+、-キーで登録するテンポを決めます。
- ・録音時の音色で登録するには音色を選び直す必要はありません。(63 ページ)
- ・録音時と別の音色を登録するには、音色を選び直します。(63 ページ)
- ・曲の途中の音色の切り換えは録音の最中に行います。(65 ページ)
すでに録音し終わって、録音後に音色の切り換えをしたいときには、「重ね録音」をします。(65 ページ)
- ・曲ごとに最適なエフェクトを設定します。JOBスイッチを押し、「Efct」を指定します。
設定方法は音源モジュールのエフェクトと同じです。(68 ページ)
- ・登録は次の手順で行います。(69 ページ)
 - ①JOBを押します。
 - ②「Song」を選択します。
 - ③「Store」の下の方、+キーを押します。
 - ④再度「Store」の下の方、+キーを押します。

第5章

マルチトラック録音に挑戦

いよいよシーケンサーの醍醐味であるマルチトラック録音に挑戦しましょう。

8つのパートの演奏を別々に録音してひとつの曲を作り上げていきます。

8トラックシーケンサー

トラックとは

ピアノのソロ演奏などを除くと多くの音楽では、リズムのパート、伴奏のパート、メロディのパートなどに分かれています。そしてそれぞれのパートは、例えば伴奏はピアノとギター、メロディーはトランペットなどというように別の楽器（音色）で演奏されています。

TQ5のシーケンサーでは、このようなひとつの曲の中で別々の楽器で、別々のパートの演奏を録音することができます。

パート別の演奏を録音する場所を「トラック」といいます。

TQ5はこのトラックを8つ持っています。基本的にはひとつのトラックにひとつのパート（楽器）の演奏を録音します。一度に全部のパートの演奏を録音することはできません。もっとも録音できたとしても、一度にすべてのパートをあなたの10本の指では弾けませんよね。

そこで、ひとつのパートを演奏して録音します。次に以前に録音したパートの演奏を聴きながら、別のパートを演奏して録音していきます。すべてのパートの録音が終われば曲は完成です。すべてのパートを同時に演奏させればひとりオーケストラの出来上がりです。

ソング1

The image shows a musical score for 'Song 1' with 8 tracks. The tracks are labeled on the left and right sides. Track 1 is the Harp part (ハーブのパート), Track 2 is the Flute part (フラスのパート), Track 7 is the Piano part (ピアノのパート), and Track 8 is the Bass part (ベースのパート). The score is written on a grand staff with 8 staves. The first four staves are grouped together, and the last four staves are grouped together. The first four staves are labeled 'トラック1', 'トラック2', 'トラック7', and 'トラック8' from top to bottom. The last four staves are labeled 'ハーブのパート', 'フラスのパート', 'ピアノのパート', and 'ベースのパート' from top to bottom. The score is written in a standard musical notation with notes, rests, and bar lines.

トラックはそれぞれの曲に8つずつあります。

マルチモードと マルチトラック

複数のパートの演奏を録音するにあたって確認しておくことがあります。

TQ5は最大で同時に8音色まで出すことができましたね。また同じタイミングで8和音まで演奏することができます。

このことは音源モジュール編の「マルチモード（76ページ）」で説明しました。

TQ5の中には8つの楽器があり、8和音を8つの楽器に振り分ける作業をしましたね。

*忘れてしまった人やまだ「マルチモード」の項をお読みになっていない方は、ぜひ次のページに目を通しておいってください。

- ・最大同時発音数（音源モジュール編 76ページ）
- ・8つの楽器………TQ5はシンセサイザー8台分 / /
（音源モジュール編 78ページ）

また時間があれば、「マルチモードを設定してみよう」（音源モジュール編 81ページ～91ページ）も併せてお読みください。

というのは、「マルチモード」では8つの楽器を同時に呼び出して演奏するのですが、「マルチトラック録音」は、その8つの楽器をひとつずつ録音して一緒に再生する（自動演奏させる）ことなのです。「マルチモード」を理解していると、マルチトラック録音の理解が早まります。

ひとつのパートの演奏は基本的にひとつの楽器が受け持ちます。

ではひとつのパート(楽器)が何和音まで使えるのか？

TQ5では最大で8和音まで演奏できます。

ですからソロ演奏ならば8和音すべて使えますが、ピアノとギターのデュエットでは8和音を2つの楽器で分け合って使うのです。例えばピアノは5和音、ギターは3和音というように割り振ります。

このように「マルチトラック」録音では、録音をはじめる前に楽器の編成とそれぞれの楽器が何和音受け持つのかを決めてから録音します。

* 音源モジュールのマルチモードでは「楽器」という言葉を使って8和音の割り振りを説明しました。シーケンサーでは8和音をトラックに割り振ると考えてください。

* ひとつのトラックに8和音まで録音できますので、複数のMIDI楽器（シンセサイザーや音源モジュール）を使えば同じタイミングに64和音までコントロールできます。

その場合には発音数を割り振る必要はありません。

パートタイプで楽器の編成を選ぶ

TQ5には、いくつかの楽器（音色）の組合せ方をあらかじめ7種類用意してあります。

この楽器の編成を「パートタイプ」と呼びます。パートタイプを選ぶだけで、楽器の種類や発音数が自動的に設定されます。

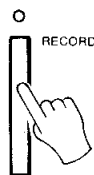
パートタイプの選択

①RECORDスイッチを押します。

RECORDスイッチの赤いランプがつきます。

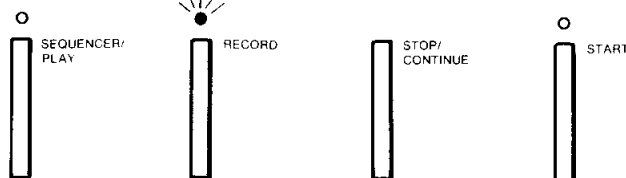
②もう一度RECORDスイッチを押してください。

「赤いランプから緑のランプに変わります。」



RECORDスイッチのランプが緑色になり、ディスプレイは次のように変わります。

緑のランプがつきます。

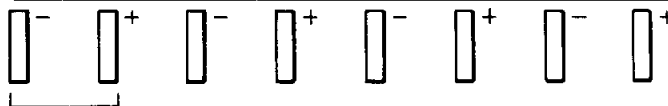


PART TYPE) Please select part type!
[-] [+]

③「PART TYPE」の下に+、-キーを押します。

ディスプレイは次のように変わります。

PART TYPE) Piano
1:Piano solo 8



このキーでパートタイプを選びます。

この表示は、「これから録音するのは、ピアノの音色で同時に8和音まで弾けますよ」という意味です。「ピアノソロ」という名前のついたパートタイプ（楽器編成）です。

もう一度+キーを押すと「2:Pops」が表示されます。

PART TYPE)	Bass	Piano	Strings	Vibe	楽器の名称
2:Pops	1	5	1	1	発音数

このパートタイプ（楽器の編成）では、「BASS（ベース）」に1音（単音）、「Piano（ピアノ）」に5和音、「Strings（スリングス）」「Vibe（バイブ）」に1音（単音）ずつ録音できます。

同じように「PART TYPE」の下の+、-キーを押していくと、別のパートタイプが表示されます。それぞれディスプレイの上の段には楽器の名称、下の段にはその楽器で演奏できる和音数が表示されます。

「パートタイプ」には1番の「ピアノソロ」から7番の「クラシック」まで7種類あります。

このなかから好きな「パートタイプ」を選びます。

*パートタイプを選ばずに自分で楽器の編成（使用する音色と発音数）を決めることもできます。（77ページ）

④パートタイプを選んだら、RECORDスイッチを押して録音待機状態にもどします。RECORDスイッチのランプは赤に変わります。

*パートタイプを選択する画面では、録音できません。

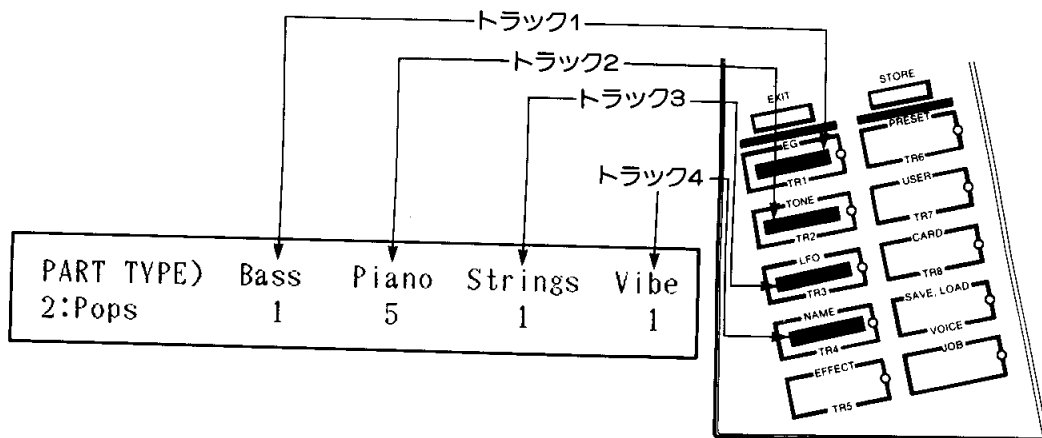
*パートタイプは、ノーマル録音、ステップ録音のどちらでも使えます。

パートタイプとトラック

パートタイプ（楽器の編成）とトラック（演奏データの記録場所）は密接な関係を持っています。

パートタイプで表示される「楽器」が左から順にトラック1、トラック2、トラック3…に対応しています。

例えば、パートタイプ2では次のように対応しています。



ベースのパートを録音するときにはトラック1、ピアノの音色で録音するときにはトラック2を選んでから録音します。

どのパートタイプも左からトラック1、2、3…の順に並んでいます。

鍵盤で各楽器の音を確認したいときには、トラックスイッチのいずれかを押します。
そのトラックに割り振られている楽器の音を鍵盤で弾くことができます。

例えば前ページの例では、「TR1」を押してトラック1を指定するとベース、「TR4」を押してトラック4を指定するとパイプの音を鍵盤で確認できます。

*表示されている発音数を超えて鍵盤を弾くと、最初に弾いた音から順番に消えていきます。

*パートタイプを選んだあとから、音色や発音数を変更することができます。
(→ 77 ページ)

〈パートタイプの種類〉

パートタイプ	トラック1	トラック2	トラック3	トラック4	トラック5	トラック6	トラック7	トラック8
1 ピアノソロ Piano solo	ピアノ 8音	×	×	×	×	×	×	×
2 ポップス Pops	ベース 1音	ピアノ 5音	ストリングス 1音	パイプ 1音	×	×	×	×
3 フュージョン Fusion	ベース 1音	ピアノ 5音	ブラス 1音	フルート 1音	×	×	×	×
4 ロック Rock	ベース 1音	ブラス 5音	ギター 2音	×	×	×	×	×
5 ジャズ Jazz	ベース 1音	ピアノ 5音	フルート 1音	パイプ 1音	×	×	×	×
6 ラテン Latin	スチールドラム 1音	ピアノ 4音	ブラス 1音	マリンバ 1音	パーカッション 1音	×	×	×
7 クラシック Classic	ハープ 3音	バイオリン 2音	チェロ 1音	フルート 1音	オーボエ 1音	×	×	×

* ×のトラックには音色が割り振られていないので鍵盤を弾いても音は出ません。
録音画面にもどるとディスプレイには「---:」と表示されます。

* ここで選択したトラックが録音トラックになります。
録音トラックは「パートタイプの画面」「録音の画面」のどちらでもトラックスイッチを押して指定できます。

楽器の編成を変更する

パートタイプで選んだ楽器の編成を変更することもできます。

例えば、「3番のパートタイプ「フュージョン」を選んだとき。「フルートではなくエレキギターがいい。」「いやこのシンセプラスで和音を弾きたい」という場合などに楽器の編成を変更します。

ここでは、この例を実際にやってみましょう。

準備 まずパートタイプの3番フュージョンを選びます。

- ・SEQ/PLAYを押してシーケンサー機能にします。
- ・RECORDスイッチを押します。スイッチに赤いランプがつきます。
- ・もう一度RECORDスイッチを押します。スイッチに緑のランプがつきます。
- ・「PART TYPE」の下の方の+、-キーでパートタイプの3番を選択します。

楽器の編成を変える
(音色の選び方)

◎例題 1フルートをエレキギターに変える

	トラック1	トラック2	トラック3	トラック4	トラック5	トラック6	トラック7	トラック8
3 フュージョン Fusion	ベース 1音	ピアノ 5音	ブラス 1音	フルート 1音	×	×	×	×

エレキギター
1音

●トラック4のフルートをエレキギターに変えます。

③「パートタイプ」ではプリセット音色が選んであります。ユーザー音色、カード音色にしたいときには、USERまたはCARDスイッチを押します。
「U (ユーザー)」または「C (カード)」が表示されます。
この例ではプリセット音色のままにしておきます。

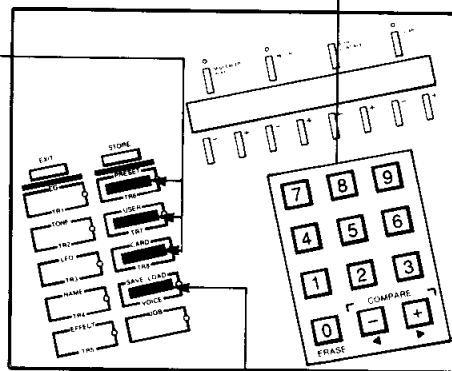
④テンキーまたは、テンキー部の+、-キーで音色番号を指定します。この例では09の「DistGuitar」を選びます。

VOICE SELECT)
P62 P08 P01 P79 --- --- ---
- + - + - + - +

②変更したい楽器を+、-キーで選びます。
選択した楽器の音色番号にアンダーラインが移動します。右上に音色名が表示されます。この例では4番目の楽器(フルート)を選びます。

①VOICEスイッチを押します。
ディスプレイにはそれぞれの楽器の音色番号が表示されています。

音色番号は左からトラック1から8に対応しています。



発音数の割り振り

◎例題2 フルートをやめて、シンセブラスの発音数を増やす。

	トラック1	トラック2	トラック3	トラック4	トラック5	トラック6	トラック7	トラック8
3 フュージョン Fusion	ベース 1音	ピアノ 5音	ブラス 1音	フルート 1音	×	×	×	×

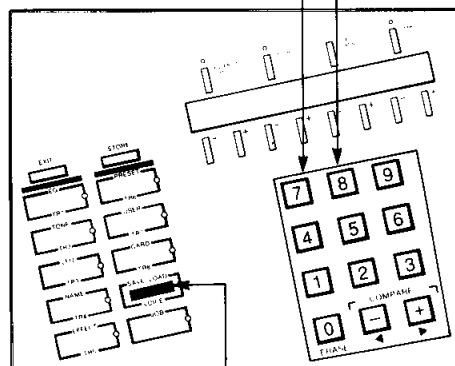
ブラス 2音	×
-----------	---

●フルートの発音数を減らして(発音数を0にして)、ブラスの発音数を増やします。

⑤テンキーまたはテンキー部の+、-キーで発音数を増やします。
この例では、「2」を指定します。

③テンキーまたは、テンキー部の+、-キーで発音数を「0」にします。

MAX NOTES)							
1	5	1	1	0	0	0	0
-	+	-	+	-	+	-	+



②発音数を減らしたい楽器を+、-キーで選びます。選択した楽器の音色番号にアンダーラインが移動します。
この例では4番目の楽器(フルート)を選びます。

①VOICEスイッチを2回押します。
ディスプレイにはそれぞれの楽器の発音数が表示されます。
* 例題1から続けて操作するときには、VOICEスイッチを1回だけ押します。

④発音数を増やしたい楽器を+、-キーで選びます。
この例では、3番目の楽器(ブラス)を選びます。

* 各楽器の発音数の合計が8音を超えることはできません。

* ある楽器の発音数を増やすときには、別の楽器の発音数を先に減らします。

* 言い換えれば、合計8音を楽器に割り振ると考えることができます。

変更が終わったら、VOICEスイッチを2回押します。 再生の画面にもどります。

注意

- ・SEQ/PLAYスイッチを押すと変更した音色や発音数の設定は失われてしまいます。
設定が終わったら録音前に「ソングの登録」をしておくとい良いでしょう。
- ・パートタイプで選んだ楽器の編成(最大発音数と音色番号)を変更しても、パートタイプ自体が変わるわけではありません。
変更した楽器編成はソングのデータとしてソングごとに記憶できます。
パートタイプはいつも決められた楽器編成(76ページ)です。

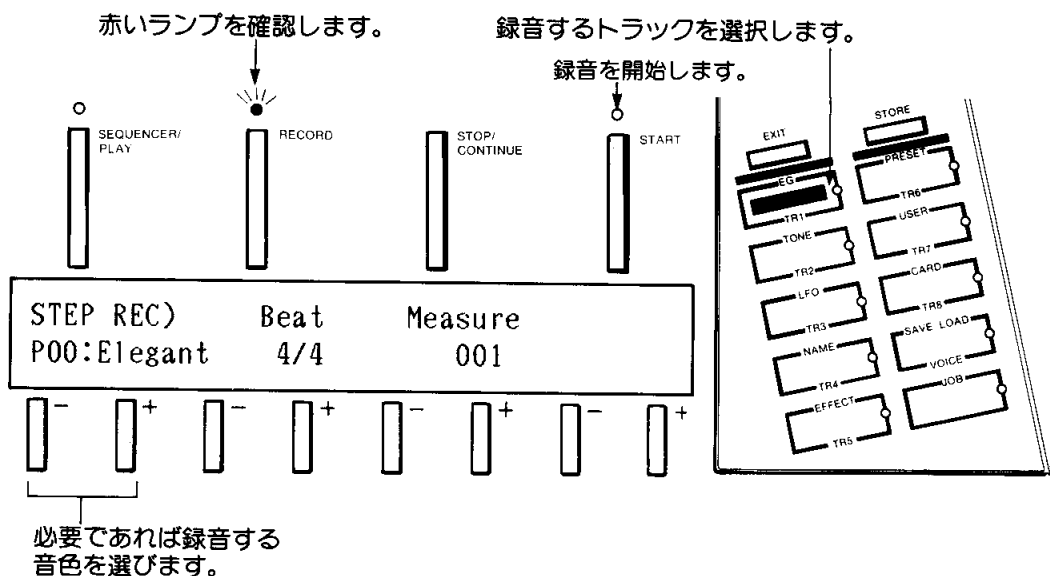
録音のしかた

マルチトラックの録音

マルチトラックの録音といっても、第4章までで学んだ録音のしかたと同じです。パートタイプで楽器の編成（各トラックの最大発音数と音色）を決めてから、録音するトラックを指定しながら録音していくだけです。

録音するトラックをトラックスイッチで指定すれば、自動的に録音する音色になります。

もし録音する音色を変えたいければ、音色名の下の+、-キーで音色を選びます。



STARTスイッチを押すと録音がはじまります。
最初のトラックを録音し終わったらSTOPスイッチを押します。
画面は再生の画面に変わります。
RECORDスイッチを押し、次に録音するトラックをトラックスイッチで選択します。
この繰り返しで録音していきます。

* 82 ページで実例をあげて説明します。

トラックスイッチの使い方

トラックスイッチは録音や再生するトラックを選ぶときに使います。

録音待機状態では、トラックスイッチを押すとそのトラックが録音トラックになります。

選択したトラックスイッチのランプが赤くつきます。

既に演奏データが録音されているトラックは緑のランプがついています。

* 録音は1トラックずつ行います。2つ以上のトラックを同時に録音することはできません。

再生状態（録音待機や録音中以外）は、トラックスイッチを押すたび状態が変わります。

既に演奏データが録音されているトラックは緑のランプがついています。

トラックスイッチを押すと、緑の点滅に変わります。

緑の点滅のトラックの演奏データは再生されません。（ミュート状態）

もう一度トラックスイッチを押すと、緑の点灯に変わり音がでる状態になります。

トラックスイッチのランプで、そのトラックの状態を確認できます。

緑の点灯	再生
緑の点滅	ミュート（音を出さない）
赤	録音（演奏データがあれば同時に再生）
消灯	演奏データがない

- * 録音、再生中に状態を切り換えることはできません。
切り換えは停止状態で行なってください。
- * 録音状態では、再生とミュートを切り換えることはできません。

マルチモードとパートタイプ

音源モジュールの「マルチモード」と「パートタイプ」には、密接な関係があります。
各楽器の設定のうち、音源モジュールとシーケンサーで共用している設定があります。

音源モジュールマルチモード	シーケンサー
各楽器の最大発音数	シーケンサー機能で設定(パートタイプ、VOICEスイッチ→77ページ)
各楽器の音色	シーケンサー機能で設定(パートタイプ、VOICEスイッチ→77ページ)
各楽器(各トラック)のMIDI受信チャンネル	シーケンサー機能で設定(レシーブチャンネル):全トラック共通
各楽器(各トラック)の音量	
各楽器(各トラック)出力端子	
各楽器(各トラック)の音程のズレ	
各楽器(各トラック)の発音範囲	
各楽器(各トラック)のLFO	
マルチモードのエフェクト	シーケンサー機能で設定(JOBエフェクト→68ページ)

上の表でわかるように、「最大発音数」と「音色番号」そして「エフェクト」の設定は、音源モジュール、シーケンサーそれぞれで設定します。

- ・「最大発音数」、「音色番号」、「エフェクト」の設定は、音源モジュールとシーケンサーではお互いに影響しません。
- ・シーケンサーではVOICEスイッチで「最大発音数」「音色番号」の設定を行います。
パートタイプは、この設定を自動的に行う便利機能です。
- ・シーケンサーで「最大発音数」や「音色番号」を設定して、音源モジュール機能に戻れば「マルチモード」での設定は消えずに残っています。
- ・シーケンサーで設定した「最大発音数」、「音色番号」、「エフェクト」は、ソングごとに記憶できます。(登録の操作が必要です)
ソングを選べば記憶した設定になります。

しかしこれ以外の設定は、音源モジュールとシーケンサーで同じ設定を使います。そのため、例えば音源モジュールのマルチモードで「発音範囲の設定」によっては、シーケンサーでは音が出ない音域ができてしまうことになります。そのような場合には、音源モジュールに戻って、「発音範囲」を設定しなおしてください。
シーケンサーでは「発音範囲」を設定することはできません。

マルチトラック録音の実例

ここでは、実例を示しながらマルチトラック録音をしてみましょう。

マルチトラック録音とは、複数の楽器（パート）の演奏をひとつずつ別のトラックに録音して曲を仕上げる録音方法です。

ステップ録音、ノーマル録音どちらでも好きな方法で録音してください。

ここではステップ録音で説明していきます。演奏に自信のある方はノーマル録音でチャレンジしてみましょう。

録音前の準備

①空白の曲を選ぶ

まず、SEQ/PLAYスイッチを押してシーケンサー機能にします。

「SONG」の下の方の+、-スイッチでこれから録音する曲を選びます。

何も録音されていない曲を選んでください。（30ページ）

8曲とも録音してあるときには、消しても良い曲を選んでから「ソングクリア」を行なってください。（27ページ）

②ステップ録音を選択します。（31ページ）

・JOBスイッチを押します。

・「Rec」の下の方の+キーを押します。

・「step」（ステップ録音）を選択します。

* ノーマル録音で録音する方は「normal」を選択してください。

③録音条件を確認します。（32ページ）

RECORDスイッチを押します。

拍子「Beat」は4/4、録音開始小節「Measure」は001のままにしておきます。

4パートにチャレンジ

次の2小節を録音してみることにします。

ハーブ（トラック4）

ブラス（トラック3）

ピアノ（トラック2）

ベース（トラック1）

①楽器の編成を決める

ハーブ（1音）、ピアノ（4音）、ベース（1音）、ブラス（2音）のマルチトラック録音を行います。

* ブラスのパートは後ほど録音します。

「楽器の編成を変更する」の例題1の楽器編成にします。

77ページにしたがってパートタイプを選んだあとフルートをハーブ（プリセット53番）に変更します。ピアノの発音数を4音、ブラスを2音にします。

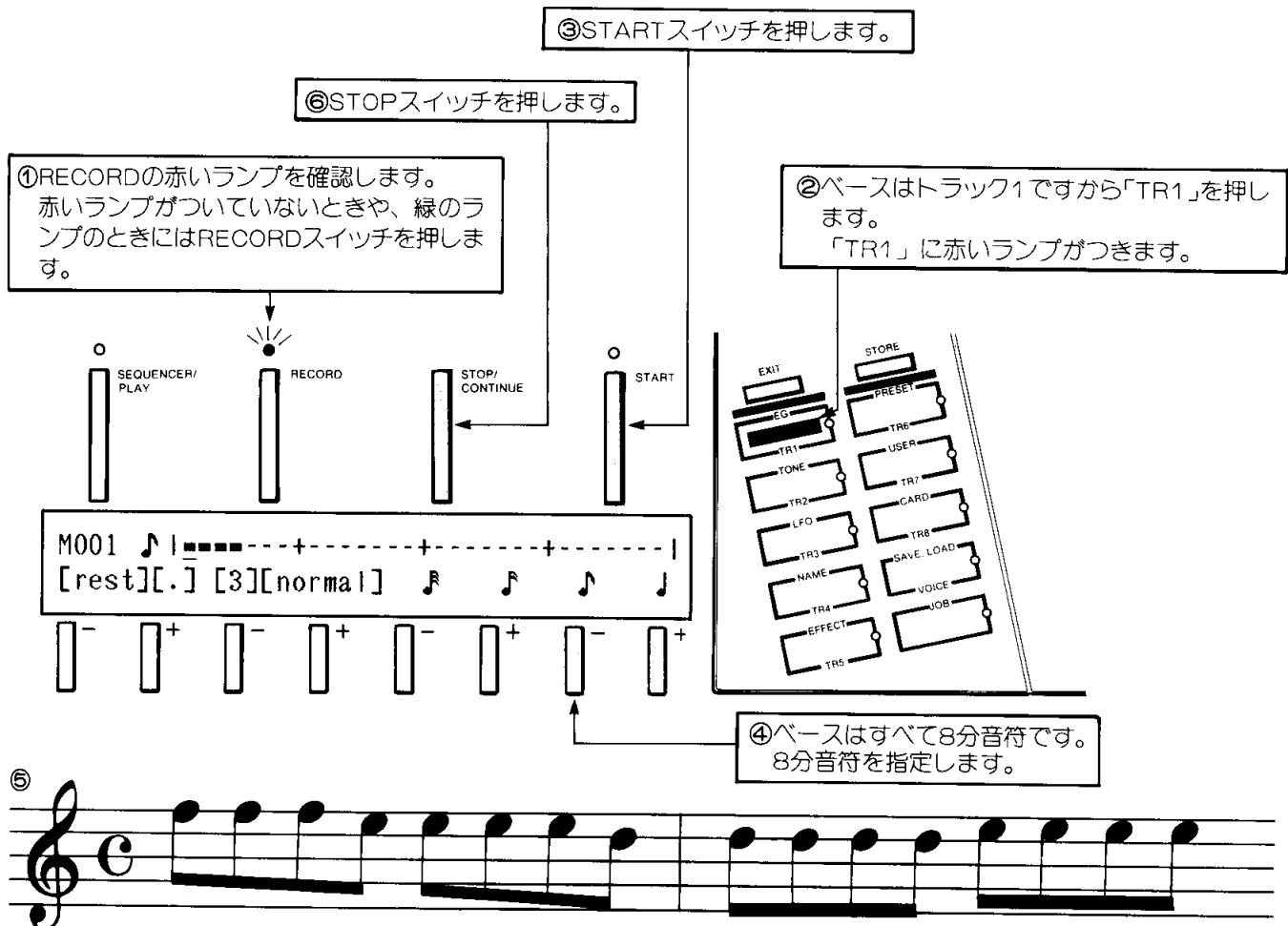
どのパート（楽器）から録音してもかまいません。一般的にはベースなどリズムのもとになる楽器から録音していきます。
現在のトラックは次のようになっています。

トラック1……………ベース（プリセット62番）
トラック2……………ピアノ（プリセット08番）
トラック3……………プラス（プリセット01番）
トラック4……………ハーブ（プリセット53番）

トラック1（ベース）、トラック2（ピアノ）、トラック4（ハーブ）の順に録音します。

ベースパートの録音

まず、リズムの要となるベースパートから録音します。

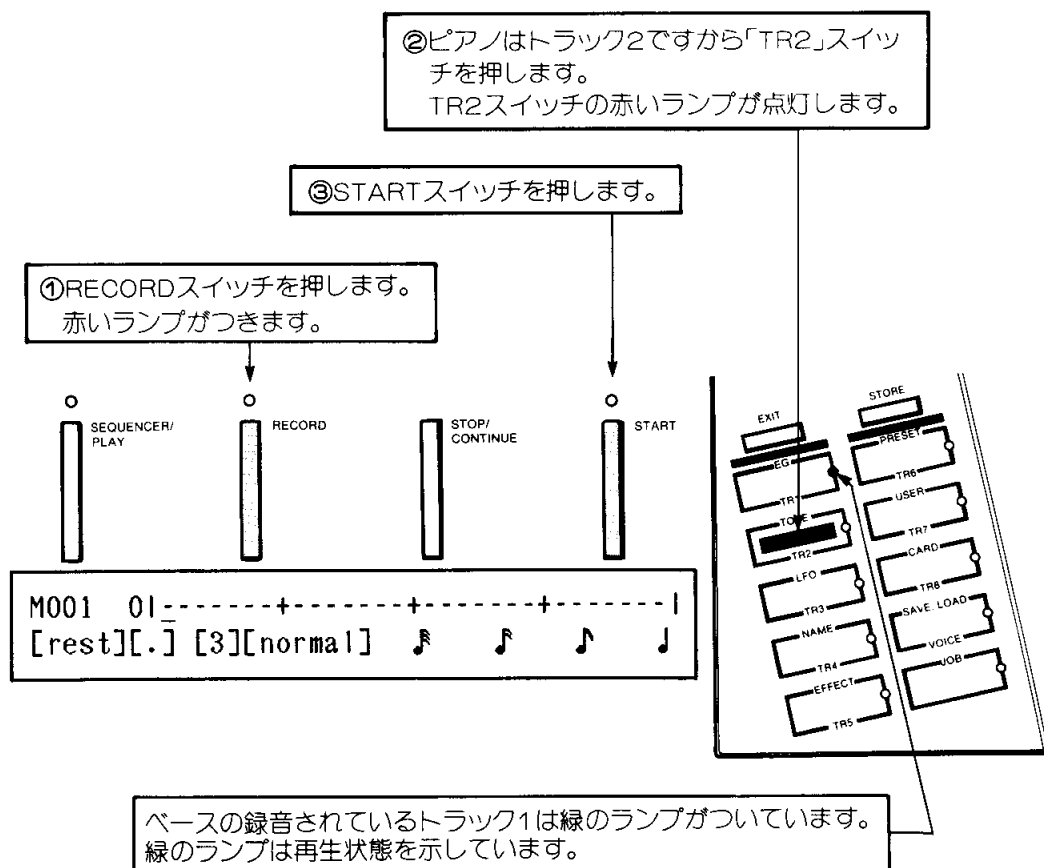


「ラララソソソソファ」、「ファファファファソソソソ」の順番に鍵盤を弾きます。
ベースパートの録音は以上です。

⑦今録音したトラック1を聴いてみましょう。
TR1が緑のランプに変わっています。これはトラック1に演奏データがあることを示しています。
STARTスイッチを押すと再生が始まり、STOPスイッチで再生が停止します。
うまく録音できていましたか？ OKなら次ぎのトラックに録音に進みましょう。
もし、まちがえてしまったら49ページの方法で訂正します。

ピアノパートの録音

次にピアノのパートを録音します。



④ピアノパートはちょっと複雑なリズムです。
次のようにスイッチを押していきます。

1

M001 J |-----+-----+-----+-----|
[rest]*.* [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

① ④ ③ ②

4

M002 J |-----+-----+-----+-----|
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

① ② ③



2 8分音符と符点4分音符のタイですから実際は
2分音符の長さです。

M001 J |-----+-----+-----+-----|
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

① ② ③

3 8分音符と2分音符のタイです。
8分音符を指定した後、4分音符を2回指定しま
す。

M001 20 |-----+-----+-----+-----|
[rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

① ② ③ ④

⑥STOPスイッチを押します。
ピアノパートの録音は以上です。

* ノーマル録音のときは録音をはじめると、さきほど録音したベースの音が聞こえます。
メトロノームとベースにあわせてピアノを録音します。

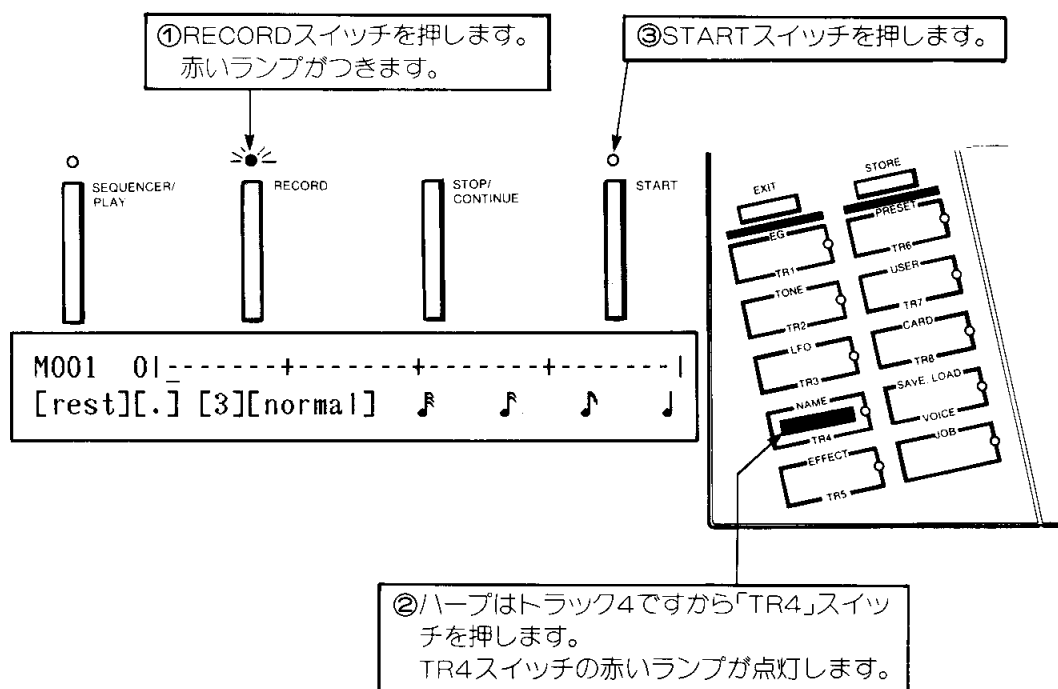
* ベースの音を聴きたくないときには、再生の画面でトラック1のスイッチを押します。緑のランプが点滅します。これは、「このトラックには演奏データが録音されていますが、今は音を出しません。」という状態で「ミュート」といいます。

* 録音の画面ではミュートと再生の切り替えはできません。
録音の画面でTRスイッチを押すと、「録音トラックの選択」になります。

⑥今録音したトラック2を聴いてみます。
TR1とTR2に緑のランプが点灯しています。
TR2（ピアノのパート）だけを聴きたいときには、TR1スイッチを押してトラック1（ベースのパート）の音を出さないようにします。TR1の緑のランプが点滅します。
STARTスイッチを押します。
うまく録音できていましたか？ OKなら次のトラックに録音に進みましょう。
もし、まちがえてしまったら49ページの方法で訂正します。

ハーブパートの録音

最後にトラック4（ハーブ）を録音します。



ベースの録音されているトラック1と、ピアノの録音されているトラック2は緑のランプがついています。
緑のランプは再生状態を示しています。

④次のようにスイッチを押します。

1

M001 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1 2 3 4

C3

3

M001 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1 2 3

C3

2 8分音符2つのタイです。
 4分音符を指定するか、8分音符を2回指定します。

M001 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1 2

C3

4 8分音符2つのタイです。

M001 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1

C3

5

M002 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1 2 3 4 5 6

C3

6

M002 ♪ |-----+-----+-----+-----|
 [rest][.] [3][normal] ♪ ♪ ♪ ♪

1 2 3 4 5

C3

⑤STOPスイッチを押します。

ハーブのパートの録音は以上です。

もし、まちがえてしまったら49ページの方法で訂正します。

再生のしかた

以上で3つのトラックを録音できました。

さっそく聴いてみましょう。

TR1 (ベース)、TR2 (ピアノ)、TR4 (ハーブ) スイッチが緑の点灯になっていることを確認してください。

STARTスイッチを押します。

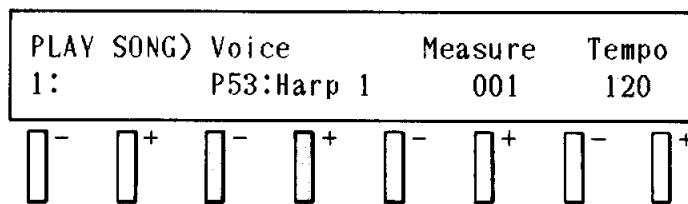
いかがですか?、たった2小節ですが、3つのパートだけでハーモニーができています。

マルチトラック録音もこのように、手軽にできるのです。

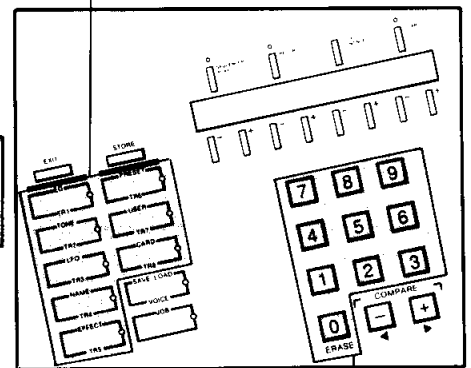
音色を変える

「VOICE」の下の方の+、-キーやテンキーで音色を変えて演奏することもできます。切り換えできるのは1トラックずつです。

- ①音色を切り換えたいトラックのトラックスイッチを押します。
トラックスイッチの緑のランプが点滅します。
②緑の点滅は「ミュート」の状態ですから音が出ません。
もう一度同じトラックスイッチを押します。
トラックスイッチの緑のランプが点灯に変わります。



- ③「VOICE」の下の方の+、-キーで音色を選びます。



- ③テンキーで音色番号を指定します。

またVOICEスイッチを押して、音色を変える方法もあります。「楽器の編成を変更する (77ページ)」をご覧ください。

*プリセット、ユーザー、カードの切り換えは、VOICEスイッチを押した後で、PRESET、USER、CARDスイッチを押します。

このように、音色は録音前に決めても、録音後に決めてもかまいません。しかしこの曲でどの音色を使用するかを決めた後で、「ソングの登録」の操作が必要です。「ソングの登録」を行わないと、演奏データは記憶されていますが、音色や発音数の設定などは記憶されません。そのためSEQ/PLAYスイッチを押すと音色や発音数の設定は失われてしまいます。

「ソングの登録」のしかたは、69ページをご覧ください。

2小節では物足りないという方、もう少し待ってください。今録音した2小節をもとに、複写や挿入などの編集機能を使って曲に仕上げていきます。

(→「マルチトラック編集の実例 (124ページ)」)

名前 (ソングネーム) をつけて「ソングの登録」を行ってください。

—この章のまとめ—

- ・パート別の演奏を録音する場所を「トラック」といいます。
TQ5は8トラックありますので、8つのパートの演奏を録音・再生できます。(72ページ)
- ・録音はひとつのトラック（パート）ごとに行います。他のトラックに録音した音を聴きながら録音していきます。
全てのトラックの録音が終わったら、まとめて再生すると8パートのオーケストラが完成します。(72ページ)
- ・TQ5の8和音をどのトラックに割り振るのかを決めてから録音を始めます。
代表的な楽器編成（パートタイプ＝音色の割り振り）が7種類用意されています。この中から好きな楽器編成を選択します。
楽器の編成はRECORDスイッチを2回押して選択します。(74ページ)
- ・選択したパートタイプに変更を加えて、自分だけの楽器編成にすることもできます。
VOICEスイッチを押して楽器編成（最大発音数と音色番号）を変更します。変更した楽器編成は演奏データと共に記憶できます。(77ページ)
- ・音源モジュール機能で設定した「マルチモード」とシーケンサーで共用している設定があります。シーケンサーを使用するときには、マルチモードで発音範囲の制限や音程のズレなどはつけない方が使いやすくなります。(83ページ)

